

〔その他関連施設等研究活動〕

(1) 附属病院輸血部

1. 研究の概要

輸血療法は現代医療に不可欠な治療手段であるが、その実態は最も普及した「移植医療」である。他人の臓器（造血・免疫系・幹細胞）を最小限の検査で移入するので、致死的な副作用・合併症や難治性（致死性）新興・再興感染症の伝搬など、なお今後も引き続いて克服すべき新たな課題は出現すると予想される。既知のウイルス感染症のウインドウ期献血、スクリーニング法が未開発、あるいは問診の無効性の故に、他方では、最小量の輸血療法あるいは安全な代替療法を模索せざるをえない。自己血輸血療法やサイトカインの利用、人工血液などの開発である。

当院では手術患者の自己血をすべて輸血部医師の管理の下に、貯血を行っており、この事は適正な、最小限の輸血療法を推進する上で基礎となっている。また、危機的大量出血の際に適切に凝固因子を補充する目的で、クリオプレシテートの作成にも着手している。高次救命医療センターを受診する高度外傷患者の救命に少なからず寄与しているものとする。平成 26 年度からは自己フィブリン糊自動作成機器をいち早く導入した。本邦での導入施設に限られており、使用実績を国に報告している。また、自己フィブリン糊の有効性に関して、そのフィブリノーゲン値などを測定し、凝固および創傷治癒に至る過程を基礎的に検討する予定である。

造血幹細胞移植において重要な役割を担っている。難治性造血器悪性疾患を中心にその役割は増しており、末梢血幹細胞採取及び保存、骨髄移植時の血球血漿除去、臍帯血の保存などを行い、さらには臨床研究として顆粒球採取も行う。移植経過において血清を定期的に保存し、臨床研究を行っている。

2. 名簿

臨床講師：北川順一 Junichi Kitagawa
臨床講師：二宮空暢 Soranobu Ninomiya

3. 研究成果の発表

消化器病態学参照

4. 研究費獲得状況

消化器病態学参照

5. 発明・特許出願状況

消化器病態学参照

6. 学会活動

消化器病態学参照

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

消化器病態学参照

8. 学術賞等の受賞状況

消化器病態学参照

9. 社会活動

消化器病態学参照

10. 報告書

消化器病態学参照

11. 報道

消化器病態学参照

12. 自己評価

評価

平成 25 年 1 月から管理料 I を取得し、加えて、平成 29 年 4 月から輸血適正使用加算が算定可能となった。適正使用加算は平成 30 年も継続できている。また、自己 FFP からクリオシールシステムを用いたフィブリン糊の作成が軌道に乗り、同種 FFP からクリオプレビシテートの作成を確立した。さらに、平成 28 年 1 月からアルブミン製剤を輸血部にて管理するようになった。従来以上に輸血部が臨床に寄与する場面が増えてきている。

造血幹細胞移植分野においては、平成 28 年 1 月には、新しい遠心型血液成分分離装置 Spectra Optia を導入し、幹細胞採取を中心とした細胞治療分野の充実が図れている。

今後、中央診療部門として各診療科の臨床の手助けが少しでもできればと考えている。

現状の問題点及び対応策

輸血医療はすなわち移植医療であり、そのリスクに関して大学の臨床医といえどもまだ十分に認知されている状況にはない。また適切な輸血療法（赤血球製剤や血小板製剤の輸血適応、新鮮凍結血漿の適正かつ有効な使用方法）に関する教育が、十分なされていない。特にこれからを担う若手医師に対して、適正で安全な輸血療法に関する卒後教育を徹底する必要がある。平成 24 年度から岐阜県合同輸血療法委員会が発足し、今後は各施設のみに教育や啓蒙活動を委ねるのではなく、県全体として均一的に輸血教育を行う方向性が確認された。また、その活動が評価され、平成 26 年度には厚生労働省の血液製剤使用適正化方策調査研究事業に岐阜県として初めて採択された。

平成 24 年度から輸血部の教員が 2 人体制となり、医学研究を推進していく上で、今までと比べると大変改善されたといえるが、専任技士の不足が懸念される。また輸血細胞治療学会の認定医、認定技師が岐阜県は非常に少なく、今後認定資格を持った人材を育てていく上でも常勤技師の増員が必須と思われる。

今後の展望

造血幹細胞移植のドナーソースとして末梢血幹細胞が用いられることが多くなり、幹細胞採取件数が増加することが予想される。骨髄バンクドナーでの末梢血幹細胞採取認定は取得しておらず、今後認定の取得を目指す。また、ハイリスク移植が増えるため、顆粒球輸注やドナーリンパ球輸注などの機会が増えることも予想され、これらに対応していく必要に迫られている。

近年、癌患者の再発に対して DLT (donor lymphocyte transfusion) などの細胞治療が有効な手段となってきた。輸血医療の安全性に対する国民の強い懸念と関心の高まりに加え、今後は DNA レベルで HLA (human leukocyte antigens) を一致させたドナーのリンパ球輸注による固形癌治療など、更なる治療法の開発、研究の必要性は高い。

また造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病を適応症とする、ヒト間葉系幹細胞(MSC)を利用した再生医療等製品「テムセル®HS 注」が今後当院でも使用可能となるが、輸血部での管理が必要である。このように、細胞治療が行われるようになっていく中で、輸血部における管理体制を構築していく必要がある。

(2) 附属病院病理部

1. 研究の概要

病理部では、病理形態学および分子病理学の知見を駆使した臨床研究を腫瘍性疾患（特に癌ゲノム診療に関わる基礎的研究とその臨床応用）、炎症性疾患とともに展開するとともに、膠原病モデル組換え近交系マウスを用いた自己免疫疾患の感受性および発症メカニズムに関する基礎研究を遂行し、共同研究で界面活性剤二重膜によるナノベシクルを用いた新規 drug delivery system の開発、さらには無細胞蛋白合成を用いた蛋白機能の解析や新規治療薬候補の開発を行っている。病理部内のみならず、腫瘍病理学講座、形態機能病理学講座、臨床各科、愛媛大学、ハイデルベルク大学、ドイツ国立癌研究所との共同研究により研究に幅を持たせている。

2. 名簿

教授： 原 明 Akira Hara
臨床教授： 宮崎龍彦 Tatsuhiko Miyazaki
臨床講師： 酒々井夏子 Natsuko Suzui
併任講師： 波多野裕一郎 Yuichiro Hatano

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 宮崎龍彦. 組織の固定について モデル動物の最適な固定法をもとめて. 組織細胞化学 2016(日本組織細胞化学会 編), 東京: 日本組織細胞化学会; 2016年: 191-205.
- 2) 宮崎龍彦. 第4章 免疫系, アレルギー, 移植, 第11章 難病・代謝障害. In: 深山正久., editor. はじめの一步の病理学 第2版, 東京: 羊土社; 2017年: 60-82; 194-218.
- 3) 宮崎龍彦. 第3章 血管病変の成因と病理, B.血管炎 5. 壊死性血管炎. In: 日本脈管学会., editor. 臨床脈管学 第1版. 東京: 日本医学出版; 2017年: 28-29.
- 4) 宮崎龍彦. 組織の固定について モデル動物の最適な固定法をもとめて. 組織細胞化学 2017(日本組織細胞化学会 編), 東京: 日本組織細胞化学会; 2017年: 17-32.
- 5) 石津明洋, 高橋 啓, 菅野祐幸, 宮崎龍彦, 由谷親夫, 鬼丸満穂, 小川弥生, 吉木 敬, 直江史郎, 岩淵啓一, 川上民裕, 古川福実, 小倉 礼, 伊藤泰広, 吉田眞理, 勝野雅央, 能勢眞人, 松本俊治, 澤井高志, 佐藤英俊. ウェブ版血管炎アトラス: 厚生労働省科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究班; 2017年.
URL: <http://www.vas-mhlw.org/html/pathology/atlas/index.html>.
- 6) 宮崎龍彦. 2. ANCA 関連血管炎の病理組織. ANCA 関連血管炎 診療ガイドライン 2017(有村義宏, 丸山彰一, 本間栄 編), 東京: 診断と治療社; 2017年: 155-158.

著書（欧文）

- 1) Miyazaki T, Nakata H, Kato K. Development of Tumor-Specific Caffeine-Potentiated Chemotherapy Using Span 80 Nano-Vesicles DDS. In: Latosinska JN, Latosinska M, editors. The Question of Caffeine. Rieka, Croatia: Intech; 2017. pp107-125. ISBN 978-953-51-3273-8.
- 2) Tomita H, Kanayama T, Niwa A, Noguchi K, Ishida K, Niwa M, Hara A. Cancer Stem Cells and Aldehyde Dehydrogenase 1 in Liver Cancers. In: Updates in Liver Cancer. Abdeldayem H, ed. InTech; 2017:29-47.

総説（和文）

- 1) 宮崎龍彦. 血管炎症候群の疾患感受性, 日本腎臓学会誌 2014年; 56巻: 124-130.

総説（欧文）

- 1) Kobayashi K, Tomita H, Shimizu M, Tanaka T, Suzui N, Miyazaki T, Hara A. p53 expression as a diagnostic biomarker in ulcerative colitis-associated cancer. Int J Mol Sci. 2017;18:E1284. CS 3.73
- 2) Hatano Y, Fukuda S, Hisamatsu K, Hirata A, Hara A, Tomita H. Multifaceted Interpretation of Colon Cancer Stem Cells. Int J Mol Sci. 2017;18:E1446. CS 3.73
- 3) Ishida K, Tomita H, Nakashima T, Hirata A, Tanaka T, Shibata T, Hara A. Current mouse models of oral squamous cell carcinoma: genetic and chemically induced models. Oral Oncol. 2017;73: 16-20. CS 3.81
- 4) Miyai M, Tomita H, Soeda A, Yano H, Iwama T, Hara A. Current trends in mouse models of glioblastoma. J Neurooncol. 2017;35:423-432. CS 2.97

原著（和文）

- 1) 野田佳史, 五島 聡, 兼松雅之, 木村真樹, 村瀬勝俊, 関野 孝, 酒々井夏, 宮崎 龍. ちょっと気になる胆・膵画像 ティーチングファイルから(第28回) 膵細胞癌の膵転移に対し膵全摘を行った1例, 胆と膵

2015年;36巻:615-617.

- 2) 豊吉沙野香, 奥村陽子, 北川順一, 宮崎龍彦, 清島真理子. 【代謝異常症・沈着症・黄色腫】皮膚症状から診断に至った全身性アミロイドーシス, 皮膚科の臨床 2015年;57巻:253-256.
- 3) 小林一博, 藤澤智美, 酒々井夏子, 齊郷智恵美, 鬼頭勇輔, 廣瀬善信, 原 明, 清島真理子, 宮崎 龍. Thymoma associated graft-versus-host like disease の1例, 診断病理 2015年;32巻:18-21.
- 4) 高木公暁, 高井 学, 河田 啓, 堀江憲吾, 菊地美奈, 加藤 卓, 水谷晃輔, 清家健作, 土屋朋大, 安田 満, 横井繁明, 仲野正博, 牛越博昭, 宮崎龍彦, 出口 隆. 転移性腎細胞癌に対してソラフェニブ内服治療中に心筋梗塞を発症した3例, 泌尿器科紀要 2015年;61巻:347-351.
- 5) 久野真史, 松橋延壽, 高橋孝夫, 市川賢吾, 奥村直樹, 吉田和弘, 宮崎龍彦. 度重なる生検を行い, 診断に苦慮した痔瘻癌に対して病変内粘液によるイムノクロマトグラフィー法が有用であった1例, 日本消化器外科学会雑誌 2015年;48巻:628-635.
- 6) 久松憲治, 小林一博, 酒々井夏子, 齊郷智恵美, 宮崎龍彦. 最初に IgA vasculitis が疑われ, 多発血管炎性肉芽腫症の経過中に急激な死の転帰をとり剖検で心破裂が発見された一例, 脈管学 2015年;55巻:37.
- 7) 亀山紘司, 高井 学, 河田 啓, 堀江賢吾, 加藤 卓, 水谷晃輔, 清家健作, 土屋朋大, 安田 満, 横井繁明, 仲野正博, 出口 隆, 久松憲治, 宮崎龍彦, 菅原 崇, 石山俊次. 膀胱 Nephrogenic metaplasia の1例, 泌尿器科紀要 2015年;61巻:80
- 8) 河田啓, 高井学, 亀山紘司, 堀江賢吾, 菊地美奈, 加藤卓, 水谷晃輔, 清家健作, 土屋朋大, 横井繁明, 仲野正博, 出口隆, 片桐恭雄, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 赤血球増多症を伴ったエリスロポエチン産生腎細胞癌の1例, 泌尿器科紀要 2015年;61巻:254.
- 9) 伊藤満, 加藤元一, 周円, 加納宏行, 清島真理子, 北川順一, 宮崎龍彦, 谷内江昭弘. $\gamma\delta T$ 細胞に EB ウイルス (EBV) 感染が考えられる種痘様水疱症の1例, 日本皮膚科学会雑誌 2015年;125巻:471.
- 10) 野田佳史, 五島聡, 松尾政之, 木村真樹, 村瀬勝俊, 関野孝史, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 【画像で解る胆膵疾患 Q&A】 (問題 17). 胆と膵. 2016年;37(特別号):1003-1005.
- 11) 丹羽宏文, 松山かなこ, 高橋智子, 周円, 加納宏行, 清島真理子, 宮崎龍彦. 右肩に発症した Langerhans 細胞肉腫の1例. 日本皮膚科学会雑誌. 2016;126(12):2315-2316.
- 12) 松山かなこ, 徳住正隆, 加藤元一, 周円, 加納宏行, 村上一晃, 宮崎龍彦, 清島真理子. In-transit metastasis を来した頭部皮膚有棘細胞癌の1例. Skin Cancer. 2016;30(3):198-202.
- 13) 宮崎龍彦. 「特集/ANCA 関連血管炎-最近の話題」に寄せる 膠原病疾患モデル組換え近交系マウスを用いた膠原病治療法の開発. アレルギーの臨床. 2016;36(5):465-469.
- 14) 宮崎龍彦. 血管炎症候群の形態学的診断 tips. 診断病理. 2016;33(1):19-37.
- 15) 川村美保, 丹羽宏文, 加納宏行, 宮崎龍彦, 大西雅也, 清島真理子. 潰瘍性大腸炎を伴った annular elastolytic giant cell granuloma の1例. 臨床皮膚科. 2018;72(1):57-61.
- 16) 清島真理子, 水谷陽子, 宮崎龍彦, 野田徳朗. 【心に残る症例-40周年記念特別号】<臨床例> ジアフェニルスルホンが奏効した持久性隆起性紅斑. 皮膚病診療. 2018;40(1):55-58.
- 17) 野田佳史, 五島 聡, 松尾政之, 村瀬勝俊, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 画像診断と病理 膵退形成癌. 画像診断. 2017;37(10):1000-1001.
- 18) 藤井麻美, 徳住正隆, 守屋智枝, 周 円, 加納宏行, 宮崎龍彦, 福本 瞳, 片野晴隆, 清島真理子. 有棘細胞癌の切除断端に発症した Merkel 細胞癌の1例. 臨床皮膚科. 2017;71(10):766-771.
- 19) 棚橋裕吉, 五島 聡, 浅野隆彦, 松尾政之, 大江直行, 岩間 亨, 宮崎龍彦. 画像診断と病理 中枢神経系原発悪性リンパ腫(びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫). 画像診断. 2017;37(14):1422-1423.
- 20) 石丸大地, 西本 裕, 永野昭仁, 小林一博, 酒々井夏子, 齊郷智恵美, 宮崎龍彦, 大野貴敏. 右足関節部腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍. 2017;28:45-46.
- 21) 周 円, 松山かなこ, 加納宏行, 清島真理子, 徳住正隆, 宮崎龍彦. 一部自然消褪し, 長い経過を辿った顔面悪性黒色腫の1例. 日本皮膚科学会雑誌. 2017;127(2):188-189.
- 22) 岩田至紀, 福田賢也, 須原貴志, 古田智彦, 宮崎龍彦. 傍ストーマヘルニアを有する人工肛門部に発症した特発性大腸穿孔の1例. 日本外科系連合学会誌. 2017;42(5):823-828.
- 23) 河合信行, 五島 聡, 松尾政之, 村瀬勝俊, 土井 潔, 高井光治, 清水雅仁, 齊郷智恵美, 宮崎龍彦. 画像診断と病理 肝血管筋脂肪腫. 画像診断. 2017;37(12):1134-1135.
- 24) 井深貴士, 荒木寛司, 杉山智彦, 高田 淳, 久保田全哉, 白上洋平, 白木 亮, 清水雅仁, 酒々井夏子, 宮崎龍彦. 小腸出血を契機に発見されカプセル小腸内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡にて観察しえた高齢者のメッケル憩室内翻の1例. 日本消化器病学会雑誌. 2017;114(11):2005-2011.
- 25) 伊藤 満, 松山かなこ, 周 円, 加納宏行, 宮崎龍彦, 二宮空暢, 清島真理子. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫を合併した Muir-Torre 症候群の1例. 皮膚科の臨床. 2017;59(4):487-491.

原著 (欧文)

- 1) Tanaka K, Tomita H, Hisamatsu K, Nakashima T, Hatano Y, Sasaki Y, Osada S, Tanaka T, Miyazaki T, Yoshida K, Hara A. ALDH1A1-overexpressing cells are differentiated cells but not cancer stem or progenitor cells in human hepatocellular carcinoma. Oncotarget. 2015. CS 4.91
- 2) Shimizu M, Shirakami Y, Sakai H, Kubota M, Kochi T, Ideta T, Miyazaki T, Moriwaki H. Chemopreventive potential of green tea catechins in hepatocellular carcinoma. Int J Mol Sci. 2015;16:6124-6139. CS 3.37
- 3) Onishi S, Adnan E, Ishizaki J, Miyazaki T, Tanaka Y, Matsumoto T, Suemori K, Shudou M, Okura T, Takeda H, Sawasaki T, Yasukawa M, Hasegawa H. Novel Autoantigens Associated with Lupus

- Nephritis. *PLoS One*. 2015;10:e0126564. CS 3.32
- 4) Nakata H, Miyazaki T, Iwasaki T, Nakamura A, Kidani T, Sakayama K, Masumoto J, Miura H. Development of tumor-specific caffeine-potentiated chemotherapy using a novel drug delivery system with Span 80 nano-vesicles. *Oncology reports*. 2015;33:1593-1598. CS 2.64
 - 5) Mokuda S, Miyazaki T, Ubara Y, Kanno M, Sugiyama E, Takasugi K, Masumoto J. CD1a(+) survivin(+) dendritic cell infiltration in dermal lesions of systemic sclerosis. *Arthritis Res Ther*. 2015;17:275. CS 3.94
 - 6) Mokuda S, Miyazaki T, Ito Y, Yamasaki S, Inoue H, Guo Y, Kong WS, Kanno M, Takasugi K, Sugiyama E, Masumoto J. The proto-oncogene survivin splice variant 2B is induced by PDGF and leads to cell proliferation in rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes. *Scientific reports*. 2015;5:9795. CS 5.30
 - 7) Kobayashi K, Niwa M, Hoshi M, Saito K, Hisamatsu K, Hatano Y, Tomita H, Miyazaki T, Hara A. Early microlesion of viral encephalitis confirmed by galectin-3 expression after a virus inoculation. *Neuroscience letters*. 2015;592:107-112. CS 2.21
 - 8) Hanai T, Shiraki M, Ohnishi S, Miyazaki T, Ideta T, Kochi T, Imai K, Suetsugu A, Takai K, Shimizu M, Moriwaki H. Impact of serum glycosylated *Wisteria floribunda* agglutinin-positive Mac-2 binding protein levels on liver functional reserves and mortality in patients with liver cirrhosis. *Hepatology Research : the official journal of the Japan Society of Hepatology*. 2015. CS 2.06
 - 9) Aoki H, Hara A, Kunisada T. White spotting phenotype induced by targeted REST disruption during neural crest specification to a melanocyte cell lineage. *Genes Cells*. 2015;20:439-449. CS 2.39
 - 10) Aoki H, Tomita H, Hara A, Kunisada T. Conditional Deletion of Kit in Melanocytes: White Spotting Phenotype Is Cell Autonomous. *Journal of investigative dermatology*. 2015;135:1829-1838. CS 4.01
 - 11) Arai Y, Endo S, Miyagi N, Abe N, Miura T, Nishinaka T, Terada T, Oyama M, Goda H, El-Kabbani O, Hara A, Matsunaga T, Ikari A. Structure-activity relationship of flavonoids as potent inhibitors of carbonyl reductase 1 (CBR1). *Fitoterapia*. 2015;101:51-56. CS 2.92
 - 12) Arioka Y, Ito H, Ando T, Ogiso H, Hirata A, Hara A, Seishima M. Pre-stimulated Mice with Carbon Tetrachloride Accelerate Early Liver Regeneration After Partial Hepatectomy. *Dig Dis Sci*. 2015;60:1699-1706. CS 2.38
 - 13) Endo S, Matsunaga T, Ikari A, El-Kabbani O, Hara A, Kitade Y. Identification of a determinant for strict NAD(P)^H-specificity and high sensitivity to mixed-type steroid inhibitor of rabbit aldo-keto reductase 1C33 by site-directed mutagenesis. *Arch Biochem Biophys*. 2015;569:19-25. CS 3.21
 - 14) Endo S, Nishiyama A, Suyama M, Takemura M, Soda M, Chen H, Tajima K, El-Kabbani O, Bunai Y, Hara A, Matsunaga T, Ikari A. Protective roles of aldo-keto reductase 1B10 and autophagy against toxicity induced by p-quinone metabolites of tert-butylhydroquinone in lung cancer A549 cells. *Chemico-biological interactions*. 2015;234:282-289. CS 3.14
 - 15) Endo S, Noda M, Ikari A, Tatematsu K, El-Kabbani O, Hara A, Kitade Y, Matsunaga T. Characterization of hamster NAD⁺-dependent 3(17)beta-hydroxysteroid dehydrogenase belonging to the aldo-keto reductase 1C subfamily. *J Biochem*. 2015;158:425-434. CS 2.37
 - 16) Hatano Y, Semi K, Hashimoto K, Lee MS, Hirata A, Tomita H, Kuno T, Takamatsu M, Aoki K, Taketo MM, Kim YJ, Hara A, Yamada Y. Reducing DNA methylation suppresses colon carcinogenesis by inducing tumor cell differentiation. *Carcinogenesis*. 2015;36:719-729. CS 5.18
 - 17) Inaguma Y, Ito H, Hara A, Iwamoto I, Matsumoto A, Yamagata T, Tabata H, Nagata K. Morphological characterization of mammalian timeless in the mouse brain development. *Neurosci Res*. 2015;92:21-28. CS 1.92
 - 18) Iwashita T, Yasuda I, Mukai T, Doi S, Nakashima M, Uemura S, Mabuchi M, Shimizu M, Hatano Y, Hara A, Moriwaki H. Macroscopic on-site quality evaluation of biopsy specimens to improve the diagnostic accuracy during EUS-guided FNA using a 19-gauge needle for solid lesions: a single-center prospective pilot study (MOSE study). *Gastrointest Endosc*. 2015;81:177-185. CS 3.13
 - 19) Kobayashi K, Niwa M, Hoshi M, Saito K, Hisamatsu K, Hatano Y, Tomita H, Miyazaki T, Hara A. Early microlesion of viral encephalitis confirmed by galectin-3 expression after a virus inoculation. *Neuroscience letters*. 2015;592:107-112. CS 2.21
 - 20) Matsunaga T, Kezuka C, Morikawa Y, Suzuki A, Endo S, Iguchi K, Miura T, Nishinaka T, Terada T, El-Kabbani O, Hara A, Ikari A. Up-Regulation of Carbonyl Reductase 1 Renders Development of Doxorubicin Resistance in Human Gastrointestinal Cancers. *Biological & pharmaceutical bulletin*. 2015;38:1309-1319. CS 1.79
 - 21) Morikawa Y, Kezuka C, Endo S, Ikari A, Soda M, Yamamura K, Toyooka N, El-Kabbani O, Hara A, Matsunaga T. Acquisition of doxorubicin resistance facilitates migrating and invasive potentials of gastric cancer MKN45 cells through up-regulating aldo-keto reductase 1B10. *Chemico-biological interactions*. 2015;230:30-39. CS 3.14
 - 22) Soeda A, Hara A, Kunisada T, Yoshimura S, Iwama T, Park DM. The evidence of glioblastoma heterogeneity. *Sci Rep*. 2015;5:7979. CS 5.30
 - 23) Takamatsu M, Hirata A, Ohtaki H, Hoshi M, Ando T, Ito H, Hatano Y, Tomita H, Kuno T, Saito K, Seishima M, Hara A. Inhibition of indoleamine 2,3-dioxygenase 1 expression alters immune response in colon tumor microenvironment in mice. *Cancer Sci*. 2015;106:1008-1015. CS 3.82
 - 24) Tanaka K, Tomita H, Hisamatsu K, Hatano Y, Yoshida K, Hara A. Acute Liver Failure Associated with

- Diffuse Hepatic Infiltration of Malignant Melanoma of Unknown Primary Origin. *Intern Med.* 2015;54:1361-1364. CS 0.84
- 25) Tanaka K, Tomita H, Osada S, Watanabe H, Imai H, Sasaki Y, Goshima S, Kondo H, Kanematsu M, Hara A, Yoshida K. Significance of histopathological evaluation of pancreatic fibrosis to predict postoperative course after pancreatic surgery. *Anticancer Res.* 2015;35:1749-1756. CS 1.93
- 26) Ushikoshi H, Okada H, Morishita K, Imai H, Tomita H, Nawa T, Suzuki K, Ikeshoji H, Kato H, Yoshida T, Yoshida S, Shirai K, Toyoda I, Hara A, Ogura S. An autopsy report of acute myocardial infarction with hypertrophic obstructive cardiomyopathy-like heart. *Cardiovasc Pathol.* 2015;24:405-407. CS 2.00
- 27) Noda Y, Goshima S, Tanaka K, Osada S, Tomita H, Hara A, Horikawa Y, Takeda J, Kajita K, Watanabe H, Kawada H, Kawai N, Kanematsu M, Bae KT. Findings in pancreatic MRI associated with pancreatic fibrosis and HbA1c values. *J Magn Reson Imaging.* 2016;43:680-687. CS 3.31
- 28) Tanaka Y., Yoshida K., Yamada A., Tanahashi T., Okumura N., Matsushashi N., Yamaguchi K., Miyazaki T. Erratum to: Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2016;77(6):1153-1155. CS 2.97
- 29) Tanaka Y., Yoshida K., Yamada A., Tanahashi T., Okumura N., Matsushashi N., Yamaguchi K., Miyazaki T. Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2016. CS 2.97
- 30) Shibata Y., Hara T., Matsumoto T., Nakamura N., Nakamura H., Ninomiya S., Kitagawa J., Goto N., Nannya Y., Ito H., Kito Y., Miyazaki T., Takeuchi T., Saito K., Seishima M., Takami T., Moriwaki H., Shimizu M., Tsurumi H. Serum concentrations of l-kynurenine predict clinical outcomes of patients with peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified. *Hematol Oncol.* 2016. CS 5.66
- 31) Ozeki M., Hori T., Kanda K., Kawamoto N., Ibuka T., Miyazaki T., Fukao T. Everolimus for Primary Intestinal Lymphangiectasia With Protein-Losing Enteropathy. *Pediatrics.* 2016;137(3):1-5. CS 5.07
- 32) Ohno T., Shimizu M., Shirakami Y., Miyazaki T., Ideta T., Kochi T., Kubota M., Sakai H., Tanaka T., Moriwaki H. Preventive effects of astaxanthin on diethylnitrosamine-induced liver tumorigenesis in C57/BL/KsJ-db/db obese mice. *Hepatology Research : the official journal of the Japan Society of Hepatology.* 2016;46(3):E201-209. CS 2.06
- 33) Matsumoto T., Hara T., Shibata Y., Nakamura N., Nakamura H., Ninomiya S., Kitagawa J., Kanemura N., Goto N., Kito Y., Kasahara S., Yamada T., Sawada M., Miyazaki T., Takami T., Takeuchi T., Moriwaki H., Tsurumi H. A salvage chemotherapy of R-P-IMVP16/CBDCA consisting of rituximab, methylprednisolone, ifosfamide, methotrexate, etoposide, and carboplatin for patients with diffuse large B cell lymphoma who had previously received R-CHOP therapy as first-line chemotherapy. *Hematol Oncol.* 2016. CS 5.66
- 34) Matsumoto H., Ozeki M., Hori T., Kanda K., Kawamoto N., Nagano A., Azuma E., Miyazaki T., Fukao T. Successful Everolimus Treatment of Kaposiform Hemangioendothelioma With Kasabach-Merritt Phenomenon: Clinical Efficacy and Adverse Effects of mTOR Inhibitor Therapy. *J Pediatr Hematol Oncol.* 2016. CS 5.66
- 35) Kato H., Kanematsu M., Watanabe H., Nagano A., Shu E., Seishima M., Miyazaki T. MR imaging findings of pilomatricomas: a radiological-pathological correlation. *Acta radiologica (Stockholm, Sweden : 1987).* 2016;57(6):726-732. CS 1.64
- 36) Ito F., Kawasaki M., Ohno Y., Toyoshi S., Morishita M., Kaito D., Yanase K., Funaguchi N., Asano M., Endo J., Mori H., Kobayashi K., Nishigaki K., Miyazaki T., Takemura G., Minatoguchi S. Noninvasive Tissue Characterization of Lung Tumors Using Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound: An Ex Vivo Comparative Study With Pathological Diagnosis. *Chest.* 2016;149(5):1276-1284. CS 4.66
- 37) Hisamatsu K., Niwa M., Kobayashi K., Miyazaki T., Hirata A., Hatano Y., Tomita H., Hara A. Galectin-3 expression in hippocampal CA2 following transient forebrain ischemia and its inhibition by hypothermia or antiapoptotic agents. *Neuroreport.* 2016;27(5):311-317. CS 1.47
- 38) Hanai T., Shiraki M., Ohnishi S., Miyazaki T., Ideta T., Kochi T., Imai K., Suetsugu A., Takai K., Moriwaki H., Shimizu M. Rapid skeletal muscle wasting predicts worse survival in patients with liver cirrhosis. *Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology.* 2016;46(8):743-751. CS 2.06
- 39) Ogiso H., Ito H., Ando T., Arioka Y., Kanbe A., Ando K., Ishikawa T., Saito K., Hara A., Moriwaki H., Shimizu M., Seishima M. The Deficiency of Indoleamine 2,3-Dioxygenase Aggravates the CCl4-Induced Liver Fibrosis in Mice. *PLoS One.* 2016;11(9):e0162183. CS 3.32.
- 40) Matsunaga T., Suzuki A., Kezuka C., Okumura N., Iguchi K., Inoue I., Soda M., Endo S., El-Kabbani O., Hara A., Ikari A. Aldo-keto reductase 1B10 promotes development of cisplatin resistance in gastrointestinal cancer cells through down-regulating peroxisome proliferator-activated receptor-gamma-dependent mechanism. *Chemico-biological interactions.* 2016;256:142-153. CS 3.14
- 41) Masutani T., Tanaka Y. T., Kojima H., Tsuboi M., Hara A., Niwa M. Cynaropicrin is dual regulator for both degradation factors and synthesis factors in the cartilage metabolism. *Life Sci.* 2016;158:70-77. CS 2.70
- 42) Inden M., Iriyama M., Zennami M., Sekine S., Hara A., Yamada M., Hozumi I. The type III

- transporters (PiT-1 and PiT-2) are the major sodium-dependent phosphate transporters in the mice and human brains. *Brain Res.* 2016;1637:128-136. CS 2.74
- 43) Ikeda M., Murata Y., Ohnishi R., Kato T., Hara A., Fujinaga T. A case of surgery for congenital esophagobronchial fistula accompanied by a destroyed lung. *Surg Case Rep.* 2016;2(1):93. CS 0.10
- 44) Aoki H., Ogino H., Tomita H., Hara A., Kunisada T. Disruption of Rest Leads to the Early Onset of Cataracts with the Aberrant Terminal Differentiation of Lens Fiber Cells. *PLoS One.* 2016;11(9):e0163042. CS 3.32
- 45) Yamamoto Y, Goto N, Takemura M, Yamasuge W, Yabe K, Takami T, Miyazaki T, Takeuchi T, Shiraki M, Shimizu M, Adachi S, Saito K, Shibata Y, Nakamura N, Hara T, Serrero G, Saito K, Tsurumi H. Association between increased serum GP88 (progranulin) concentrations and prognosis in patients with malignant lymphomas. *Clin Chim Acta.* 2017;473:139-146. CS 2.77
- 46) Shibata Y, Hara T, Kasahara S, Yamada T, Sawada M, Mabuchi R, Matsumoto T, Nakamura N, Nakamura H, Ninomiya S, Kitagawa J, Kanemura N, Kito Y, Goto N, Miyazaki T, Takami T, Takeuchi T, Shimizu M, Tsurumi H. CHOP or THP-COP regimens in the treatment of newly diagnosed peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified: a comparison of doxorubicin and pirarubicin. *Hematol Oncol.* 2017;35(2):163-171. CS 1.29
- 47) Obara K, Shirakami Y, Maruta A, Ideta T, Miyazaki T, Kochi T, Sakai H, Tanaka T, Seishima M, Shimizu M. Preventive effects of the sodium glucose cotransporter 2 inhibitor tofogliflozin on diethylnitrosamine-induced liver tumorigenesis in obese and diabetic mice. *Oncotarget.* 2017;8(35):58353-58363. CS 4.73
- 48) Niwa A, Kuwano S, Tomita H, Kimura K, Orihara Y, Kanayama T, Noguchi K, Hisamatsu K, Nakashima T, Hatano Y, Hirata A, Miyazaki T, Kaneko K, Tanaka T, Hara A. The different pathogenesis of sporadic adenoma and adenocarcinoma in non-ampullary lesions of the proximal and distal duodenum. *Oncotarget.* 2017;8(25):41078-41090. CS 4.73
- 49) Nguyen HT, Tsuchiya MC, Yoo J, Iida M, Agusa T, Hirano M, Kim EY, Miyazaki T, Nose M, Iwata H. Strain differences in the proteome of dioxin-sensitive and dioxin-resistant mice treated with 2,3,7,8-tetrabromodibenzo-p-dioxin. *Arch Toxicol.* 2017;91(4):1763-1782. CS 4.70
- 50) Nakashima T, Tomita H, Hirata A, Ishida K, Hisamatsu K, Hatano Y, Kanayama T, Niwa A, Noguchi K, Kato K, Miyazaki T, Tanaka T, Shibata T, Hara A. Promotion of cell proliferation by the proto-oncogene DEK enhances oral squamous cell carcinogenesis through field cancerization. *Cancer Med.* 2017;6(10):2424-2439. CS 2.45
- 51) Mori R, Futamura M, Morimitsu K, Saigo C, Miyazaki T, Yoshida K. The diagnosis of a metastatic breast tumor from ovarian cancer by the succession of a p53 mutation: a case report. *World J Surg Oncol.* 2017;15(1):117. CS 1.81
- 52) Matsuyama K, Mizutani Y, Takahashi T, Shu E, Kanoh H, Miyazaki T, Seishima M. Enhanced dendritic cells and regulatory T cells in the dermis of porokeratosis. *Arch Dermatol Res.* 2017;309(9):749-756. CS 2.37
- 53) Matsumoto T, Hara T, Shibata Y, Nakamura N, Nakamura H, Ninomiya S, Kitagawa J, Kanemura N, Goto N, Kito Y, Kasahara S, Yamada T, Sawada M, Miyazaki T, Takami T, Takeuchi T, Moriwaki H, Tsurumi H. A salvage chemotherapy of R-P-IMVP16/CBDCA consisting of rituximab, methylprednisolone, ifosfamide, methotrexate, etoposide, and carboplatin for patients with diffuse large B cell lymphoma who had previously received R-CHOP therapy as first-line chemotherapy. *Hematol Oncol.* 2017;35(3):288-295. CS 1.29
- 54) Kawashima M, Usui T, Okada H, Mori I, Yamauchi M, Ikeda T, Kajita K, Kito Y, Miyazaki T, Fujioka K, Ishizuka T, Morita H. TAFRO syndrome: 2 cases and review of the literature. *Modern rheumatology.* 2017;27(6):1093-1097. CS 1.54
- 55) Kameyama K, Horie K, Mizutani K, Kato T, Fujita Y, Kawakami K, Kojima T, Miyazaki T, Deguchi T, Ito M. Enzalutamide inhibits proliferation of gemcitabine-resistant bladder cancer cells with increased androgen receptor expression. *International journal of oncology.* 2017;50(1):75-84. CS 3.25
- 56) Ideta T, Shirakami Y, Ohnishi M, Maruta A, Obara K, Miyazaki T, Kochi T, Sakai H, Tomita H, Tanaka T, Blaner WS, Shimizu M. Non-alcoholic steatohepatitis-related liver tumorigenesis is suppressed in mice lacking hepatic retinoid storage. *Oncotarget.* 2017;8(41):70695-70706. CS 4.73
- 57) Hisamatsu K, Noguchi K, Tomita H, Muto A, Yamada N, Kobayashi K, Hirata A, Kanayama T, Niwa A, Ishida K, Nakashima T, Hatano Y, Suzui N, Miyazaki T, Hara A. Distinctive crypt shape in a sessile serrated adenoma/polyp: Distribution of Ki67-, p16INK4a-, WNT5A-positive cells and intraepithelial lymphocytes. *Oncology reports.* 2017;38(2):775-784. CS 2.73
- 58) Ozeki M., Nozawa A., Kanda K., Hori T., Nagano A., Shimada A., Miyazaki T., Fukao T. Everolimus for Treatment of Pseudomyogenic Hemangioendothelioma. *J Pediatr Hematol Oncol.* 2017;39(6):e328-e331. CS 1.03
- 59) Klemis V., Ghura H., Federico G., Wurfel C., Bentmann A., Gretz N., Miyazaki T., Grone H. J., Nakchbandi I. A. Circulating fibronectin contributes to mesangial expansion in a murine model of type 1 diabetes. *Kidney Int.* 2017;91(6):1374-1385. CS 4.35
- 60) Tanaka Y., Yoshida K., Yamada A., Tanahashi T., Okumura N., Matsuhashi N., Yamaguchi K.,

- Miyazaki T. Erratum to: Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2016;77(6):1153-1155. CS 2.96
- 61) Tanaka Y, Yoshida K., Yamada A., Tanahashi T., Okumura N., Matsuhashi N., Yamaguchi K., Miyazaki T. Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2016. CS 2.96
- 62) Hayakawa Y, Sakitani K, Konishi M, Asfaha S, Niikura R, Tomita H, Renz BW, Tailor Y, Macchini M, Middelhoff M, Jiang Z, Tanaka T, Dubeykovskaya ZA, Kim W, Chen X, Urbanska AM, Nagar K, Westphalen CB, Quante M, Lin CS, Gershon MD, Hara A, Zhao CM, Chen D, Worthley DL, Koike K, Wang TC. Nerve Growth Factor Promotes Gastric Tumorigenesis through Aberrant Cholinergic Signaling. *Cancer Cell* 2017;31:21-34. CS 16.19
- 63) Ando T, Ito H, Ohtaki H, Kanbe A, Hirata A, Hara A, Seishima M. Role of invariant NKT cells in lipopolysaccharide-induced lethal shock during encephalomyocarditis virus infection. *Immunobiology* 2017;222: 350-357. CS 2.39
- 64) Ito H, Ando T, Nakamura M, Ishida H, Kanbe A, Kobiyama K, Yamamoto T, Ishii KJ, Hara A, Seishima M, Ishikawa T. Induction of humoral and cellular immune response to hepatitis B virus (HBV) vaccine can be upregulated by CpG oligonucleotides complexed with Dectin-1 ligand. *J Viral Hepat.* 2017;24:155-162. CS 3.57
- 65) Hatano Y, Kawashima K, Iwashita T, Kimura M, Shimizu M, Hara A. A Solid Pseudopapillary Neoplasm of the Pancreas Associated With IgG4-Related Pancreatitis. *Int J Surg Pathol.* 2017;25:271-275. CS 0.72
- 66) Hayashi Y, Kimura A, Nakamura H, Mimuro M, Iwasaki Y, Hara A, Yoshida M, Inuzuka T. Neuropathological findings from an autopsied case showing posterior reversible encephalopathy syndrome-like neuroradiological findings associated with premedication including tacrolimus for autologous peripheral blood stem cell transplantation. *J Neurol Sci.* 2017;15:375:382-387. CS 1.98
- 67) Ohashi T, Aoki M, Tomita H, Akazawa T, Sato K, Kuze B, Mizuta K, Hara A, Nagaoka H, Inoue N, Ito Y. M2-like macrophage polarization in high lactic acid-producing head and neck cancer. *Cancer Sci.* 2017;108:1128-1134. CS 4.14
- 68) Kanbe A, Ito H, Omori Y, Hara A, Seishima M. The inhibition of NLRP3 signaling attenuates liver injury in an α -galactosylceramide-induced hepatitis model. *Biochem Biophys Res Commun.* 2017;490:364-370. CS 2.51
- 69) Ogiso H, Ito H, Kanbe A, Ando T, Hara A, Shimizu M, Moriwaki H, Seishima M. The Inhibition of Indoleamine 2,3-Dioxygenase Accelerates Early Liver Regeneration in Mice After Partial Hepatectomy. *Dig Dis Sci.* 2017;62: 2386-2396. CS 2.34
- 70) Aoki H, Hara A, Kunisada T. Induced haploinsufficiency of Kit receptor tyrosine kinase impairs brain development. *JCI Insight* 2017;2: pii: 94385. CS 0
- 71) Ando T, Ito H, Kanbe A, Hara A, Seishima M. Deficiency of NALP3 Signaling Impairs Liver Regeneration After Partial Hepatectomy. *Inflammation.* 2017;40:1717-1725. CS 2.76
- 72) Kawaguchi M, Kato H, Tomita H, Mizuta K, Aoki M, Hara A, Matsuo M. Imaging Characteristics of Malignant Sinonasal Tumors. *J Clin Med* 2017;6:E116. CS 4.73

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：宮崎龍彦；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：膠原病疾患モデル組換え近交系マウスを用いた膠原病治療法の開発；平成 25-27 年度；5,070 千円(2,080；1,430；1,560 千円)
- 2) 研究代表者：宮崎龍彦；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：リコンビナントインブレット系マウスを用いた膠原病治療反応多様性の解析；平成 28-30 年度；4,810 千円(1,430；1560；1820 千円)
- 3) 研究支援代表者：今井浩三(東京大学医科学研究所)，研究支援分担者：中村卓郎，井上純一郎，高田昌彦，吉田進昭，高橋智，伊川正人，崎村建司，荒木喜美，八尾良司，真下知士，小林和人，豊國伸哉，鰐淵英機，今井田克己，二口充，上野正樹，宮崎龍彦，神田浩明，尾藤晴彦，宮川剛，高雄啓三，池田和隆，虫明元，清宮啓之，長田裕之，旦慎吾，井本正哉，川田学，田原栄俊，吉田稔，松浦正明，牛嶋大；文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)『学術研究支援基盤形成』：先端モデル動物支援プラットフォーム；平成 28-33 年度；2,403,960 千円(400,660；400,660；未定；未定；未定；未定 千円)
- 4) 研究代表者：有村義宏(杏林大学医学部)，研究分担者：磯部光章，小室一成，中岡良和，山田秀裕，長谷川均，杉原毅彦，吉藤 元，種本和雄，針谷正祥，本間 栄，佐田憲映，和田隆志，伊藤 聡，土橋浩章，堀田哲也，駒形義紀，中山健夫，勝又康弘，天野宏一，石津明洋，宮崎龍彦，川上民裕，菅野祐幸，高橋 啓，土屋尚之，藤本昭一，濱野慶朋，猪原登志子，小林茂人，古田俊介，高崎芳成，竹内

勤, 藤井隆夫, 要 伸也, 杉山 齊; 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)): 難治性血管炎に関する調査研究(H26-難治等(難)-一般-044); 平成 26-28 年度; 55,315 千円(31,200 : 24,115 : 21,703 千円)

- 5) 研究代表者: 原 明; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 正常及び癌組織幹細胞分化制御機構におけるクロマチン構造調節因子 DEK の役割の解明; 平成 26-28 年度; 3,900 千円(1,500 : 1,300 : 1,100 千円)
- 6) 研究代表者: 宮崎龍彦; 日本成人血管病研究振興財団研究助成金(公益社団法人 成人血管病研究振興財団): 全身性血管炎感受性における CD72 遺伝子多型の役割の解析; 平成 27 年度; 500 千円
- 7) 研究代表者: 針谷正祥(東京女子医科大学医学部)厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)): 難治性血管炎に関する調査研究(17933808); 平成 29-31 年度; 78,000 千円(26,000 : 26,000; 26,000 千円)
- 8) 研究代表者: 原 明; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): ヒト・マウスでの右側鋸歯状大腸発癌の生物学的メカニズムの解明; 平成 29-31 年度; 3,800 千円(1,300 : 1,200 : 1,300 千円)
- 9) 研究代表者: 原 明; 文部科学省 基礎研究医養成活性化プログラム「人体を統合的に理解できる基礎研究医の養成」 平成 29 年度; 800 千円

2) 受託研究

- 1) 原 明: 病理診断のコンサルタント; 平成 27 年度; 3,436 千円; 平成 28 年度; 3,362 千円; 平成 29 年; 2,859 千円; (株)保健科学研究所
- 2) 原 明: 病理診断のコンサルタント; 平成 27 年度; 693 千円; 平成 28 年度; 580 千円; 平成 29 年; 585 千円; (株)東海細胞研究所
- 3) 原 明: 病理診断のセカンドオピニオン; 平成 27 年度; 3,720 千円; 平成 28 年度; 4,280 千円; 平成 29 年度; 4,335 千円; 各医療機関
- 4) 宮崎龍彦: 難治性血管炎ゲノムマーカーの同定と評価および血管炎の疾患活動性や治療反応性の指標となる病理学的所見の抽出とそれを用いた病気分類法の開発ならびに評価; 平成 27 年度: 300 千円; 平成 28 年度: 300 千円; 平成 29 年度: 300 千円; 日本医療研究開発機構(AMED)
- 5) 宮崎龍彦: SAMIT 試験「漿膜浸潤胃癌症例を対象とした術後補助化学療法の Factorial Design によるランダム比較試験: フッ化ピリミジン単独と Paclitaxel→フッ化ピリミジン逐次併用の比較および UFT と TS-1 の比較」バイオマーカー付随研究; 平成 27 年度; 102 千円; 胃癌補助療法研究グループ(SAMIT), 疫学臨床試験研究支援機構
- 6) 宮崎龍彦: MK-3475 (177 試験)の第Ⅲ相臨床試験; 平成 29 年度; 108 千円; MSD 株式会社

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

原 明:

- 1) 日本病理学会学術評議員(~現在)
- 2) 日本癌学会評議員(~現在)
- 3) 日本再生医療学会評議員(~現在)

宮崎龍彦:

- 1) 日本病理学会学術評議員(~現在)
- 2) 日本病理学会中部支部幹事(平成 28 年 4 月~現在)
- 3) 日本病理学会岐阜県代表幹事(平成 28 年 4 月~現在)
- 4) 日本臨床細胞学会岐阜県支部幹事(平成 26 年 4 月~現在)
- 5) 日本臨床細胞学会東海連合会幹事(平成 29 年 4 月~現在)
- 6) 日本血管病理研究会世話人(平成 24 年 10 月~現在)

- 7) 膠原病フォーラム世話人(平成 22 年 7 月～現在)
- 8) 岐阜県脳腫瘍研究会世話人(平成 25 年 10 月～現在)
- 9) 浜松皮膚病理研究会世話人(平成 29 年 2 月～現在)
- 10) 東海小児腫瘍研究会世話人(平成 29 年 10 月～現在)

2) 学会開催

宮崎龍彦：

- 1) 第 2 回岐阜県臨床細胞学会総会(平成 27 年 1 月 24 日)
- 2) 第 5 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 27 年 7 月 25 日)
- 3) 第 6 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 27 年 10 月 3 日)
- 4) 第 3 回岐阜県臨床細胞学会総会(平成 28 年 1 月 23 日)
- 5) 第 7 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 28 年 7 月 23 日)
- 6) 第 10 回病理夏の学校 in Gifu (平成 28 年 8 月 20-21 日)
- 7) 第 8 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 28 年 10 月 1 日)
- 8) 第 4 回岐阜県臨床細胞学会総会(平成 29 年 1 月 29 日)
- 9) 第 9 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 29 年 7 月 29 日)
- 10) 第 10 回岐阜県臨床細胞学会例会(平成 29 年 10 月 7 日)

3) 学術雑誌

原 明：

- 1) Journal of Oncology ; Editorial Board(～現在)
- 2) ISRN Pathology ; Editorial Board(～現在)
- 3) International Journal of Neurology Research ; Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

宮崎龍彦：

- 1) 第 105 回日本病理学会総会(平成 28 年 5 月, 仙台, シンポジウム「血管炎の病理学」「血管炎の組織学的診断マーカーの探索」演者)
- 2) 第 105 回日本病理学会総会(平成 28 年 5 月, 仙台, シンポジウム「遺伝子組換えから病態へのアプローチ」「自己免疫病モデル組換え近交系マウスを用いた疾患感受性因子の解析」演者)
- 3) 第 29 回北海道腎フォーラム (平成 28 年 7 月, 札幌, 特別講演「膠原病モデル組換え近交系マウスを用いた全身性血管炎・糸球体腎炎病態と感受性因子の解析」演者)
- 4) 第 21 回日本血管病理研究会(平成 28 年 10 月, 三鷹市, シンポジウム「血管炎の実験動物モデル」座長)
- 5) 第 41 回組織細胞化学講習会 (日本組織細胞化学会)(平成 28 年 8 月, 仙台, 「組織の固定について モデル動物の最適な固定法をもとめて」, 講師)
- 6) 第 106 回日本病理学会総会(平成 29 年 4 月, 東京, 一般口演 34 「自己免疫疾患」, 座長)
- 7) 第 106 回日本病理学会総会(平成 29 年 4 月, 東京, ポスター発表 7 「循環器 3」, 座長)
- 8) 第 22 回日本血管病理研究会(平成 29 年 11 月, 東京, ワークショップ「川崎病」, 座長)
- 9) 第 42 回組織細胞化学講習会(日本組織細胞化学会)(平成 29 年 8 月, 前橋, 「組織の固定について～モデル動物の最適な固定法をもとめて～」, 講師)
- 10) 第 53 回日本組織細胞化学会総会・学術集会(平成 29 年 9 月, 東温市, 一般講演「がん・組織診断」座長)

原 明：

- 1) 第 104 回 日本病理学会総会(平成 27 年 5 月, 名古屋, 若手研究者教育レクチャー「エピジェネティクス入門」座長)
- 2) 第 54 回 日本臨床細胞学会秋期大会(平成 27 年 11 月, 名古屋, 要旨講演「iPS 細胞作製技術を用いたがん研究」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

原 明：

1) 岐阜県成人病診断管理指導協議会がん登録評価部会委員(～現在)

波多野裕一郎：

1) 岐阜県生活習慣病健診指導審議会委員(子宮がん部会)(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

病理診断業務に忙しい中、コンスタントに研究を進め、72報の英語原著論文、4報の英語総説論文、25報の和文原著論文に参画、1報の和文総説論文、2冊の欧文著書、教科書を含む6冊の和文著書を執筆した。大学院生の学位取得にも貢献できた。また、宮崎は自己免疫疾患、特に全身性血管炎症候群の専門家として認知され、総説の執筆や依頼原稿、講演依頼を受け、厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)):難治性血管炎に関する調査研究の班員として活動し、AMEDの開発委託も受けている。また、ANCA関連血管炎のガイドライン改訂、難治性血管炎診療ガイドラインの改訂にも参画している。また、文部科学省科学研究費補助金、新学術領域・『学術研究支援基盤形成』:先端モデル動物支援プラットフォームの病理支援班メンバーとして活動し、外部資金を受け入れて他大学の研究支援を通じた共同研究にも積極的に取り組んでいる。

研究の成果としては、界面活性剤二重膜によるナノベシクルを用いた drug delivery system に関する発明で特許を取得した。さらに、ドイツ国立癌研究所(細胞分子病理学分野)、ハイデルベルク大学(免疫学分野)との共同研究も進捗しており、2017年度には共著で *Kidney International* 誌に論文を発表しており、研究に関しても充実していると考える。さらに、積極的に治験を受け入れ、臨床講座が受託した治験への協力も年間で50事案(数百症例)程度行っている。また、日本組織細胞化学会主宰の組織細胞化学講習会では、宮崎が2年連続で講師をつとめ、さらに来年度もすでに講演予定である。さらに、日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本血管病理研究会では幹事を務め、特に日本血管病理研究会では中心的役割を果たすようになっている。さらに2018年度には日本血管炎病因・病態研究会という新たな学会・研究会を立ち上げ、その世話人としても活動する予定である。

現状の問題点及びその対応策

病理診断業務の負担が大きく、研究に十分な時間が割けないことが一つ目の問題点として挙げられる。研究補助を行う非常勤職員の雇用により対応を図っている。また、病理部内には十分な研究スペースがとれないことも問題点である。これは、腫瘍病理学分野、形態機能病理学分野との共同研究、動物実験施設のレンタルラボ(机)を借りることにより現時点では対応可能である。また、マウス感染に伴うクリーンアップはほぼ完了した。これらに要した資金のため研究費が必ずしも十分ではない。新たに民間の研究補助金(成人血管病研究振興財団)およびAMED開発委託、文部科学省科学研究費補助金および寄付金を得て、来年度も必要最低限の研究費は確保できた。

一方で、病理医を目指す若手の入局が相次ぎ、診断・研究を遂行する場所が極めて手狭となり、面積拡充が必須な状態となった。病理部近傍の使われていなかった廊下のスペースを有効利用するなどして、診断・研究スペースの確保を図ったが、未だに絶対的な面積不足に悩まされている。さらに癌ゲノム医療が業務となった場合には、絶対的な面積不足が生じることが危惧される。病理部北側テラス部分への面積拡充を現実的な問題として検討する必要が生じるものと考えられる。

今後の展望

今後も病理診断と研究のバランスをしっかりとりながら、臨床研究、基礎研究を展開していきたい。

また、研究マインドを持った若手医師の育成にもこれらの研究を活かしていくことを考える。

(3) 地域医療医学センター

1. 研究の概要

以下の各項目について研究を進めている。

(1) 地域連携に基づく医療の質改善に関する研究

H24 年度診療報酬改定「感染防止対策加算」による地域連携に基づく、院内感染の改善度調査および特定の地域での予防接種の効果に関する臨床疫学研究：生体支援センターと連携。岐阜県内加算全 58 病院からのデータ収集継続中。

(2) 地域医療実態調査研究

中長期的な医療ニーズと適正な医師配置の根拠となるデータを収集し、提言する（岐阜県全体と、特定の圏域における調査，診療科別分析も含めて）。岐阜県健康福祉部地域医療推進課および岐阜県病院協会等を通じてデータ収集・分析中。

(3) 修学資金制度と岐阜県医師育成・確保コンソーシアムのアウトカム評価研究

医師育成・確保に与える効果と今後の制度・体制の見直し

(4) 医師の就労環境改善に関する研究

とくに女性医師就労支援の取り組みや勤務環境改善によって病院経営に与える影響についての調査研究

(5) 地域基盤型教育の充実

多職種連携教育：IPE(Interprofessional Education)カリキュラム開発

2. 名簿

教授： 村上 啓雄 Nobuo Murakami
助教： 操 奈美 Nami Misao
助教： 白木 育美 Ikumi Shiraki

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 村上啓雄(編集責任者, 策定作業部会委員長). 国立大学附属病院感染対策協議会編, 病院感染対策ガイドライン 改訂第 2 版, 東京: じほう; 2015 年.
- 2) 村上啓雄, 西村佳代子(分担執筆). 慢性閉塞性肺疾患(COPD)「疾患概要」: 加藤昌彦編. 医師が知っておきたい外来で役立つ栄養・食事のポイント, 東京: 文光堂; 2015 年: 142-146.
- 3) 村上啓雄, 西村佳代子(分担執筆). 慢性閉塞性肺疾患(COPD)「栄養・食事療法の実践」: 加藤昌彦編. 医師が知っておきたい外来で役立つ栄養・食事のポイント, 東京: 文光堂; 2015 年: 147-153.
- 4) 村上啓雄(分担執筆). 「国立大学附属病院感染対策協議会 病院感染対策ガイドライン(医科) 改訂第 4 版」: 大久保憲編. はやわかりレビュー! 感染対策に必要なガイドラインこれだけは!, 大阪: メディカ出版; 2015 年: 21-29.
- 5) 一山 智, 村上啓雄, 大友陽子, 西山宏幸(座談会記録). 「アウトブレイク対応と病院の危機管理」Bio Scan Fresh and Future, 東京: エルムコム/エルゼビア・ジャパン; 2015 年: 2-8.
- 6) 村上啓雄, 大曲貴夫(分担執筆). 「総論 9. 医療関連感染とチーム医療」: 操 華子編. 感染管理・感染症看護テキスト, 東京: 照林社; 2015 年: 26-28.
- 7) 村上啓雄(編著). 編集にあたって: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 3.
- 8) 村上啓雄(編著). 総論 ICT 活動とは: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 9-10.
- 9) 村上啓雄(編著). コラム 01 感染防止対策加算の使い道: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 46-47.
- 10) 村上啓雄(編著). コラム 10 保健所との日ごろの付き合い方: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 232.
- 11) 村上啓雄(編著). 第 6 章 地域連携・近隣施設のサポート 01 感染防止対策加算を通じた連携: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 234-241.
- 12) 村上啓雄(編著). 第 6 章 地域連携・近隣施設のサポート 02 中小医療機関のサポートー行政機関や保健所との連携を含めてー: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 242-248.
- 13) 村上啓雄(編著). 第 6 章 地域連携・近隣施設のサポート 03 その他の連携ー在宅医療・介護老人保健施設等のサポートー: 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪: メディカ出版: 2015 年: 249-252.
- 14) 渡邊珠代, 村上啓雄(分担執筆). 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹 監修. I 感染症 11. 感染性腸炎」日常

- 診療に活かす診療ガイドラ UP-TO-DATE 2016-2017, 大阪: メディカルレビュー社; 2016年: 69-73.
- 15) 丹羽 隆, 村上啓雄. 「第2章 年間を通じて行おう! いつでも大切! To Do リスト①-② 抗菌薬の適正使用への取り組み」やり忘れ+うっかりを防ぐ! 感染対策 To Do リスト, 大阪: メディカ出版: 2017年: 32-36.
 - 16) 村上啓雄, 松本哲也編. Part V ESBL 産生菌の感染対策 3 介護施設における感染対策のポイント」これだけはしっておきたい 日常診療で遭遇する耐性菌 ESBL 産生菌 診断・治療・感染対策, 大阪: 医薬ジャーナル社: 2017年: 179-190.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 村上啓雄. 身近なヘルスケア② 冬場の感染対策-インフルエンザのノロウイルス, 経済月報 2015年; 28(11): 22-23.
- 2) 丹羽 隆, 村上啓雄, 伊藤善規: アウトブレイク発生?! なんの消毒薬をどう使う?! 「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌」, 薬局 2016年; 67(2): 248-250.
- 3) 村上啓雄. Patient Safety と医療関連感染制御, 臨床病理 2016年; 64(3), 345-354.
- 4) 村上啓雄. 感染症ガイドラインのすべて VII その他, 主要学会 6. 国公立大学附属病院感染対策協議会病院感染対策ガイドライン, 化学療法の領域 2016年; 32(S-1), 863-870.
- 5) 鈴木智之, 村上啓雄. 感染制御と医療経済; 医療関連感染対策の経済学的評価, 丸石感染対策ニュース 2016年; AUG No.4, 3-5.
- 6) 村上啓雄. 国公立大学附属病院感染対策協議会病院感染対策ガイドライン第4版(改訂第2版), CARLISLE 2016年; 21(2), 1-3.
- 7) 上啓雄. 巻頭言 Antimicrobial Stewardship Program 推進のために, 化学療法の領域 2017年; 33(3); 15.
- 8) 村上啓雄. 質疑応答 Pro⇔Pro プロからプロへ 地域における薬剤耐性菌への対策の取り組み, 週刊日本医事新報 2017年; No.4585; 63.

総説 (欧文)

1) なし

原著 (和文)

- 1) 中山麻美, 大瀧博文, 大楠清文, 米玉利準, 白井菜月, 丹羽麻由美, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 兼村信宏, 伊藤弘康, 村上啓雄, 清島 満. クロモアガーオリエンタシオン/ESBL 分画培地を用いたグラム陰性桿菌の簡易同定アルゴリズムと ESBL 産生菌の効率的な検出法の評価: 質量分析法との同定制度の比較と費用対効果を含めた検討, 日本臨床微生物学雑誌 2015年; 25巻: 40-49.
- 2) 丹羽 隆, 渡邊珠代, 村上啓雄. 医師と連携した抗菌薬の適正使用. ICT レベルアップ特集1月号: おしえて! 感染対策チーム薬剤師の活動, INFECTION CONTROL 2015年; 24巻: 81-83.
- 3) 渡邊珠代, 丹羽 隆, 土屋麻由美, 外海有規, 太田浩敏, 村上啓雄. 岐阜県内感染防止対策加算算定全病院での感染対策活動に関するサーベイランス結果報告, 環境感染誌 2015年; 30巻: 44-55.
- 4) 鈴木智之, 土屋麻由美, 丹羽 隆, 渡邊珠代, 太田浩敏, 深尾亜由美, 藤本修平, 村上啓雄. 当院における MRSA 感染制御活動の経済的評価に関する検討 環境感染誌 2015年; 30巻: 91-96.
- 5) 小池竜司, 小野和代, 八木哲也, 村上啓雄. TOPIC prompt report 国公立大学医学部附属病院感染対策協議会 - 第16回総会の概要と注目トピック -, INFECTION CONTROL 2015年; 24巻: 554-557.
- 6) 村上啓雄, 渡邊珠代, 深尾亜由美, 土屋麻由美, 丹羽 隆, 太田浩敏, 中山麻美, 河合直樹. 地域における連携の実際 今月の特集② 感染制御と連携-検査部門はどのようにかかわっていくべきか, 臨床検査 2015年; 59巻: 348-355.
- 7) 渡邊珠代, 村上啓雄. 感染防止対策加算による医療連携が微生物検査に与えた影響. 臨床微生物検査の現状分析と将来展望 23-患者さん中心の医療を実現するために-, モダンメディア 2015年; 61巻: 148-158.
- 8) 西城卓也, 大江直行, 池田貴英, 牛越博昭, 白橋幸洋, 高杉信寛, 松橋延壽, 矢野竜一郎, 渡邊珠代, 鈴木康之. 国際認証の時代における臨床系教員養成のあり方: マギル大学での臨床教育研修プログラムの事例検討, 医学教育 2015年; 46巻: 69-77.
- 9) 佐藤明日海, 北村 悠, 長瀬 大, 水野敬吾, 今福輪太郎, 村上啓雄, 西城卓也. 地域枠及び一般枠医学生への地域医療に対する認識の比較調査, 医学教育 2015年; 46(5): 419-424.
- 10) 中山麻美, 大瀧博文, 大楠清文, 米玉利華, 白井菜月, 丹羽麻由美, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 兼村信宏, 伊藤弘康, 村上啓雄, 清島 満. クロモアガーオリエンタシオン/ESBL 分画培地を用いたグラム陰性桿菌の簡易同定アルゴリズムと ESBL 産生菌の効率的な検出法の評価: 質量分析法との同定制度の比較と費用対効果を含めた検討, 日本臨床微生物学雑誌 2015年; 25(4): 40-49.
- 11) 熊田恵介, 村上啓雄, 豊田 泉, 小倉真治, 福田充宏. 高度救命救急センターにおけるインシデント報告の現状と気管切開事例に係る安全管理対策の効果, JJAMM(日救急医学会誌) 2016年; 27: 8-14.

- 12) 操 奈美, 白木育美, 森光華澄, 清島真理子, 村上啓雄. 岐阜大学医学部附属病院における, 仕事と育児の両立支援に関するアンケート調査の結果報告, 月刊地域医学 2016年; 30(8): 656-665.
- 13) 丹羽隆, 村上啓雄. 「Antimicrobial stewardship 活動の実際 今月の特集 2 Antimicrobial stewardship 臨床検査」 2017年; 61(1): 70-74.
- 14) 中井将仁, 操奈美, 白木育美, 森光華澄, 西城卓也, 土屋邦洋, 市橋亮一, 村上啓雄. 活動報告 岐阜大学医学部医学科テトリーアル選択配属・地域配属実習を受けて, 月刊地域医学 2017; 31(2): 114-120.
- 15) 熊田恵介, 村上啓雄, 吉田 実, 豊田 泉, 小倉真治, 福田充宏. 調査・報告温泉地域における入浴関連救急搬送事例の検討 地域特性からみた救急支援のあり方, 日臨救急医学会誌 2017年; 20(1): 18-22.
- 16) 安江智雄, 田辺正樹, 村上啓雄. 地域のパンデミックプランニング 次の新型インフルエンザ発生に備える!! -地域における医療体制の構築を目指した地方自治体の取組み-, インフルエンザ 2017年; 18(2); 115-118.

原著 (欧文)

- 1) Kumada K, Tamai S, Murakami N, Toyoda I, Ogura S, Fukuda A. Safety Management of Tracheostomies: An Analysis of Early Complications. J of Medical Safety. 2015:160-164.
- 2) Niwa T, Watanabe T, Suzuki K, Hayashi H, Ohta H, Nakayama A, Tsuchiya M, Yasuda K, Murakami N, Itoh Y. Early optimization of antimicrobial therapy improves clinical outcomes of patients administered agents targeting methicillin-resistant Staphylococcus aureus .J of Clinical Pharmacy and Therapeutics. 2016;41,19-25. CS 1.79
- 3) Niwa T, Watanabe T, Goto T, Ohta H, Nakayama A, Suzuki K, Shinoda Y, Tsuchiya M, Yasuda K, Murakami N, Yoshinori Itoh. Daily Review of Antimicrobial Use Facilitates the Early Optimization of Antimicrobial Therapy and Improves Clinical Outcomes of Patients with Bloodstream Infections. Biol Pharm Bull 2016;39,721-727. CS 1.79
- 4) Kumada K, Murakami N, Okada H, Toyoda I, Ogura S, Kondo H, Fukuda A : Rare central venous catheter malposition—an ultrasound-guided approach would be helpful: a case report J of Medical Case Report 2016;10,248-251. CS 0.63
- 5) Nakamura N, Hara T, Ninomiya S, Shibata Y, Matsumoto T, Nakamura H, Kitagawa J, Nannya Y, Shimizu M, Murakami N, Tsurumi H : Garenoxacin Prophylaxis for Febrile Neutropenia after Chemotherapy in Hematological Malignancies. Open Journal of Internal Medicine(OJIM) 2016;6,128-138.
- 6) Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M: Japanese antimicrobial consumption surveillance: First report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan(2009-2013). Journal of Global Antimicrobial Resistance 2016;7,19-23. CS 1.01
- 7) Yoshida S, Suzuki K, Suzuki A, Okada H, Niwa T, Kobayashi R, Murakami N, Ogura S, Itoh Y. 「Risk factors for the failure of treatment of Pseudomonas aeruginosa bacteremia in critically ill patients」 Pharmazie 2017;72:428-432. CS 1.28
- 8) Yoshida S, Suzuki A, Ohmori T, Niwa T, Okada H, Suzuki K, Kobayashi R, Doi T, Kitaichi K, Matuura K, Murakami N, Ogura S and Itoh Y. A simplified chart for determining the initial loading dose of teicoplanin in critically ill patients. Pharmazie. 2017;72:53-57. CS 1.28
- 9) Harada S, Suzuki A, Nishida S, Kobayashi R, Tamai S, Kumada K, Murakami N, Itoh Y. Reduction of medication errors related to sliding scale insulin by introduction of a standardized order sheet. Journal of Evaluation in Clinical Practice.2017;23:582-585. CS 1.31

研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 八木哲也(名古屋大学医学部), 研究分担者: 村上啓雄; 厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業: 医療機関におけるインフルエンザ感染対策の研究; 平成 25-27 年度(3 年計画予定); 1,620 千円(900 : 400 : 320 千円)
- 2) 研究代表者: 荒川宜親(名古屋大学医学部), 研究分担者: 村上啓雄, 馬場尚志, 太田浩敏; 厚生労働科学研究費補助金: 在宅医療患者等における多剤耐性菌の分離率及び分子疫学解析; 平成 27-29 年度(3 年計画予定); 500 : 300 千円
- 3) 研究代表者: 八木哲也(名古屋大学医学部), 研究分担者: 村上啓雄; 「地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究; 介護施設における薬剤耐性菌対策についての研究; 平成 28-30 年度(3 年計画予定); 350:250 千円

2) 受託研究

- 1) 村上啓雄, 馬場尚志, 深尾亜由美: 院内感染対策研究事業(平成 17 年度~); 平成 17-29 年度; 8,559 千円(993 : 500 : 500 : 500 : 500 : 500 : 500 : 500 : 800 : 800 : 822 : 822 : 822 千円); 岐阜県健康

福祉部医療整備課受託研究費

- 2) 村上啓雄, 馬場尚志, 寺本貴英, 大西秀典: 岐阜県予防接種センター委託事業(平成 20 年度~); 平成 20-29 年度; 10,400 千円(1,000: 1,000: 1,000: 1,000: 1,000: 1,080: 1,080: 1,080: 1,080: 1,080 千円): 岐阜県健康福祉部保健医療課受託研究費

3) 共同研究

- 1) 村上啓雄: 国立大学医学部附属病院共通ソフト“感染症管理システム”を用いた全自動全面電子化医療関連感染サーベイランスに関する研究; 平成 12 年~現在; 0 円: 群馬大学

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

村上啓雄:

- 1) 日本感染症学会評議員(平成 13 年度~現在)
- 2) 日本感染症学会中日本地方会理事(平成 28 年~現在)
- 3) 日本環境感染症学会評議員(平成 18 年度~現在)
- 4) 日本病態栄養学会評議員(平成 17 年度~現在)
- 5) 日本病態栄養学会監事(平成 27 年度~平成 28 年度)
- 6) 日本病態栄養学会理事(平成 29 年度~現在)
- 6) 日本病態栄養学会 NST 委員会委員長(平成 25 年度~現在)
- 7) 日本内科学会東海支部評議員(平成 12 年度~現在)
- 8) 日本口腔ケア学会評議員(平成 28 年~現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

村上啓雄:

- 1) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 1 月, 京都, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 2) 第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 27 年 1 月, 京都, 教育講演「感染と栄養」座長)
- 3) 第 27 回日本臨床微生物学会総会(平成 27 年 1 月, 東京, WS4 「2DCM - web ワークショップです。JANIS 検査部門参加中, 参加予定の皆さん, 是非のぞいてみてください。」コーディネーター)
- 4) 第 30 回日本環境感染症学会総会(平成 27 年 2 月, 神戸, シンポジウム 1 「次世代の人材育成を考慮した感染制御」座長)
- 5) 第 30 回日本環境感染症学会総会・学術集会(平成 27 年 2 月, 神戸, WS3 「JANIS 検査部門の 2DCM の体験 WS」コーディネーター)
- 6) 第 6 回東海 ICD アカデミー(平成 27 年 4 月, 名古屋, シンポジウム「血流感染対策」シンポジスト)
- 7) 第 89 回日本感染症学会総会(平成 26 年 4 月, 京都, シンポジウム 1 「病院感染症医の必要性」座長)
- 8) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 6 月, 東京, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 9) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 7 月, 大阪, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 10) 医療安全教育セミナー(上級編)2015 国際リスクマネジメント学会主催(平成 27 年 10 月, 東京, シンポジウム「医療事故の病院対応の現状と未来」司会およびシンポジスト)

- 11) 第 85 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第 58 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 27 年 10 月, 奈良, 特別講演 2「感染制御と感染症学」演者)
- 12) 第 7 回東海 ICD アカデミー(平成 27 年 11 月, 名古屋, シンポジウム「MRSA 保菌者対策」コメンター)
- 13) 第 62 回日本臨床検査医学学術集会(平成 27 年 11 月, 岐阜, 特別講演「感染対策から医療安全を考える」演者)
- 14) 第 28 回日本外科感染症学会総会 ICD 講習会(平成 27 年 12 月, 名古屋, 講演「ノロウイルスによる感染性胃腸炎と対策」演者)
- 15) 平成 27 年度厚生労働省院内感染対策講習会①, ③(平成 27 年 12 月, 神戸, パネルディスカッション「院内感染対策のシステム化・連携」「地域における感染対策のネットワーク」演者)
- 16) 平成 27 年度厚生労働省院内感染対策講習会(平成 27 年 12 月, 奈良, パネルディスカッション「アウトブレイク対応の実際と地域ネットワーク・地域連携」演者)
- 17) 第 27 回日本臨床微生物学会総会(平成 28 年 1 月, 仙台, WS 10「JANIS 検査部門 2DCM - web 体験・相談 ワークショップ」コーディネーター藤本修平 八束眞一 本間操 宮木祐輝 茂籠邦彦 岩崎澄央 大瀧博文 山田貴子 大石貴幸 勝見真琴 柴山恵吾 荒川宜親 八木哲也 村上啓雄 富田治芳 遠藤敏尚 飯島秀弥
- 18) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 28 年 1 月, 横浜, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 19) 第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 28 年 1 月, 横浜, 教育講演 3「トランス脂肪酸」座長)
- 20) 第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 28 年 1 月, 横浜, NST メディカルスタッフセッション(初級編)「静脈栄養の基本」座長)
- 21) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, ランチョンセミナー(LS 8)「地域連携による感染制御力向上の取組み」演者)
- 22) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, シンポジウム 6 テーマ: 行政も含めた感染制御の地域連携「感染制御の連携における今後の展望」演者)
- 23) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, 特別講演 4「国公立大学附属病院感染対策協議会の活動を通じての我が国の感染対策の推進」演者)
- 24) 第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会(平成 28 年 4 月, 仙台, 「一般演題 疫学」座長)
- 25) 第 5 回日本感染管理ネットワーク(ICNJ)学会学術集会・第 14 回総会(平成 28 年 5 月, 大分, シンポジウム 1 日本のサーベイランスシステム 現状と展望-ICN は何を求め, 何を担うのか-「国公立大学附属病院感染対策協議会の統一サーベイランスについて」鍋谷佳子 渡邊都貴子 田邊嘉也 高倉俊二 村上啓雄
- 26) H28 年度日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 28 年 7 月, 東京, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策」ファシリテーター)
- 27) 第 86 回日本感染症学会西日本地方学術集会 第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 28 年 11 月, 沖縄, ランチョンセミナー(LS)「Antimicrobial Stewardship Program のアウトカム」講演)
- 28) 第 86 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第 59 回日本感染症学会中日本地方会学術集会第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 28 年 11 月, 沖縄, ワークショップ「薬剤師は病院感染症診療のどこまでコミットできるか」座長)
- 29) 第 8 回東海 ICD アカデミー(平成 28 年 11 月, 名古屋, シンポジウム「MRSA 保菌者対策」コメンター)
- 30) 日本外科感染症学会 第 29 回学術集会(平成 28 年 11 月, 東京, 特別企画: JANIS サーベイランスデータのさらなる活用「JANIS 検査部門データ活用の現状と今後. 2DCM-web と RICSS で AMR と戦う」藤本修平, 村上啓雄, 柴山恵吾, 八木哲也, 荒川宜親)
- 31) 平成 28 年度厚生労働省院内感染対策講習会②(平成 28 年 12 月, 奈良, パネルディスカッション「多剤耐性菌検出時の ICT による介入ならびにアウトブレイク対応の実際」演者)
- 32) 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 29 年 1 月, 京都, 教育講演 9「感染制御と栄養管理」演者)
- 33) 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 29 年 1 月, 京都, NST スキルアップ講習会「NST 多職種メンバーに期待するもの」座長)

- 34) 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 29 年 1 月, 岐阜, セミナー講演「The 地域卒学生の育て方～卒後のキャリア支援を見据えて～」演者)
- 35) 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 29 年 1 月, 岐阜, WS-2「卒後キャリア支援を見据えた地域卒学生の育て方」ファシリテーター 前田隆浩 長谷川仁志 阿波谷敏英 片岡義裕 村上啓雄)
- 36) 第 32 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 29 年 2 月, 神戸, 教育講演 3「国公立大学附属病院感染対策協議会の社会貢献と今後の課題」演者)
- 37) H29 年度日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 29 年 7 月, 東京, 講義: 4.補助食品 5.経腸栄養の種類、投与ルート、管理 6.経腸栄養の合併症対策」ファシリテーター)
- 38) 第 49 日本医学教育学会大会(平成 29 年 8 月, 札幌, シンポジスト「地域参加型医学教育の方略と評価」岐阜大学の地域医療教育の取組」岡山雅信 白鳥正典 村上啓雄 井上和男)
- 39) 第 54 回日本細菌学会中部支部総会・学術集会(平成 29 年 10 月, 名古屋, パネル・ディスカッション「日本細菌学会再活性化のための提言」パネリスト 飯沼由嗣 八木哲也 村上啓雄)
- 40) 第 26 回日本口腔感染症学会(平成 29 年 11 月, 愛知, ICD 講習会 テーマ「チーム医療院内感染対策」連携・ネットワーク構築による地域感染制御強化の取り組み 演者)
- 41) 平成 29 年度厚生労働省院内感染対策講習会③(平成 29 年 12 月, 奈良, 講演「アウトブレイクとその対応」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

村上啓雄:

- 1) 国公立大学医学部附属病院感染対策協議会委員(平成 12 年度～現在)
- 2) 同協議会会長(平成 26 年度～現在)
- 3) 厚生労働省院内感染対策サーベイランス運営会議構成員(平成 24 年度～現在)
- 4) 厚生労働省院内感染対策中央会議構成員(平成 28 年～現在)
- 5) 岐阜地方裁判所専門員(平成 16 年度～現在)
- 6) 岐阜県感染症予防委員会情報対策部会解析小委員会委員(平成 11 年度～現在)
- 7) 岐阜県感染症予防委員会予防接種部会委員(平成 20 年度～現在)
- 8) 岐阜県予防接種健康被害調査専門医師集団専門医師(平成 16 年度～現在)
- 9) 岐阜県院内感染対策協議会委員(平成 18 年度～現在)
- 10) 岐阜県院内感染対策相談窓口回答者(平成 17 年度～現在)
- 11) 岐阜県新型インフルエンザ対策委員会委員長(平成 20 年度～現在)
- 12) (社)地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のすすめ」専門指導医(平成 21 年度～現在)
- 13) 岐阜県へき地地域医療対策委員会委員(平成 21 年度～現在)
- 14) 岐阜県立病院医療事故検討会委員(平成 22 年度～現在)
- 15) 郡上市地域医療確保検討委員会委員(平成 22 年度～現在)
- 16) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム企画調整委員会委員(平成 22 年度～現在)
- 17) 岐阜県教職員保健審査委員(平成 26 年度～現在)
- 18) 岐阜県在宅医療連携推進会議委員(平成 25 年度～現在)
- 19) 岐阜県人権懇話会委員(平成 26 年度～現在)
- 20) 愛知県立病院医療事故防止対策委員会委員(平成 26 年度～現在)
- 21) 岐阜県動物由来感染症情報関連体制整備検討会メンバー(平成 26 年度～現在)
- 22) メディカ出版 INFCTION CONTROL 編集委員(平成 27 年度～現在)
- 22) 全国地域医療教育協議会世話人(平成 27 年度～現在)
- 23) 全国地域医療教育協議会世話人監事(平成 29 年度～現在)

10. 報告書

- 1) 藤本修平, 村上啓雄, 八束眞一, 都倉昭彦, 興石芳夫, 本間 操, 山下計太, 静野健一, 石黒信久, 岩

崎澄央：院内感染対策の高精度化を目的とした電子システムの開発と応用に関する研究：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究」総合研究報告書：153-166(平成24～26年度)

- 2) 渡邊珠代, 村上啓雄:インフルエンザ研究 わが国の医療機関におけるインフルエンザ対策の実態と課題：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「医療機関における感染制御に関する研究」総括・分担研究報告書：55-60(平成26年度)
- 3) 渡邊珠代, 村上啓雄:岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム：労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」総括研究報告書：13-25(平成26年度)
- 4) 渡邊珠代, 村上啓雄:岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム：科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」総合研究報告書：33-49(平成25～26年度)
- 5) 前田隆浩, 阿波谷敏英, 井口清太郎, 井上和男, 大脇哲洋, 岡山雅信, 梶井英治, 武内啓祐, 谷 憲治, 長谷川仁志, 前田隆浩, 前野哲博, 村上啓雄, 三瀬順一：公益財団法人医学教育振興財団 H26 年度医学教育研究・助成事業「地域医療教育に関する全国調査報告書」(平成27年6月)
- 6) 柴山恵吾, 藤本修平, 村上啓雄, 八束眞一, 都倉昭彦, 興石芳夫, 本間 操, 山下計太 静野健一, 石黒信久, 岩崎澄央:新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)総合研究報告書. 「院内感染対策の高精度化を目的とした電子システムの開発と応用に関する研究」153-166(平成24～26年度)
- 7) 小林寛伊, 村上啓雄, 渡邊珠代:感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」I 地域支援ネットワーク構築の現状分析と今後のより効果的支援策に夕関する提言. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム」総括研究報告書13-25(平成26年度)

11. 報道

- 1) 村上啓雄：感染症予防対策：FM わっち(2015年1月19日)
- 2) 村上啓雄：新しい事故調査制度と大学病院の役割：医療事故情報センターニュース(2015年3月1日)
- 3) 村上啓雄, 渡邊珠代：医療機関における季節性インフルエンザ対策の実態調査：NHK おはよう日本(2015年4月16日)
- 4) 村上啓雄：岐阜の医療・医師確保～地域枠で若手育成：岐阜新聞オピニオン(2015年7月22日)
- 5) 操 奈美, 白木育美, 清島真理子, 村上啓雄：医療の現場学ぶ 岐阜大学キッズサマースクール開催：読売新聞(2015年8月22日)
- 6) 操 奈美, 白木育美, 清島真理子, 村上啓雄：医療の使命 子供ら実感 岐阜大学医学部キッズサマースクール開催：岐阜新聞(2015年8月22日)
- 7) 村上啓雄：ICD トップランナー Vol.2 No.1 監修(塩野義製薬株式会社感染症薬適正使用推進室提供)「耐性菌が検出されたらどう動くかルーチンワークで耐性菌に立ち向かう」(2016年3月1日)
- 8) 村上啓雄：ラジオ NIKKEI/インターネットライブ「感染症 TODAY」「地域連携による感染症対策, 感染制御の強化」：日経ラジオ社東京(2016年7月14日)
- 9) 操 奈美, 白木育美, 森光華澄, 清島真理子, 村上啓雄：命救う親の仕事に関心を 岐阜大学医学部キッズサマースクール開催：中日新聞(2016年8月23日)
- 10) 村上啓雄：外来診療における抗菌薬適正使用 岐阜県保険医新聞第(2017年1月10日)
- 11) 村上啓雄, 森川秀美, 土屋麻由美：内視鏡業務における眼への体液悲惨リスクとその対策：INFECTION CONTROL Interview (2017年2月1日)
- 12) 操 奈美, 白木育美, 森光華澄, 清島真理子, 村上啓雄：高齢者を疑似体験 岐阜大学医学部キッズサマースクール：中日新聞(2017年8月19日)
- 13) 村上啓雄：インフルエンザとノロ対策：NHK 岐阜(2017年12月13日)

12. 自己評価

評価

平成19年度に発足した地域医療医学センター（Center for Regional Medicine : CRM）の業務を継続した。すなわち、地域枠推薦入試、岐阜県医学生修学資金受給学生指導・支援（第1種；地域枠，第2種とも）、地域医療と触れ合う医学科カリキュラム，とくにM2-3地域配属実習コーディネート，初期臨床研修における「CRM地域医療研修」の運営，岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの運営，とくに岐阜県医学生修学資金受給者の初期臨床研修および指定勤務期間内の教育・ルールに基づいた適正勤務の管理，岐阜大学医学部・同附属病院女性医師就労支援の会の運営，岐阜県地域医療対策協議会など社会的活動，地域医療振興協会・自治医科大学卒業生との連携などを行ってきた。これらにより，岐阜大学医学部医学科の定員増後の学生確保，在学中の地域医療の重要性の教育，卒業後の地域医療現場での育成，医療の確保，医師の確保等に継続的に貢献できているものと思われる。

現状の問題点及びその対応策

CRM教育職員は，内科系分野の教授（兼任）および専任助教2名の定員が確保できているが岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの助教相当が定員2名のところ1名しか確保できておらず，今後ますます地域枠や岐阜県医学生第2種修学資金受給後の卒業生が増え，岐阜県内で勤務するキャリアアップ支援の業務が爆発的に増加すると見込まれ，教育職員のみならず事務職員の確保が喫緊の課題である。場合によっては岐阜県からの派遣職員や，岐阜大学医学部内から専門職員相当を雇用することも視野に入れ，実質的に岐阜県地域医療センターとしてとらえられている現状の大幅機能強化を図りたい。

地域枠および岐阜県医学生第2種修学資金受給者の制度離脱率は，平成30年1月末現在それぞれ0.97%（2/206），14.38%（21/146）になっている。とくに地域枠学生の制度離脱は社会的に大きな問題である。これ以上の離脱を出さないためにも，学生や卒業後初期臨床研修および指定勤務履行中の医師に密なコンタクトをとって，コミュニケーションの質改善による防止を図っていきたい。しかしながら，最も重要なことは，離脱することなく，返還免除条件を遵守し，岐阜県内で適切に勤務を継続している卒業生たちが大半であることを忘れてはいけないことである。地域枠の留年率は前期・後期入学者より大幅に低く，また今のところ卒業者の国家試験合格率は100%であることを，適切に評価し，彼らが安心して岐阜県内勤務によりキャリアアップができることを支援することに最大限の注力をしていかなければならない。育成・教育・指導体制の強化を引き続き最重要課題としたい。

研究面においては，地域は配属実習における学生研究や，育児と仕事の両立支援に関するアンケート調査の月刊地域医学への論文発表などは行っているが，地域枠制度そのものの評価に関する研究発表を目標にし，またその他の各課題についてまとまった業績を創生できるようエフォートを集中していきたい。

今後の展望

岐阜県医師育成・確保コンソーシアム機能をさらに充実させるべく，教育・事務職員の雇用を確保するとともに，研究課題に挙げたもののうち，とくに医師の必要度分析を各圏域別，各診療科別に詳しく実施し，論文など発表していきたい。岐阜県の医療および医師確保について，より一層今までの施策が実を結ぶよう，センター員一同精進する所存である。

(4) 医学教育開発研究センター（テュートリアル部門）

1. 研究の概要

2010年4月に文部科学省から全国唯一の医学教育共同利用拠点として認定され、(1)新しい医学教育の開発研究と普及、(2)医学教育に貢献できる人材育成、(3)国内外の医学教育機関との連携・共同研究、を大きなミッションとして取り組んでいる。

① PBL テュートリアル教育：外部に向けた PBL に関するセミナー・ワークショップを企画するとともに、岐阜大学におけるテュートリアル教育 10 年の経験を検証し、論文化した。医学教育のグローバルスタンダードと分野別認証の観点からも、より進化した PBL テュートリアル教育システムの構築を目指している。

② インターネット PBL：大学や学部垣根を超え、いつでも、どこからでも参加できる能動的双方向性 Web-PBL システムを全国の教員・学生と協力しながら開発し、実際の授業で活用している。学部向けコースの他に、英語コース、大学院コースなど多彩なプログラムを用意している。また 2015 年度から医療者教育の生涯教育（フェロシップ）への活用を図っている。

③ 医療コミュニケーション・プロフェッショナルリズム教育：模擬患者による医療面接教育法の研究と実践を進めている。4 年生・5 年生に対する医療面接実習、外部に向けたセミナー・ワークショップを実施している。平成 20 年度から 1 年生に対する地域体験実習（8 週間）、21 年度からライフサイクル、医師患者関係の授業、23 年度から 4 年生に対する臨床推論の授業など、系統的なプロフェッショナルリズム・行動科学教育の導入を行った。地域体験実習、医療面接実習では電子ポートフォリオによる振り返りとフィードバックを推進している。

④ 医学教育セミナー&ワークショップ：年 4 回、通算 67 回開催し、のべ参加者数は 7000 名を超えている。医学教育分野の全国 FD として定評を得ており、共同研究の推進にも大きな役割を果たしている。2015 年度から、より系統的・高度なワークショップを提供し、一定回数の参加者にはアソシエイト、フェローの資格認定を開始している。

⑤ 多職種連携医療教育の推進：平成 23 年度から多職種連携医療教育を柱とした医学教育共同利用拠点の予算措置があり、人員と研究体制の充実を図るとともに、5 大学 1 組織からなる共同開発事業を進め、様々なモデルプログラムと教材を開発し、ワークショップ・シンポジウムによって情報発信した。

⑥ 大学院「医学教育学分野」：平成 20 年度（2008 年 4 月）に開設した岐阜大学大学院医学系研究科医療管理学講座医学教育学分野には、現在、大学院生 11 名が在籍し、研究を推進している。

⑦ 国際交流：毎年外国人客員教授もしくは特任教授を招聘し、国内における医学教育研究の推進と国際交流に貢献している。平成 26 年度：Susan Bridges 先生（香港大学）、Phillip Evans 先生（特任教授）、27 年度：Daisy Rotzoll 先生（Leipzig 大学）、28 年度：Yvonne Steinert 先生（McGill 大学）。

⑧ 医療英語教育：医学生の国際交流と海外臨床実習を促進するために、系統的な医療英語教育カリキュラム（課外授業）を構築し、英語模擬患者の育成と医療英語 OSCE による評価を行い、毎年 10～20 名の医学生を 4～8 週間の海外臨床実習に派遣している。

⑨ 医学教育ユニットの会：各大学の医学教育部門（ユニット）の連携組織を形成し、情報交換・共同研究の促進を図り、協力しながら課題解決とより良い教育の開発を進めている。

⑩ 情報発信：ホームページの内容を充実させ、セミナー&ワークショップ、インターネット PBL、医療面接実習、スキルラボ、医療英語教育、国際交流、学務事務情報などの最新情報を発信している。

⑪ 医学教育分野別認証：国際的な医学教育の質保証の取組として、2015 年 12 月に分野別認証のパイロット事業に応募し受審した。2016 年 6 月に評価報告書を受領し、改善点を 2017 年 5 月に日本医学教育評価機構(JACME)に報告し、正式に認証された(認証期間 2017 年 4 月～2023 年 3 月)。

なお上記の研究は、すべて医学教育開発研究センター・バーチャル部門と共同して推進した。

2. 名簿

教授：	鈴木康之	Yasuyuki Suzuki
教授(併任)：	丹羽雅之	Masayuki Niwa
併任講師：	今福輪太郎	Rintaro Imafuku
助教：	恒川幸司	Koji Tsunekawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 丹羽雅之. 岐阜大学の医療系 PBL: 溝上慎一・成田秀夫編, アクティブラーニング・シリーズ第 2 巻, アクティブラーニングとしての PBL と探究的な学習, 東京: 東信堂; 2016 年: 89-105.
- 2) 丹羽雅之. e-learning と遠隔教育: 高橋優三編, 近未来の医療と現在の医学教育, 東京: 篠原出版; 2016 年: 183-189.
- 3) 奥山虎之, 小須賀基通, 大橋十也, 鈴木康之, 田中あけみ. ムコ多糖症診療マニュアル, 東京: 診断と治療社; 2016 年: 1-144.
- 4) 鈴木康之. 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班編集: 副腎白質ジストロフィー(ALD)診療ガイドライン 2017, 東京, 診断と治療社; 2017 年: 46.
- 5) 鈴木康之. 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班編集: ムコ多糖症(MPS)II 型診療ガイドライン 2017, 東京, 診断と治療社; 2017 年: 24.
- 6) 鈴木康之. 小児科医の役割. 遠藤文夫総編集, 小児科診断・治療指針 改訂第 2 版, 東京, 中山書店; 2017 年: 2-4.
- 7) 鈴木康之. 身体診察の基本. 遠藤文夫総編集, 小児科診断・治療指針 改訂第 2 版, 東京, 中山書店; 2017 年: 8-11.
- 8) 今福輪太郎. 教育社会学一多職種連携実践の必要性和その教育方略一: 平成 29 年度 歯科衛生士専任教員講習会Ⅱテキスト, 大垣: 全国歯科衛生士教育協議会; 2017 年: 81-88.

著書 (欧文)

- 1) Niwa M, Maruyama T, Hisamatsu K, Kobayashi K, Miyazaki T, Hirata A, Hatano Y, Tomita H, Hara A. The Role of Microglial Galectin-3 in Central Nervous System Disease. In. Microglia: Physiology, Regulation and Health Implications. ed. Giffard ER. New York: Nova Science Publish; 2015:205-216.
- 2) Tomita H, Kanayama T, Niwa A, Noguchi K, Niwa M, Hara A. "Liver Cancer " Chapter title: Cancer Stem Cell and Aldehyde Dehydrogenase 1 in Liver Cancers. INTECH Open Access Publisher, Rijeka, Croatia, 2016. ISBN 978-953-51-4910-1.
- 3) Imafuku R, Susan B (eds): Interactional Research in Problem-Based Learning: Gaining Emic Perspectives. Special Issue of Interdisciplinary Journal of Problem-Based Learning, 10(2), Purdue University Press; 2016.

総説 (和文)

- 1) 鈴木康之. 学部教育. これからの小児医療-小児科医はどこに向かうのか, 小児科臨床増刊号 2015 年; 68 巻: 2195-2201.
- 2) 今福輪太郎, 西城卓也, 鈴木康之. 学生の研究体験を活性化させるために ~医学教育開発研究センターの取り組み~, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2015 年; 第 1 号: 97-103.
- 3) 今福輪太郎, 佐竹由希子, 桐山明宏: スーパーグローバルハイスクール事業への大学教員の継続的参画~これからの高大連携に向けて~, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2016 年; 第 2 号: 87-97.
- 4) 恒川幸司, 鈴木康之. 岐阜大学医学部医学科における教学 Institutional Research (IR) の実践と課題: 医学教育分野別認証評価における議論から, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2016 年; 第 2 号: 147-155.
- 5) 鈴木康之. 医療系教育学会の使命: 医学教育から薬学教育への期待. 薬学教育 2017 年; 1 巻: 1-4.
- 6) 今福輪太郎, 早川佳穂, 西城卓也. 大学全体で支える国際教育プログラムを目指して: 海外臨床実習の準備教育の取り組みから, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2017 年; 第 3 号: 169-177.

総説 (欧文)

- 1) Tomatsu S, Alméciga-Díaz CJ, Montañó AM, Yabe H, Tanaka A, Dung VC, Giugliani R, Kubaski F, Mason RW, Yasuda E, Sawamoto K, Mackenzie W, Suzuki Y, Orii KE, Barrera LA, Sly WS, Orii T. Therapies for the bone in mucopolysaccharidoses. Mol Genet Metab. 2015;114:94-109. CS 2.84
- 2) Niwa M, Aoki H, Hirata A, Tomita H, Green PG, Hara A. Retinal Cell Degeneration in Animal Models. Int J Mol Sci. 2016 Jan 15;17(1). pii: E110. doi: 10.3390/ijms17010110. CS 3.37

原著 (和文)

- 1) 小西恵理, 川島晶子, 川上 恵, 中村美恵子, 鈴木康之. 新生児蘇生シミュレーション教育にブリーフィング/デブリーフィングが与える影響, 日本周産期・新生児医学会雑誌 2015 年; 51 巻: 1024-1032.
- 2) 西城卓也, 大江直行, 池田貴英, 牛越博昭, 白橋幸洋, 高杉信寛, 松橋延壽, 矢野竜一郎, 渡邊珠代, 鈴木康之. 国際認証の時代における臨床系教員養成のあり方: マギル大学での臨床教育研修プログラムの事例検討, 医学教育 2015 年; 46 巻: 69-77.
- 3) 西城卓也, 高杉信寛, 大江直行, 牛越博昭, 松橋延壽, 矢野竜一郎, 渡邊珠代, 池田隆英, 白橋幸洋, 鈴木康之. 国際化する医学教育に対峙する臨床指導医 ~海外研修をきっかけにした教育へのモチベーション~: 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2015 年; 第 1 号: 118-126.
- 4) 川上ちひろ, 西城卓也, 今福輪太郎, 村岡千種, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. 施設を超える、職種を超える: 多施設合同学生向け多職種連携教育課外セミナーに取り組んだ 3 年間, 医学教育 2015 年; 46 巻: 178-184.
- 5) 榎田めぐみ, 片岡竜太, 鈴木久義, 今福輪太郎, 小倉 浩, 刑部慶太郎, 松木恵理, 下司映一, 木内祐二, 高木 康. 臨床シナリオを用いた学部連携 PBL チュートリアルの多職種連携教育における有用性の検討, 保

健医療福祉連携：連携教育と連携実践 2015年；8巻：10-19.

- 6) 西城卓也, 村岡千種, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 恒川幸司, 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦. 段階的かつ継続的に医療教育能力を育むことをめざして—ニーズ調査から見えたもの—, 新しい医学教育の流れ 2015年；第15巻1号：1-5.
- 7) 川上ちひろ, 西城卓也, 藤崎和彦, 鈴木康之. 問題をもつ学習者の“問題”とは何か：系統的文献検索, 医学教育 2015年；46巻：365-371.
- 8) 大口明日海, 北村 悠, 長瀬 大, 水野敬悟, 恒川幸司, 今福輪太郎, 村上啓雄, 西城卓也. 地域枠及び一般枠医学生の地域医療に対する認識の比較調査, 医学教育 2015年；46巻：419-424.
- 9) 西屋克己, 関口進一郎, 高村昭輝, 石毛美夏, 平澤恭子, 和田 浩, 小西恵理, 神山 浩, 徳永康行, 菱木はるか, 島袋林秀, 市河茂樹, 赤木美智男, 岡田 満, 河野喜文, 竹村 司, 井田博幸, 鈴木康之. 小児科医のための臨床研修指導医講習会：優れた小児科専門医の育成をめざして, 日本小児科学会雑誌 2016；120(3)：656-661.
- 10) 川上ちひろ, 西城卓也, 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦. 知られざる医療系学生の横顔：教務事務職員が困ると感じる学生対応から見えるもの, 医学教育 2016；47(5)：301-306.
- 11) 星野奈生子, 青木弘枝, 神田明日香, 崔 乗奎, 手柴富美, 中村光一, 名和宏樹, 恒川幸司, 今福輪太郎, 西城卓也. 医学生の結婚・家族観と診療科選択に関する調査：アンケートによる予備調査, 医学教育 2016年；47巻1号：23-29.
- 12) 小倉 浩, 刑部慶太郎, 片岡竜太, 鈴木久義, 今福輪太郎, 榎田めぐみ, 木内祐二, 田中一正, 倉田知光. 医系総合大学における初年次専門職連携教育の教育効果, 保健医療福祉連携：連携教育と連携実践 2016年；9巻1号：29-38.
- 13) 青木弘枝, 星野奈生子, 神田明日香, 崔 乗奎, 手柴富美, 中村光一, 名和宏樹, 西城卓也, 今福輪太郎. 男女医学生はどのようなキャリア認識を有しているのか？—インタビュー調査から見えてきたもの—, 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2016年；39巻4号：198-204.
- 14) 加藤智大, 恒川幸司, 福山俊彦, 福沢嘉孝. 臨床実習前教育における自己学習時の動画付き臨床手技データベース導入の試み, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 2016年；4：48-53.
- 15) 恒川 幸司, 鈴木 康之. 総括的評価を組み合わせた、医学生能力特性分析の試み 岐阜大学医学部教学IRの取り組みから, 医学教育 2017年；48巻：79-86.

原著 (欧文)

- 1) Orsini C, Evans P. Social media as a teaching strategy: opportunities and barriers. *AHPE*. 2015;1:44-46.
- 2) Mahboob U, Evans P. Professionalism: how to match the general medical council recommendations in undergraduate medical curriculum?. *Professional Med J*. 2015;22:664-669.
- 3) Orsini C, Binnie V, Evans P, Ledezma P, Fuentes F, Villegas MJ. Psychometric validation of the academic motivation scale in a dental student sample. *Journal of Dental Education*. 2015;79:971-981. CS 0.89
- 4) Tanjuakio J, Suzuki Y, Patel P, Yasuda E, Kubaski F, Tanaka A, Yabe H, Mason RW, Montañó AM, Orii KE, Orii KO, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Activities of daily living in patients with Hunter syndrome: impact of enzyme replacement therapy and hematopoietic stem cell transplantation. *Mol Genet Metab*. 2015;114:161-9. doi: 10.1016/j.ymgme.2014.11.002. Epub 2014 Nov 8. CS 2.84
- 5) Shimada T, Tomatsu S, Mason RW, Yasuda E, Mackenzie WG, Hossain J, Shibata Y, Montañó AM, Kubaski F, Giugliani R, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii KE, Fukao T, Orii T. Di-sulfated Keratan Sulfate as a Novel Biomarker for Mucopolysaccharidosis II, IVA, and IVB. *JIMD Rep*. 2015;21:1-13.
- 6) Kobayashi K, Niwa M, Hoshi M, Saito K, Hisamatsu K, Hatano Y, Tomita H, Miyazaki T, Hara A. Early microlesion of viral encephalitis confirmed by galectin-3 expression after a virus inoculation. *Neurosci Lett*. 2015;doi: 10.1016/j.neulet.2015.02.061. CS 2.21
- 7) Yoshimura H, Kitazono H, Fujitani S, Machi J, Saiki T, Suzuki Y, Ponnampereuma G. Past-behavioural versus situational questions in a postgraduate admissions multiple mini-interview: a reliability and acceptability comparison. *BMC Medical Education*. 2015;15:75. CS 1.75
- 8) Imafuku R, Saiki T, Kawakami C, Suzuki Y. How do students' perceptions of research and approaches to learning change in undergraduate research?. *International Journal of Medical Education* 2015;6:47-55.
- 9) Kato S, Yabe H, Takakura H, Mugishima H, Ishige M, Tanaka A, Kato K, Yoshida N, Adachi S, Sakai N, Hashii Y, Ohashi T, Sasahara Y, Suzuki Y, Tabuchi K. Hematopoietic stem cell transplantation for inborn errors of metabolism: A report from the Research Committee on Transplantation for Inborn Errors of Metabolism of the Japanese Ministry of Health, Labour and Welfare and the Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. *Pediatric Transplantation* 2016 Jan 25. doi: 10.1111/petr.12672. CS 1.16
- 10) Hisamatsu K, Niwa M, Kobayashi K, Miyazaki T, Hirata A, Hatano Y, Tomita H, Hara A. Galectin-3 expression in hippocampal CA2 following transient forebrain ischemia and its inhibition by hypothermia or antiapoptotic agents. *Neuroreport*. 2016 Mar 23;27(5):311-317. doi: 10.1097/WNR.0000000000000538. CS 1.47
- 11) Niwa M, Saiki T, Fujisaki K, Suzuki Y, Evans P. The Effects of Problem-Based-Learning on the Academic Achievements of Medical Students in One Japanese Medical School, over a Twenty-Year Period. *Health Professions Education*. 2016;2;3-9.

- 12) Saiki T, Abe K, Kawakami C, Fujisaki K, Suzuki Y. How Do Medical Students develop the self-awareness as social entities during the longitudinal communication experience with citizens? *Journal of Contemporary Medical Education*. 2016;4:89-96.
- 13) Imafuku R, Saiki T, Suzuki Y. Developing undergraduate research in Japanese Medical Education. *Council on Undergraduate Research Quarterly* 2016;37:34-40.
- 14) Kubaski F, Suzuki Y, Orii K, Giugliani R, Church HJ, Mason RW, D ng VC, Ngoc CT, Yamaguchi S, Kobayashi H, Girisha KM, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Glycosaminoglycan levels in dried blood spots of patients with mucopolysaccharidoses and mucopolipidoses. *Mol Genet Metab*. 2016; S1096-7192(16)30404-8. doi: 10.1016/j.ymgme. 2016;12:010. CS 2.84
- 15) Masutani T, Tanaka YT, Kojima H, Tsuboi M, Hara A, Niwa M. Cynaropicrin is dual regulator for both degradation factors and synthesis factors in the cartilage metabolism. *Life Sci*. 158:70-7, 2016. doi: 10.1016/j.lfs. 2016;06:028. CS 2.70
- 16) Imafuku R, Bridges S. Analyzing interactions in PBL-Where to go from here?. *Interdisciplinary Journal of Problem-Based Learning*. 2016;10(2).
- 17) Kubaski F, Mason RW, Nakatomi A, Shintaku H, Xie L, van Vlies NN, Church H, Giugliani R, Kobayashi H, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii T, Fukao T, Monta o AM, Tomatsu S. Newborn screening for mucopolysaccharidoses: a pilot study of measurement of glycosaminoglycans by tandem mass spectrometry. *J Inherit Metab Dis*. 2017 Jan;40(1):151-158. CS 3.19
- 18) Khan SA, Peracha H, Ballhausen D, Wiesbauer A, Rohrbach M, Gautschi M, Mason RW, Giugliani R, Suzuki Y, Orii KE, Orii T, Tomatsu S. Epidemiology of mucopolysaccharidoses. *Mol Genet Metab*. 2017 Jul;121(3):227-240. CS 2.98
- 19) Kubaski F, Yabe H, Suzuki Y, Seto T, Hamazaki T, Mason RW, Xie L, Onsten TGH, Leistner-Segal S, Giugliani R, D ng VC, Ngoc CTB, Yamaguchi S, Monta o AM, Orii KE, Fukao T, Shintaku H, Orii T, Tomatsu S. Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Patients with Mucopolysaccharidosis II. *Biol Blood Marrow Transplant*. 2017 Oct;23(10):1795-1803. CS 3.66
- 20) Stapleton M, Kubaski F, Mason RW, Yabe H, Suzuki Y, Orii KE, Orii T, Tomatsu S. Presentation and Treatments for Mucopolysaccharidosis Type II (MPS II; Hunter Syndrome). *Expert Opin Orphan Drugs*. 2017;5(4):295-307. CS 0.52
- 21) Saiki, T., Imafuku, R., Suzuki, Y., & Ban, N. The truth lies somewhere in the middle: Swinging between globalization and regionalization of medical education in Japan. *Medical teacher*. 2017;39(10), 1016-1022. CS 1.69
- 22) Arai K., Saiki T., Imafuku R., Kawakami C, Fujisaki K., Suzuki Y. What do Japanese residents learn from treating dying patients? The implications for training in end-of-life care. *BMC medical education*, 2017;17(1), 205. CS 1.71
- 23) Nagatani Y, Imafuku R, Takemoto T, Waki T, Obayashi T, Ogawa T. Dental hygienists' perceptions of professionalism are multidimensional and context-dependent: a qualitative study in Japan. *BMC Medical Education*, 2017;17(1), 267. CS 1.71

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：岐阜大学医学教育開発研究センター；文科省特別経費教育関係共同実施分「医療者教育フェローシップの構築：体系的FD・メンタリング・研究支援を融合した新たなFDの全国展開」；平成27－31年度；70,000千円
- 2) 研究代表者：衛藤義勝，研究分担者：鈴木康之；厚生労働省難治性疾患ライソゾーム病(ファブリ病含む)；平成26－28年度；1,900千円(900：500：500千円)
- 3) 研究代表者：鈴木康之，研究分担者：西城卓也；文科省科学研究費基盤 研究(C)医療者教育学大学院修士課程の在り方に関する調査研究；平成27－29年度；3,800千円(1,300：1,300：1,200千円)
- 4) 研究代表者：今福輪太郎；科学研究費補助金若手研究(B)：専門職連携における医療人としてのアイデンティティ形成過程の解明とその教育的応用；平成26－28年度；3,640千円(1,560：1,430：650千円)
- 5) 研究代表者：恒川幸司；科学研究費補助金若手研究(B)：卒前・卒後のアウトカム評価の統合－全人的キャリアの構築を目指して；平成28年－30年度；3,900千円(1,170：1,560：1,170千円)
- 6) 研究代表者：福井次矢，研究分担者：鈴木康之；厚生労働行政推進調査事業補助金；平成27－29年度；配分なし
- 7) 研究代表者：丹羽雅之；文科省科学研究費基盤研究(C) 医療者教育アソシエイト/フェローシップ養成LMSの開発と全国展開；平成29－31年度；3,700千円(1,800：1,000：900千円)
- 8) 研究代表者：今福輪太郎；科学研究費補助金若手研究(B)：超高齢社会における医科歯科連携体制の構築プロセスの検証と教育プログラムの開発；平成29年度－31年度；3,640千円(1,560：1,430：650千円)

- 9) 研究代表者：今福輪太郎；岐阜大学活性化経費(教育)：海外臨床実習における学びと振り返りを支援するeポートフォリオシステムの構築；平成29年度；500千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

鈴木康之：

- 1) 日本医学教育学会理事，理事長，議員（～現在）
- 2) 日本小児科学会代議員，生涯教育・専門医育成委員会，試験運営委員会（～現在）
- 3) 日本先天代謝異常学会評議員（～現在）
- 4) 日本人類遺伝学会評議員（～現在）
- 5) 東海臨床遺伝・代謝懇話会代表世話人（～現在）
- 6) 日本シミュレーション医療教育学会理事，評議員（～現在）

丹羽雅之：

- 1) 日本炎症・再生医学会評議員（～現在）
- 2) 日本薬理学会評議員（～現在）
- 3) 日本医学教育学会評議員（～現在）
- 4) 日本臨床薬理学会評議員（～現在）
- 5) 日本医学教育学会広報・情報基盤委員会委員（～現在）
- 6) 医療系 e-learning 全国交流会 副会長（～現在）
- 7) 教育システム情報学会編集委員（～平成29年9月）
- 8) 日本シミュレーション医療教育学会幹事，評議員（～現在）
- 9) 東海7大学医学教育連絡協議会幹事（～現在）
- 10) 教育システム情報学会人材育成委員会医療・看護部会委員（～現在）

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会編集委員（平成25年度～現在）

2) 学会・講習会開催

鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，西城卓也，川上ちひろ，今福輪太郎，恒川幸司：

- 1) 第55回医学教育セミナーとワークショップ（平成27年1月，岐阜）
- 2) 第56回医学教育セミナーとワークショップ（平成27年6月，埼玉）
- 3) 第57回医学教育セミナーとワークショップ（平成27年8月，岐阜）
- 4) 第58回医学教育セミナーとワークショップ（平成27年10月，香川）
- 5) 第59回医学教育セミナーとワークショップ（平成28年1月，岐阜）
- 6) 第60回医学教育セミナーとワークショップ（平成28年5月，東京）
- 7) 第61回医学教育セミナーとワークショップ（平成28年8月，岐阜）
- 8) 第62回医学教育セミナーとワークショップ（平成28年10月，兵庫）

3) 学術雑誌

鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，西城卓也，川上ちひろ，今福輪太郎，恒川幸司：

- 1) 新しい医学教育の流れ：編集委員（～現在）

鈴木康之：

- 1) Medical Education ; International Editorial Board (～現在)
- 2) 日本シミュレーション医療教育学会雑誌；編集委員(平成 25 年～現在)

丹羽雅之：

- 1) 教育システム情報学会；編集委員(～平成 29 年 9 月現在)

今福輪太郎：

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員(平成 25 年度～現在)
- 2) BMC Medical Education; Associate Editor(平成 27 年～現在)
- 3) Interdisciplinary Journal of Problem-Based Learning; Guest Issue Editor(平成 27 年～平成 28 年)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

鈴木康之：

- 1) 第 95 回日本小児科学会大分地方会例会(平成 27 年 3 月, 大分, 特別講演「小児科専門医制度のゆくとと指導医の役割」演者)
- 2) 第 118 回日本小児科学会学術集会(平成 27 年 4 月, 大阪, 新しい小児科専門医制度における指導医の役割. 総合シンポジウム 8「新専門医制度-機構の方向性と小児科学会としての対応-」演者)
- 3) 第 118 回日本小児科学会学術集会(平成 27 年 4 月, 大阪, 医学教育等(医学教育)座長)
- 4) 第 47 回日本医学教育学会大会(平成 27 年 7 月, 新潟, 日韓医学教育学会交流招請講演「Clinical skill assessment in the Korean Medical License Examination. 講師 Jong Hoon KIM」座長)
- 5) 第 47 回日本医学教育学会大会(平成 27 年 7 月, 新潟, パネルディスカッション 1「International collaboration in medical education - what can Japan contribute to the world?」座長)
- 6) 第 136 回東海産婦人科学会(平成 28 年 2 月, 岐阜, 「専攻医指導におけるポイント」演者)
- 7) 日本外来小児科学会教育検討会 第 19 回実習指導者研修会(平成 28 年 7 月, 大阪, 「小児科医の生涯教育 - 成人学習理論を踏まえて -」演者)
- 8) 第 52 回日本周産期・新生児医学会 (平成 28 年 7 月, 富山, 「専門研修における指導医の役割: 日本小児科学会での取組」演者)
- 9) 第 48 回日本医学教育学会大会(平成 28 年 7 月, 高槻, 大会長講演「大阪医科大学の建学の精神と医療人の育成について」座長)
- 10) 第 48 回日本医学教育学会大会(平成 28 年 7 月, 高槻, 「牛場賞, 医学教育日野原賞, 懸田賞, 受賞者講演」座長)
- 11) 第 1 回日本薬学教育学会(平成 28 年 8 月, 京都, 「医療系教育学会の使命: 医学教育から薬学教育への期待」演者)
- 12) 第 159 回日本獣医学会学術集会(平成 28 年 9 月, 藤沢市, 「医学教育改革の潮流と日本医学教育学会の取組」演者)
- 13) 日本薬学会東海支部特別講演会(平成 28 年 10 月, 名古屋, 「医療者教育のポイント: その理論と実際」演者)
- 14) 日本小児科医会 地域総合小児医療認定医 第 2 回指導者研修会(平成 28 年 11 月, 東京, 「成人学習理論を踏まえた指導者の役割について」演者)
- 15) 平成 28 年度香川県大学等魅力づくり補助事業 大学教育におけるチュートリアル(PBL)教育(平成 29 年 3 月, 香川大学, 公開講演会「高大接続を視座に入れたアクティブラーニングの実践」演者)
- 16) 第 49 回日本医学教育学会大会(平成 29 年 8 月, 札幌, 大会長講演「札幌医科大学の建学の精神と地域医療貢献について」座長)
- 17) 第 49 回日本医学教育学会大会(平成 29 年 8 月, 札幌, 「牛場賞, 医学教育日野原賞, 懸田賞, 受賞者講演」座長)
- 18) 名古屋大学「医学科卒前・卒後教育の未来を考えるシンポジウム」(平成 29 年 8 月, 名古屋, 「医学教育の展望と岐阜大学の取り組み」演者)
- 19) 日本新生児成育医学会第 21 回教育セミナープログラム(平成 29 年 8 月, 岐阜, 「ワークショップの進め方. 成人学習における指導者の役割 テacher・グループメンバーの役割」演者)
- 20) Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2017(平成 29 年 11 月, 福岡, 「医学教育から見たエキスパート人材育成の仮題と展望」演者)
- 21) Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2017(平成 29 年 11 月, 福岡, 「臨床教育: 教育理論を踏まえた指導者の役割」演者)
- 22) シンポジウム「魅力ある卒前小児科臨床教育を目指して」(平成 29 年 12 月, 大阪, 座長)

- 23) 文部科学省未来医療研究人材養成拠点事業第5回フォーラム(平成29年12月, 仙台, 「総合診療医のあり方: 地域における医療者教育の視点と小児科専門医育成の経験から」 演者)

丹羽雅之:

- 1) 第9回医療系e-ラーニング全国交流会(平成27年1月, 栃木, 座長)
- 2) 第47回日本医学教育学会大会(平成27年7月, 新潟, シンポジウム「医学教育で使えるe-ラーニングの考え方と実践」座長)
- 3) 教育改革ICT戦略大会(平成28年9月, 東京, シンポジウム「双方向性遠隔教育システムを活用したPBL教育. ICTを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題: 医療系」演者)
- 4) 第48回日本医学教育学会大会(平成28年7月, 高槻, プレコンgresワークショップ「新たなe-ラーニングのコンテンツ開発環境とその共有」座長)
- 5) 第10回医療系e-ラーニング全国交流会(平成28年9月, 札幌, 座長)
- 6) 第49回日本医学教育学会大会(平成29年8月, 札幌, 「シミュレーション教育」座長)
- 7) 第42回教育システム情報学会全国大会(平成29年8月, 北九州, 企画セッション「医療・看護・福祉領域におけるICT等活用教育」座長)

今福輪太郎:

- 1) 第47回日本医学教育学会(平成27年7月, 新潟, 「口演: 教育研究・その他」座長)
- 2) 第48回日本医学教育学会(平成28年7月, 大阪, 「ポスター発表: 教育研究2」座長)
- 3) AMEE 2015 Annual Conference(平成27年9月, Glasgow UK, 「ePosters: Mobile Learning and Social Networks」座長)

恒川幸司:

- 1) 第48回医学教育学会大会(平成28年7月, 大阪, 「口演17 教育支援、ICTの活用3」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 鈴木康之: 日本医学教育学会 医学教育日野原賞(平成27年度)
- 2) 今福輪太郎: 日本歯科医学教育学会 国際学会研究発表奨励賞(平成29年度)

9. 社会活動

鈴木康之:

- 1) 日本ムコ多糖症親の会顧問(～現在)
- 2) ALD親の会顧問(～現在)
- 4) 国立大学医学部長会議教育制度・カリキュラムに関する小委員会委員(平成25年度～現在)
- 5) 国立大学医学部長会議臨床教育合同会議委員(平成26年度～現在)
- 8) 日本医学教育評価機構評価委員会委員、理事(平成27年度～現在)
- 9) 藤田保健衛生大学客員教授(～現在)

丹羽雅之:

- 1) 岐阜聖徳学園大学看護学部 非常勤講師(～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校 看護学科 非常勤講師(～現在)
- 3) 岐阜県立衛生専門学校 助産学科 非常勤講師(～現在)

今福輪太郎:

- 1) 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔講座 歯学教育部門 兼任講師(平成25年～現在)
- 2) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業 担当教員(平成26年～現在)

恒川幸司:

- 1) 大垣北高等学校スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業 担当教員(平成28年～現在)
- 2) 国際医学技術専門学校 非常勤講師(～現在)
- 3) あいち福祉医療専門学校 非常勤講師(～現在)
- 4) 医療法人かがやき倫理審査委員会委員(平成29年～現在)

10. 報告書

- 1) 鈴木康之, 西城卓也: マギル大学臨床教育視察報告書 2014. : 1-53(平成 27 年 1 月)
- 2) 丹羽雅之: アナウンスメント. 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ. 医学教育 46 : 246-247(平成 27 年 4 月)
- 3) 恒川幸司, 藤崎和彦: アナウンスメント. 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46 : 246-247(平成 27 年 6 月)
- 4) 丹羽雅之: 全国ユニット機関名簿 2015 : 医学教育 46 : 272-285(平成 27 年 6 月)
- 5) 今福輪太郎. 医療者に求められる資質・能力の涵養と評価 -MEDC の研究活動から-, 新しい医学教育の流れ 15(1) : 6-9(平成 27 年 7 月)
- 6) 恒川幸司: 「分化の文化」を克服する. 新しい医学教育の流れ. 第 15 巻 1 号 : 31-33(平成 27 年 7 月)
- 7) 今福輪太郎: アナウンスメント. 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46 : 372(平成 27 年 9 月)
- 8) 森 茂久, 椎橋実智男, 丹羽雅之: ニュース. 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ.: 医学教育 46 : 379-380(平成 27 年 9 月)
- 9) 恒川幸司: ニュース. 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46 : 450-453(平成 27 年 10 月)
- 10) 今福輪太郎, 岡田宏基, 西屋克己: ニュース. 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ in 香川 : 医学教育 46 : 531-532(平成 27 年 12 月)
- 11) 恒川幸司: アナウンスメント. 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46 : 529-530(平成 27 年 12 月)
- 12) 鈴木康之, 西城卓也: マギル大学臨床教育研修プログラム 参加報告書 2015 : 1-38(平成 27 年 12 月)
- 13) 恒川幸司: ニュース. 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46 : 35-36(平成 28 年 2 月)
- 14) Saiki T, Imafuku R, Suzuki Y : A Report on the participation in “Teaching in the Clinical Setting” -A Practicum Course for Gifu University Faculty Overall Program in 2014 and 2015 : 1-32(平成 28 年 3 月)
- 15) Kawakami C, Saiki T, Suzuki Y, Fujisaki K : DEVELOPING AN ASSESSMENT SHEET FOR ANALYZING DIFFICULT AND COMPLICATED PROBLEMS IN HEALTH PROFESSIONS EDUCATION19 - 23 March Ottawa 2016 and ANZAHPE 2016Perth, Australia(平成 28 年 3 月)
- 16) 鈴木康之: アナウンスメント. 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 47 : 133-134(平成 28 年 4 月)
- 17) 鈴木康之, 泉 美貴: ニュース. 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 47 : 201-203(平成 28 年 6 月)
- 18) 丹羽雅之: 医学教育ユニット機関名簿: 医学教育 47(3)211-225(平成 28 年 6 月)
- 19) Daisy E. Rotzoll. Activity Report: Peer-assisted teaching (PAT) at Japanese and German medical schools-a personal view : 新しい医学教育の流れ. 第 16 巻 1 号 : 1-3(平成 28 年 7 月)
- 20) 鈴木一吉. 歯科医学教育における FD の紹介: 新しい医学教育の流れ. 第 16 巻 1 号 : 4-7(平成 28 年 7 月)
- 21) 鈴木康之: 医学・薬学の教育連携が重要 “医療者はすべて教育者” の意識を. 編集長 VISITING(397) 医薬ジャーナル 2016 ; 52(12) : 156-161(平成 28 年 12 月)
- 22) 丹羽雅之, 鈴木敬一郎: ニュース. 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ in 兵庫医大: 医学教育 47 : 381-383(平成 28 年 12 月)
- 23) 伊藤孝訓, 鈴木一吉, 藤崎和彦, 木尾哲朗: 医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー 10 周年記念シンポジウム 歯学教育におけるファシリテーションを考える: 日本歯科医学教育学会雑誌 Vol.32 No.3 : 126-130(平成 28 年 12 月)
- 24) Won Shim, 石原幸紀, 稲川清香, 坂田裕也, 清水陽平, 忽滑谷悠仁, 山田隆太, 西城卓也, 今福輪太郎: 医師の「超義務」を医学生はどう考えるか? 医学教育 48 : 17-18(平成 29 年 2 月)
- 25) 今福輪太郎: アナウンスメント. 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ in 昭和大学: 医学教育 48 : 35-36(平成 29 年 2 月)
- 26) 鈴木康之: 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班編集. 副腎白質ジストロフィー(ALD)診療ガイドライン 2017. 診断と治療社, 東京, 46(平成

29年3月)

- 27) 鈴木康之:厚生労働省難治性疾患等政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班編集. ムコ多糖症(MPS)II型診療ガイドライン2017. 診断と治療社, 東京, 24(平成29年3月)
- 28) 丹羽みちる, 大久保嘉哉, 大西拓海, 矢野博久, 横地泰徳, 恒川幸司, 今福輪太郎, 西城卓也:文学・哲学的視点から捉える医学生の職業観・キャリア志向性:新しい医学教育の流れ. 第16巻4号:206-209(平成29年3月)
- 29) 今福輪太郎, 高木 康:ニュース. 第64回医学教育セミナーとワークショップ in 昭和大学:医学教育48:159-161(平成29年6月)
- 30) 恒川幸司:アナウンスメント. 第66回医学教育セミナーとワークショップ in 岡山大学:医学教育48:270-271(平成29年8月)
- 31) Imafuku R, Nishiya K, Saiki T, Okada H. Online and face-to-face: Developing an inter-university undergraduate research. Medical Science Educator, 2017; 1-2(平成29年12月)
- 32) 恒川幸司, 万代康弘:ニュース. 第66回医学教育セミナーとワークショップ in 岡山大学:医学教育48:417-419(平成29年12月)

11. 報道

- 1) 岐阜大学 平成26年度大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」:文教ニュース(2015年2月23日)
- 2) 岐阜大医学教育センターがセミナーとワークショップ:文教速報(2015年2月27日)
- 3) 岐阜大, 埼玉医大とセミナー・ワークショップ:文教速報(2015年7月17日)
- 4) 鈴木康之:医学教育の牛場賞・日野原賞 岐阜大教授ら2人受賞:岐阜新聞(2015年9月18日)
- 5) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ:文教速報(2015年10月5日)
- 6) 岐阜大 医療通訳ボランティア研修の開催:文教ニュース(2015年11月9日)
- 7) 医療通訳ボランティア研修に協力(岐阜大):文教速報(2015年11月16日)
- 8) 岐阜大学 医学教育セミナー&ワークショップ:文教ニュース(2016年2月22日)
- 9) 国公私医歯学部教務事務職員研修を開催(岐阜大):文教速報(2016年6月3日)
- 10) 岐阜大学 国公私大医・歯学部の教務事務職員研修:文教ニュース(2016年6月6日)
- 11) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ:文教速報(2016年6月8日)
- 12) 岐阜大学 MEDC 医学教育セミナーとワークショップ:文教ニュース(2016年6月13日)
- 13) 岐阜大 MEDC が医学教育セミナーとワークショップ:文教速報(2016年9月7日)
- 14) 岐阜大 医学教育開発研究センター 医学教育セミナーとワークショップ:文教ニュース(2016年9月12日)
- 15) 多職種連携教育に参加:薬事日報(2016年11月14日)
- 16) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ:文教速報(2016年11月25日)
- 17) 鈴木康之:医学・薬学の教育連携が重要 “医療者は全て教育者”の意識を:編集長 VISITING(397), 医薬ジャーナル 52:156-161(2016年12月)
- 18) 卒前医学教育で数える医療人類学:週刊 医学界新聞(2017年8月21日)
- 19) 鈴木康之:医学部進学特集「医師として身につけたいのは生涯にわたって学び続ける力」:朝日新聞(2017年8月31日)
- 20) 岐阜大学医学教育センター 岡山大で医学教育セミナーとWS:文教ニュース(2017年10月30日)
- 21) 「チーム医療」模擬体験:岐阜新聞(2017年11月22日)

12. 自己評価

評価

全国共同利用拠点としての活動を充実し, ワークショップ参加者に履修単位を与え, 一定単位を取得した者にアソシエイトの称号を授与, さらにオンラインの授業を履修した者にフェローの称号を授与する制度をスタートさせることができた。

医学教育の分野別認証受審に際しては学内で中心的役割を担い, 無事, 認証を得ることができた。大学院での医学教育学分野において研究指導を活発化させ, 2名に学位を授与した。

現状の問題点及びその対応策

共同利用拠点の活動, 研究活動, 学内運営活動, 学外活動など, 多岐にわたる活動を行っており, それぞれの活動で, 深みのある活動が十分にできていない。

今後の展望

研究・FD活動を精力的に行って、日本の取組を世界に発信するとともに、医学教育共同利用拠点としての活動も充実させていきたい。

(5) 医学教育開発研究センター（バーチャルスキル部門）

1. 研究の概要

2010年4月に文部科学省から全国唯一の医学教育共同利用拠点として認定され、(1)新しい医学教育の開発研究と普及、(2)医学教育に貢献できる人材育成、(3)国内外の医学教育機関との連携・共同研究、を大きなミッションとして取り組んでいる。

- ① コミュニケーション・プロフェッショナル教育：1年生の地域体験実習、3年生の医師患者関係、4～5年生の医療面接実習において、模擬患者(SP)や地域の保育園児、妊婦、子育て中の母親、高齢者の協力のもとに実施している。地域体験実習と医療面接実習では Web 上の e-ポートフォリオを用いての reflection も行っている。医療面接実習では実習を円滑に進めるための事前オリエンテーションも導入して成果が上がっている。また、Advanced OSCE の拡充など、増加する SP ニードに対応するためにも2年連続で SP 養成講座も実施している。
- ② シミュレーション教育：4年生の OSCE 前の臨床入門実習、4～5年生の臨床実習中に、スキルスラボを中心に実施しており、卒後も医師育成推進センターが中心になってスキルスラボでの研修を実施している。また、スキルスラボを用いて、岐阜県国際交流センターの「医療通訳ボランティア研修」にも協力しており、今年度は地域協学センターの「地域志向学研究」誌にその活動報告を投稿している。
- ③ OSCE, Post-CC OSCE：医師育成推進センターとの協力で4年生の共用試験 OSCE だけでなく、5年生に対しても Advanced OSCE を実施していたが、共用試験実施評価機構の Post-CC OSCE 導入の動きに従い、6年生の選択臨床実習終了後の来年7月に Post-CC OSCE を実施するべく、医師育成推進センターとの協力しながら準備している。
- ④ 臨床推論実習：4年生の共用試験 OSCE 後の学生を対象に臨床推論実習を実施しており、OSCE で評価されたインタビュースキルと、CBT で評価された医学知識が有機的に統合された臨床推論能力の開発を目指して、総合診療医学講座とも協力しながら、模擬患者の協力も得て実施している。
- ⑤ 医学教育専門家養成：医学教育学会専門家制度委員会とも協力しながら、わが国で求められる医学教育専門家像の確立とその養成を学会の専門家養成業績評価 FD 委員会の中核として推進している。また岐阜大学 MEDC 独自の医学教育専門家養成の取り組みとして、医学教育セミナー&WS とリンクした新しい専門家養成制度としてのアソシエイト／フェローシップの制度もスタートさせ、e-learning の取り組みであるメドギフトの運用も開始している。
- ⑥ 学習や大学生活に困難を抱える学生の支援：近年、大学教育でも問題になってきている、学習や大学生活に困難を抱える学生の支援について、全学のサポートルームとも協力しながら、支援システムの確立を目指して活動を行っている。

なお上記の研究は、すべて医学教育開発研究センター・テュートリアル部門と共同して推進した。

2. 名簿

教授： 藤崎和彦 Kazuhiko Fujisaki
准教授： 西城卓也 Takuya Saiki
併任講師： 川上ちひろ Chihiro Kawakami

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 藤崎和彦. コミュニケーション論：塚田敬義, 前田和彦編. 生命倫理・医事法, 東京：医療科学社；2015年：245-253.
- 2) 藤崎和彦, 川上ちひろ, 加藤智美, 高橋優三共著. 模擬診察シナリオ集 第6版 医療の現場が透けて見えるスケルトン病院, 名古屋：三恵社；2015年：1-228.
- 3) 藤崎和彦. 社会学と医療：黒田裕子監修. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版, 東京：学研メディカル秀潤社；2015年：159-163.
- 4) 藤崎和彦. 日本における医学教育の現状と展望～医学生が考えるべきこと～：全日本医学生自治会連合編. グローバル時代の医学教育の現状と展望, 東京：全日本医学生自治会連合；2015年：3-32.
- 5) 川上ちひろ. 自閉スペクトラム症のある子への性と関係性の教育—具体的なケースから考える思春期の支援, 東京：金子書房；2015年：1-144.
- 6) 川上ちひろ. 思春期に大切な異性と人間関係の構築の支援：萩原 拓編. 発達障害のある子の自立に向けた支援 小・中学生の時期に本当に必要な支援とは？ 東京：金子書房；2015年：126-132.
- 7) 宮口幸司, 川上ちひろ共著. 性の問題行動をもつ子どもたちのためのワークブック—発達障害・知的障害の

ある児童・青年の理解と支援, 東京: 明石書店; 2015年: 1-152.

- 8) 藤崎和彦. OSCEにおける評価者としての効果的なフィードバック: 札幌医科大学FD委員会編. 平成27年度FD活動報告書, 札幌; 2016年: 162-170.
- 9) 藤崎和彦. グローバル時代の医学教育と新専門医制度開始の狭間の中で医学生に求められること: 第33回定期全国大会報告集, 東京: 全日本医学生自治会連合; 2016年: 29-34.
- 10) 藤崎和彦. 新しい学習方法と学習評価: 平成29年度歯科衛生士専任教員講習会Ⅱテキスト, 大垣: 全国歯科衛生士教育協議会; 2017年: 25-44.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ: 発達障害のある子どもの成長: 第4回 発達障害のあるきょうだいとの関係, きょうだいの視点から「妹の巻」: 概論, 子どもの心と学校臨床 2015年; 第12号: 90-101.
- 2) 関係を創る・築く・繋ぐ: 発達障害のある子どもの成長: 第5回 発達障害のある子どもの友だち関係: 概論, 子どもの心と学校臨床 2015年; 第13号: 102-112.
- 3) 今福輪太郎, 西城卓也, 鈴木康之. 学生の研究体験を活性化させるために ~医学教育開発研究センターの取り組み~, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2015年; 第1号: 97-103.
- 4) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ: 発達障害のある子どもの成長: 第6回 発達障害のある子どもの恋愛事情と恋愛感情の表現方法: 概論, 子どもの心と学校臨床 2016年; 第14号: 98-108.
- 5) 川上ちひろ. 「空気が読めないといつも馬鹿にされるので, 話しかけられるのが苦痛です」, 児童心理, 臨時増刊, 学校不適応の支援 2016年; No.1018: 127-130.
- 6) 川上ちひろ. 医療専門職による実践教育研究—医療教育者の「当事者研究」の場となる「多職種連携医療教育」—. 保健医療者会学論集 2016年; 27(1): 28-38.
- 7) 藤崎和彦. 教育研究の意義と課題, 薬学教育 2017年; 1: 1-5, doi: 10.24489/jjphe.2017-006
- 8) 藤崎和彦. 近年の医学教育の動向と保健医療行動科学, 日本保健医療行動科学会雑誌 2017年; 32: 47-57.
- 9) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ: 発達障害のある子どもの成長: 第8回 発達障害のあるおとなの人の恋愛はどうなっているのか?: 概論, 子どもの心と学校臨床 2017年; 第16号: 119-130.
- 10) 川上ちひろ. 関係を創る・築く・繋ぐ: 発達障害のある子どもの成長: 第9回 自分自身をどう理解し受け入れ, つきあうか: 概論, 子どもの心と学校臨床 2017年; 第17号: 72-82.
- 11) 今福輪太郎, 早川佳穂, 西城卓也. 大学全体で支える国際教育プログラムを目指して: 海外臨床実習の準備教育の取り組みから, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2017年; 第3号: 169-177.
- 12) 堀田亮, 舩越高樹, 川上ちひろ. いこまいセミナーを通じた学生支援の取り組み 多部署協働授業外グループプログラムの実践, 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2017年; 第3号: 268-279.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 藤田之彦, 神山 浩, 桜井 勇, 藤崎和彦, 井上千鹿子, 中阿地圭一郎, 穴澤万里子, 上原 任, 中島一郎, 伊藤孝訓, 青木伸一郎, 亀井美和子, 渡邊文之. 「学部間協力による芸術学部標準模擬患者養成」, 日本大学FD研究 2015年; 第3号: 51-80.
- 2) 高野裕祐, 半谷真名子, 立松三千子, 中村千賀子, 阿部恵子, 藤崎和彦, 亀井浩行. 「がん患者の薬剤師及び薬物療法に関するニーズを調査する質的研究」, YAKUGAKU ZASSHI 2015年; 135巻: 1387-1395.
- 3) 西城卓也, 大江直行, 池田貴英, 牛越博昭, 白橋幸洋, 高杉信寛, 松橋延壽, 矢野竜一郎, 渡邊珠代, 鈴木康之. 国際認証の時代における臨床系教員養成のあり方: マギル大学での臨床教育研修プログラムの事例検討, 医学教 2015年; 46巻: 69-77.
- 4) 西城卓也. 継続的な交流と省察を通じた“社会における個人”の理解の深化, 日本ヘルスコミュニケーション学会誌 2015年; 5巻: 14.
- 5) 西城卓也, 高杉信寛, 大江直行, 牛越博昭, 松橋延壽, 矢野竜一郎, 渡邊珠代, 池田貴英, 白橋幸洋, 鈴木康之. 国際化する医学教育に対峙する臨床指導医 ~海外研修をきっかけにした教育へのモチベーション~: 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 第1号; 2015年: 118-126.
- 6) 川上ちひろ, 西城卓也, 今福輪太郎, 村岡千種, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. 施設を超える, 職種を超える: 多施設合同学生向け多職種連携教育課外セミナーに取り組んだ3年間, 医学教育 2015年; 46巻: 178-184.
- 7) 西城卓也, 村岡千種, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 恒川幸司, 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦. 段階的かつ継続的に医療教育能力を育むことをめざして—ニーズ調査から見えたもの—, 新しい医学教育の流れ 2015年; 第15巻1号: 1-5.
- 8) 川上ちひろ, 西城卓也, 藤崎和彦, 鈴木康之. 問題をもつ学習者の“問題”とは何か: 系統的文献検索, 医学教育 2015年; 46巻: 365-371.
- 7) 大口明日海, 北村 悠, 長瀬 大, 水野敬悟, 恒川幸司, 今福輪太郎, 村上啓雄, 西城卓也. 地域枠及び一般枠医学生の地域医療に対する認識の比較調査, 医学教育 2015年; 46巻: 419-424.

- 8) 川上ちひろ, 西城卓也, 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦. 知られざる医療系学生の横顔: 教務事務職員が困ると感じる学生対応から見えるもの, 医学教育 2016年; 47巻: 301-306.
- 9) 星野奈生子, 青木弘枝, 神田明日香, 崔乘奎, 手柴富美, 中村光一, 名和宏樹, 恒川幸司, 今福輪太郎, 西城卓也. 医学生結婚・家族観と診療科選択に関する調査: アンケートによる予備調査, 医学教育 2016年; 47巻: 23-29.
- 10) 青木 弘枝, 星野 奈生子, 神田 明日香, 崔 乘奎, 手柴 富美, 中村 光一, 名和 宏樹, 西城 卓也, 今福輪太郎. 男女医学生はどのようなキャリア認識を有しているのか?—インタビュー調査から見えてきたもの—, 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2016年; 39巻4号: 198-204.
- 11) 村山由希子, 岡田絢音, 亀井浩行, 阿部恵子, 藤崎和彦, 半谷眞七子. 愛知県内の保険薬局薬剤師のがん患者対応への認識を調査する質的研究, 日本薬剤師会雑誌 2017年; 69: 273-280.
- 12) 西城卓也. 医学教育を変革させるドライビングフォースとしての教育理論と教育研究. 型があつての型破り, 医学教育 2017年; 48巻: 401-404.
- 13) 伊野陽子, 上野杏莉, 舘 知也, 大坪愛実, 勝野隼人, 杉田郁人, 兼松勇次, 吉田阿季, 野口義敏, 堺 千紘, 井口和弘, 川上ちひろ, 藤崎和彦, 寺町ひとみ. 病院および診療所における薬局との連携の関する調査, 医療薬学 2017年; 第43巻第10号: 533-551

原著 (欧文)

- 1) Orsini C, Evans P. Social media as a teaching strategy: opportunities and barriers. AHPE 2015;1: 44-46.
- 2) Mahboob U, Evans P. Professionalism: how to match the general medical council recommendations in undergraduate medical curriculum?. Professional Med J. 2015;22:664-669.
- 3) Orsini C, Binnie V, Evans P, Ledezma P, Fuentes F, Villegas MJ. Psychometric validation of the academic motivation scale in a dental student sample. Journal of Dental Education. 2015;79:971-981. CS 0.89
- 4) Yoshimura H, Kitazono H, Fujitani S, Machi J, Saiki T, Suzuki Y, Ponnamparuma G. Past-behavioural versus situational questions in a postgraduate admissions multiple mini-interview: a reliability and acceptability comparison. BMC Medical Education. 2015;15:75. CS 1.75
- 5) Imafuku R, Saiki T, Kawakami C, Suzuki Y. How do students' perceptions of research and approaches to learning change in undergraduate research?. International Journal of Medical Education. 2015;6:47-55.
- 6) Niwa M, Saiki T, Fujisaki K, Suzuki Y, Evans P. The Effects of Problem-Based-Learning on the Academic Achievements of Medical Students in One Japanese Medical School, over a Twenty-Year Period. Health Professions Education. 2016;2:3-9.
- 7) Saiki T, Abe K, Kawakami C, Fujisaki K, Suzuki Y. How Do Medical Students develop the self-awareness as social entities during the longitudinal communication experience with citizens? Journal of Contemporary Medical Education. 2016;4:89-96.
- 8) Imafuku R, Saiki T, Suzuki Y. Developing undergraduate research in Japanese Medical Education. Council on Undergraduate Research Quarterly 2016;37:34-40.
- 9) Manako Hanya, Yoshitake Kanno, Keiko Abe, Kazuhiko Fujisaki, Hiroyuki Kamei. Effects of Communication Skill Training(CST) Based on SPIKES for Insurance-covered Pharmacy Pharmacists to Manage Cancer Patients. Journal of pharmaceutical Health Care and Sciences. 2017 3:11, DOI 10.1186/s40780-017-0080-0
- 10) Saiki T, Snell L, Bhanji F. Twelve tips for promoting learning during presentations in cross cultural settings. Medical teacher, 2017;39(5), 458-462. CS 1.69
- 11) Saiki, T., Imafuku, R., Suzuki, Y., & Ban, N. The truth lies somewhere in the middle: Swinging between globalization and regionalization of medical education in Japan. Medical teacher. 2017;39(10), 1016-1022. CS 1.69
- 12) Arai K., Saiki T., Imafuku R., Kawakami C, Fujisaki K., Suzuki Y. What do Japanese residents learn from treating dying patients? The implications for training in end-of-life care. BMC medical education, 2017;17(1), 205.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 岐阜大学医学教育開発研究センター; 文科省特別経費教育関係共同実施分「医療者教育フェローシップの構築: 体系的FD・メンタリング・研究支援を融合した新たなFDの全国展開」; 平成27-31年度; 70,000千円
- 2) 研究代表者: 鈴木康之, 研究分担者: 西城卓也; 文科省科学研究費基盤 研究(C)医療者教育学大学院修士課程の在り方に関する調査研究; 平成27-29年度; 3,800千円(1,300:1,300:1,200千円)
- 3) 研究代表者: 西城卓也; 岐阜大学活性化経費(若手研究支援): 国際標準の臨床指導医能力開発プログラム“Teaching in the Clinical Setting”の教育的効果に関する研究; 平成27年度(1,448千円)
- 4) 研究代表者: 川上ちひろ; 岐阜大学活性化経費 基盤的能力の育成を目指す教育プログラム「多職種メディカルケアチーム医療教育」で、医学生が多職種連携医療能力を高める!(授業科目: 臨床推論);

西洋医学的アプローチ)；平成 28 年度；500 千円

- 5) 研究代表者：西城卓也；文科省科学研究費 基盤研究(B)：世界と地域の指導医をつなぐ、グローバル臨床教育推進アライアンスの教育効果検証；平成 29-31 年度；8,970 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会理事，評議員，医学教育専門・業績 FD 委員会委員長，学習方略委員会副委員長(～現在)
- 2) 医療コミュニケーション研究会会長(～現在)
- 3) RIAS 研究会日本支部代表 (～現在)
- 4) 日本ヘルスコミュニケーション学会プログラム委員(～現在)
- 5) 日本医療福祉政策学会幹事(～現在)
- 6) 日本医学教育学会医学教育専門拡大 WG 委員会委員長(～現在)
- 7) 日本保健医療行動科学会顧問(～現在)
- 8) 大学イノベーション日本幹事(～現在)

西城卓也：

- 1) 日本医学教育学会医学教育専門家育成検討委員会ワーキングメンバー(平成 24 年 4 月～現在)
- 2) 日本医学教育学会編集委員会委員(平成 24 年 4 月～現在)
- 3) 日本プライマリ・ケア連合学会 代議員(平成 28 年 1 月～現在)
- 4) 日本医学教育学会代議員(平成 28 年～現在)

川上ちひろ：

- 1) 日本医学教育学会準備教育・行動科学教育委員会委員(平成 26 年 1 月～平成 28 年 5 月)

2) 学会開催

鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，西城卓也，川上ちひろ，今福輪太郎，恒川幸司：

- 1) 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 27 年 1 月～2 月，岐阜)
- 2) 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 27 年 6 月，埼玉)
- 3) 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 27 年 8 月，岐阜)
- 4) 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 27 年 10 月，香川)
- 5) 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 28 年 1 月，岐阜)
- 6) 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 28 年 5 月，東京)
- 7) 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 28 年 8 月，岐阜)
- 8) 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 28 年 10 月，兵庫)

藤崎和彦：

- 1) 第 28 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 27 年 5 月，名古屋)
- 2) 第 11 回 RIAS トレーニングワークショップ開催(平成 27 年 8 月，岐阜)
- 3) 第 29 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 27 年 12 月，名古屋)
- 4) 第 30 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 28 年 6 月，名古屋)
- 5) 第 12 回 RIAS トレーニングワークショップ開催(平成 28 年 9 月，東京)
- 6) 第 31 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 28 年 12 月，名古屋)

- 7) 第 32 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 29 年 6 月, 東京)
- 8) 第 13 回 RIAS トレーニングワークショップ開催(平成 29 年 7 月, 東京)
- 9) 第 33 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 29 年 12 月, 名古屋)

3) 学術雑誌

鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 西城卓也, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 恒川幸司:

- 1) 新しい医学教育の流れ: 編集委員(~現在)

西城卓也:

- 1) 医学教育誌: 編集委員(~現在)
- 2) Korean Journal of Medical Education; Editorial board (平成 29~現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

藤崎和彦:

- 1) 第 30 回日本保健医療行動科学会大会特別講演(平成 27 年 6 月, 京都, 「近年の医学教育の動向と保健医療行動科学」 演者)
- 2) 福岡県薬剤師会リカレント&スキルアップ研修会(平成 27 年 6 月, 福岡, 特別講演「医療人としてのコミュニケーション能力を高めよう」 演者)
- 3) 愛知県薬剤師会平成 27 年度第 1 回がん患者との医療コミュニケーション研修会(平成 27 年 7 月, 愛知, 「がん患者との医療コミュニケーション 説明のポイント/コミュニケーションの基礎」 演者)
- 4) 全国歯科大学口腔衛生学教授協議会特別講演(平成 27 年 8 月, 岐阜, 「いまの医歯薬系の教育について」 演者)
- 5) 愛知県薬剤師会平成 27 年度第 2 回がん患者との医療コミュニケーション研修会(平成 27 年 8 月, 愛知, 「がん患者との医療コミュニケーション ロールプレイ/SPIKES モデル」 演者)
- 6) 医療スタッフのための糖尿病勉強会(平成 27 年 9 月, 奈良, 「糖尿病治療及び糖尿病療養指導におけるコミュニケーションスキル」 演者)
- 7) 愛知県薬剤師会平成 27 年度第 3 回がん患者との医療コミュニケーション研修会(平成 27 年 10 月, 愛知, 「がん患者との医療コミュニケーション 模擬患者とのコミュニケーショントレーニング」 演者)
- 8) 第 10 回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会(平成 28 年 5 月, 名古屋, 特別講演「患者に頼られ、寄り添える治療パートナーを目指して-薬剤師に期待するコミュニケーション-」 演者)
- 9) 第 35 回日本歯科医学教育学会学術大会(平成 28 年 6 月, 大阪, ファシリテータ養成セミナー受講者第 7 回フォローアップ・セッション特別講演「成人教育とファシリテーション」 演者)
- 10) 第 35 回日本歯科医学教育学会学術大会(平成 28 年 7 月, 大阪, シンポジウム「行動主義と構成主義を基盤とした教育」「歯学教育におけるファシリテーションを考える」 演者)
- 11) 第 35 回日本歯科医学教育学会学術大会および総会(平成 28 年 7 月, 大阪, 医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー10 周年記念シンポジウム「歯学教育におけるファシリテーションを考える」 演者)
- 12) 第 48 回日本医学教育学会大会(平成 28 年 7 月, 高槻, シンポジウム「医学生の臨床能力を向上させるために」 座長)
- 13) 第 48 回日本医学教育学会大会(平成 28 年 7 月, 高槻, プレコンGRESワークショップ「医学教育専門家制度で求められるポートフォリオ」 座長)
- 14) 愛知県薬剤師会『健康サポート薬局』時代の薬剤師に求められるコミュニケーション・スキル(平成 28 年 8 月, 名古屋, 「医療コミュニケーション~健康リテラシー・セミナー」 演者)
- 15) 第 1 回日本薬学教育学会大会「教育研究の意義と課題 一 根拠に基づく薬学教育を目指して」(平成 28 年 8 月, 京都, シンポジウム 3 「薬学教育研究、事始め」 演者)
- 16) 第 49 回日本薬剤師会学術大会『健康サポート薬局』時代の薬剤師に求められるコミュニケーション・スキル(平成 28 年 10 月, 名古屋, 特別講演 分科会 3 「医療コミュニケーションと薬剤師」 演者)
- 17) 平成 28 年度大阪歯科学会大会(平成 28 年 11 月, 大阪, 「医学教育学の学問体系と今後の展望」 演者)
- 18) 愛知県薬剤師会『健康サポート薬局』時代の薬剤師に求められるコミュニケーション・スキル(平成 28 年 11 月, 岡崎市, 「医療コミュニケーション~健康リテラシー・セミナー」 演者)

- 19) 日本薬学会東海支部特別講演会(28年12月, 名古屋, 「患者に頼られ、寄り添える治療パートナーを目指して」 演者)
- 20) 名古屋臨床薬剤師研修会第37回オープンセミナー(平成29年2月, 名古屋, 「薬剤師に期待するコミュニケーション」 演者)
- 21) 名古屋臨床薬剤師研修会第38回オープンセミナー(平成29年2月, 名古屋, 「薬剤師に期待するコミュニケーション」 演者)
- 22) 国際医療リスクマネジメント学会医療安全認定臨床コミュニケーション養成実習研修会 2017年度基礎編(平成29年2月, 東京, 「医療コミュニケーション教育のあり方」 演者)
- 23) 平成28年度郡山保健所健康づくり推進会議・食育推進ネットワーク会議(平成29年2月, 大和郡山市, 「データに基づく健康課題の明確化と健康増進計画(第二次)、食育計画推進に向けた取り組みについて」 演者)
- 24) 第58回日本歯科医療管理学会総会・学術大会基調講演(平成29年7月, 北九州, 「歯科医療職におけるオートノミー(自律性)」 演者)
- 25) 第49回日本医学教育学会大会プレコングレスワークショップ(平成29年8月, 札幌, 「医学教育専門家制度で求められるポートフォリオ」 座長)
- 26) 岐阜県薬剤師会健康介護まちかど相談薬局研修会招待講演(平成29年8月, 岐阜, 「健康サポート薬局」時代の薬剤師に求められるコミュニケーション・スキル」 演者)
- 27) 第39回東洋療法学校協会学術大会特別講演(平成29年10月, 大阪, 「医師とコミュニケーションをとるために」 演者)

西城卓也 :

- 1) 第28回教育研究大会・教員研修会. 教育講演(平成27年8月, 宮城, 演者)
- 2) 第48回日本医学教育学会(平成28年7月, 大阪, パネルディスカッション「医学教育研究を計画するための公開リサーチミーティングー量的研究・質的研究・アクションリサーチ」 演者)
- 3) 第48回日本医学教育学会(平成28年7月, 大阪, 一般口演「教育研究・研究者養成1」 演者)
- 4) 第26回日本医療薬学会(平成28年9月, 京都, 「医療教育者が知っておくべき評価の5つのチェックポイント」 演者)
- 5) 第49回日本医学教育学会(平成29年7月, 北海道, 口演「シミュレーション教育1」 座長)
- 6) 九州作業療法士学校連絡協議会(平成29年11月, 沖縄, 「臨床現場での効果的教育」 演者)

川上ちひろ :

- 1) 第48回日本医学教育学会大会(平成28年7月, 大阪, 「学生セッション54臨床実習(ポスター)」 座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 西城卓也 : 最優秀演題賞 : 第48回日本医学教育医学会インターナショナル・セッション(平成28年度)

9. 社会活動

藤崎和彦 :

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 実施小委員会模擬患者標準化専門部会委員(～現在)
- 2) 多治見市健康づくり計画策定会議アドバイザー(平成24年度～現在)
- 3) 大和郡山市すこやか21計画推進委員会アドバイザー(～現在)

西城卓也 :

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構サーベイヤー(～現在)
- 2) 京都大学医学部 客員研究員(～現在)
- 3) 東京大学医学部 客員研究員(～現在)
- 4) 名古屋大学医学部 非常勤講師(～現在)
- 5) 益財団法人日米医学医療交流財団 賛助会員(平成19年～現在)
- 6) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 非常勤医師(～現在)

10. 報告書

- 1) 鈴木康之, 西城卓也: マギル大学臨床教育視察報告書 2014: 1-53(平成 27 年 1 月)
- 2) 西城卓也, 吉田素文: ニュース. 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ in 九州大学: 医学教育 46: 105-107(平成 27 年 2 月)
- 3) 川上ちひろ: ニュース. 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46: 108-109(平成 27 年 2 月)
- 4) 川上ちひろ: 「新人看護師が求める先輩看護師の関わり-関わり尺度の作成と評価-」から考える, 新人看護師離職低減への対策: 医学教育 46: 193-194(平成 27 年 4 月)
- 5) 石川和信, 首藤太一, 小松弘幸, 諸井陽子, 阿部恵子, 吉田素文, 藤崎和彦, 羽野卓三, 廣瀬一裕: 医学生イベント・シムリンピックについて シミュレーション教育の理解と臨床能力客観評価のための教員連携: 医学教育 46: 259-271(平成 27 年 6 月)
- 6) 恒川幸司, 藤崎和彦: アナウンスメント. 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 46: 246-247(平成 27 年 6 月)
- 7) 鈴木康之, 西城卓也: マギル大学臨床教育研修プログラム 参加報告書 2015: 1-38(平成 27 年 12 月)
- 8) Saiki T, Imafuku R, Suzuki Y: A Report on the participation in “Teaching in the Clinical Setting” -A Practicum Course for Gifu University Faculty Overall Program in 2014 and 2015: 1-32(平成 28 年 3 月)
- 9) 藤崎和彦: OSCE における評価者としての効果的なフィードバック. 札幌医科大学 FD 委員会編. 平成 27 年度 FD 活動報告書, 札幌: 162-170(平成 28 年 3 月)
- 10) 藤崎和彦「成人学習理論とポートフォリオ」愛知学院大学大学院歯学研究科未来口腔医療研究センター「未来口腔医療研究センター報告書 6 号」, 名古屋: 98-101(平成 28 年 3 月)
- 11) 西城卓也: アナウンスメント. 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 47: 194(平成 28 年 6 月)
- 12) Daisy E. Rotzoll. Activity Report: Peer-assisted teaching (PAT) at Japanese and German medical schools—a personal view: 新しい医学教育の流れ. 第 16 巻 1 号: 1-3(平成 28 年 7 月)
- 13) 鈴木一吉. 歯科医学教育における FD の紹介: 新しい医学教育の流れ. 第 16 巻 1 号: 4-7(平成 28 年 7 月)
- 14) 小松弘幸, 石川和信, 首藤太一, 阿部恵子, 藤崎和彦, 吉田素文, 大槻眞嗣, 泉美貴, 鈴木敬一郎, 石川鎮清, 廣橋一裕: 医学生の臨床実習後の臨床能力自己評価と学習方略に関する 9 大学合同調査: 医学教育 47: 271-279(平成 28 年 8 月)
- 15) 西城卓也: ニュース. 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ(岐阜)報告: 医学教育 47: 316-318(平成 28 年 10 月)
- 16) 伊藤孝訓, 鈴木一吉, 藤崎和彦, 木尾哲朗: 医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー 10 周年記念シンポジウム 歯学教育におけるファシリテーションを考える: 日本歯科医学教育学会雑誌 Vol.32 No.3: 126-130(平成 28 年 12 月)
- 17) 川上ちひろ: アナウンスメント. 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 47: 384-385(平成 28 年 12 月)
- 18) Won Shim, 石原幸紀, 稲川清香, 坂田裕也, 清水陽平, 忽滑谷悠仁, 山田隆太, 西城卓也, 今福輪太郎: 医師の「超義務」を医学生はどう考えるか? 医学教育 48: 17-18(平成 29 年 2 月)
- 19) 川上ちひろ: ニュース. 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 48: 37-39(平成 29 年 2 月)
- 20) 西城卓也: テーマティック・アナリシス法-インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎-(土屋雅子著), 医学教育 48: 48-49(平成 29 年 2 月)
- 21) 丹羽みちる, 大久保嘉哉, 大西拓海, 矢野博久, 横地泰徳, 恒川幸司, 今福輪太郎, 西城卓也: 文学・哲学的視点から捉える医学生の職業観・キャリア志向性: 新しい医学教育の流れ. 第 16 巻 4 号: 206-209(平成 29 年 3 月)
- 22) 西城卓也, 小西由樹子: アナウンスメント. 第 67 回医学教育セミナーとワークショップ: 医学教育 48: 422-423(平成 29 年 12 月)
- 23) Imafuku R, Nishiya K, Saiki T, Okada H. Online and face-to-face: Developing an inter-university undergraduate research. Medical Science Educator, 2017; 1-2(平成 29 年 12 月)

11. 報道

- 1) 岐阜大学 平成 26 年度大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」：文教ニュース(2015 年 2 月 23 日)
- 2) 岐阜大医学教育センターがセミナーとワークショップ：文教速報(2015 年 2 月 27 日)
- 3) 藤崎和彦：人間力がなければ医者にはなれない：Asahi Shimbun Weekly AERA(2015 年 4 月 27 日)
- 4) 岐阜大, 埼玉医大とセミナー・ワークショップ：文教速報(2015 年 7 月 17 日)
- 5) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ：文教速報(2015 年 10 月 5 日)
- 6) 岐阜大 医療通訳ボランティア研修の開催：文教ニュース(2015 年 11 月 9 日)
- 7) 医療通訳ボランティア研修に協力(岐阜大)：文教速報(2015 年 11 月 16 日)
- 8) 岐阜大学 医学教育セミナー&ワークショップ：文教ニュース(2016 年 2 月 22 日)
- 9) 国公私医歯学部教務事務職員研修を開催(岐阜大)：文教速報(2016 年 6 月 3 日)
- 10) 岐阜大学 国公私大医・歯学部の教務事務職員研修：文教ニュース(2016 年 6 月 6 日)
- 11) 藤崎和彦：卒業前にも OSCE 実施へ 医学部で計画 薬学部も追随か：薬事日報(2016 年 6 月 6 日)
- 12) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ：文教速報(2016 年 6 月 8 日)
- 13) 岐阜大学 MEDC 医学教育セミナーとワークショップ：文教ニュース(2016 年 6 月 13 日)
- 14) 藤崎和彦：教育効果を分析し、改良へ 薬系大学での研究実践例を報告 日本薬学教育学会第 1 回大会：薬事日報(2016 年 8 月 31 日)
- 15) 岐阜大 MEDC が医学教育セミナーとワークショップ：文教速報(2016 年 9 月 7 日)
- 16) 岐阜大 医学教育開発研究センター 医学教育セミナーとワークショップ：文教ニュース(2016 年 9 月 12 日)
- 17) 多職種連携教育に参加：薬事日報(2016 年 11 月 14 日)
- 18) 岐阜大が医学教育セミナーとワークショップ：文教速報(2016 年 11 月 25 日)
- 19) 西城卓也：看取りを学ぶ：DOCTOR-ASE 日本医師会：16(2017 年 7 月 25 日)
- 20) 藤崎和彦：学生の能動的な学びをサポートする：DOCTOR-ASE 日本医師会：36-37(2017 年 7 月 25 日)
- 21) 卒前医学教育で教える医療人類学：週刊 医学界新聞(2017 年 8 月 21 日)
- 22) 岐阜大学医学教育センター 岡山大で医学教育セミナーと WS：文教ニュース(2017 年 10 月 30 日)
- 23) 「チーム医療」模擬体験：岐阜新聞(2017 年 11 月 22 日)

12. 自己評価

評価

全国共同利用拠点の 2 期目の中核事業としてアソシエイト／フェローシップの仕組みをスタートさせ、その副次効果として医学教育セミナーとワークショップの参加者数の増大も達成することが出来ている。また、拠点の 2 期目の中間年として、外部評価者による拠点 2 期事業の中間評価も受けて、大変良い評価も受けることが出来た。

現状の問題点及びその対応策

共同利用拠点の活動、研究活動、学科内と全学での学内運営活動、学外活動など、多岐にわたる活動を行っており、それぞれの活動で、深みのある活動が十分に出来ていない。

今後の展望

今後も研究・FD 活動を精力的に行って日本の取組を世界に発信するとともに、医学教育共同利用拠点としての活動も拠点事業の 3 期目認定に向けてさらに充実させていきたい。

(6) 生体支援センター

1. 研究の概要

当センターは医学部附属病院の中央診療部門の一つであるが、ICT (感染性制御チーム)、NST (栄養管理チーム)、PUT (褥瘡対策チーム)、RST (呼吸療法支援チーム)、VC (予防接種部門) とともに、日常の診療支援業務のなかで、サーベイランス、医療経済効果分析を行ったり、地域でのネットワーク体制構築に基づいた連携医療機関全体での調査研究をしたりなど、臨床・社会医学研究に積極的に取り組み、その成果を発表している。最近の主な研究テーマを以下に示す。

(ICT)

- ・ 抗菌薬適正使用 (Antimicrobial Stewardship) のアウトカム評価
- ・ 抗菌薬の臨床薬剤学
- ・ 岐阜県内感染防止対策加算および地域連携加算病院におけるサーベイランスシステム構築とそのアウトカム評価
- ・ 医療関連感染対策の医療経済効果
- ・ 高齢者施設における医療関連感染対策ガイド策定に関する研究
- ・ 高齢者施設および在宅医療における薬剤耐性菌の疫学に関する研究
- ・ 薬剤耐性菌株分析等、臨床微生物学的研究
- ・ 電子化全自動感染対策サーベイランスシステムの活用(Medlas-SHIPL)による効果

(NST)

- ・ 慢性肝疾患の栄養アセスメントと治療に関する研究
- ・ 消化器癌患者の術前・術後の栄養管理に関する研究
- ・ 救急患者の栄養状態とその管理に関する研究
- ・ Nutrition Support Service System 構築とそのアウトカム評価

(PUT)

- ・ 手術や各種医療器具使用に伴う圧迫性皮膚障害の予防
- ・ 褥瘡患者に対する栄養管理の効果

(RST)

- ・ 人工呼吸器等のリスクマネジメントに関する研究
- ・ RST 活動のアウトカム評価

(VC)

- ・ 教職員・学生の各種ウイルス抗体検査およびワクチン接種の効果

2. 名簿

教授：	村上 啓雄	Nobuo Murakami
准教授：	馬場 尚志	Hisashi Baba
講師：	飯塚 勝美	Katsumi Iizuka
助教：	久保田 全哉	Msaya Kubota
助教：	上村 真也	Shinya Uemura
助教：	前田 健一	Kenichi Maeda

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 村上啓雄(編集責任者, 策定作業部会委員長). 国公立大学附属病院感染対策協議会編. 病院感染対策ガイドライン 改訂第2版, 東京: じほう; 2015年.
- 2) 村上啓雄, 西村佳代子(分担執筆). 慢性閉塞性肺疾患(COPD)「疾患概要」: 加藤昌彦編. 医師が知っておきたい外来で役立つ栄養・食事のポイント, 東京: 文光堂; 2015年: 142-146.
- 3) 村上啓雄, 西村佳代子(分担執筆). 慢性閉塞性肺疾患(COPD)「栄養・食事療法の実際」: 加藤昌彦編. 医師が知っておきたい外来で役立つ栄養・食事のポイント, 東京: 文光堂; 2015年: 147-153.
- 4) 村上啓雄(分担執筆). 「国立大学附属病院感染対策協議会 病院感染対策ガイドライン(医科) 改訂第4版」: 大久保憲編. はやわかりレビュー! 感染対策に必要なガイドラインこれだけは!, 大阪: メディカ出版; 2015年: 21-29.
- 5) 一山 智, 村上啓雄, 大友陽子, 西山宏幸(座談会記録). 「アウトブレイク対応と病院の危機管理」Bio Scan Fresh and Future, 東京: エルムコム/エルゼビア・ジャパン; 2015年: 2-8.
- 6) 村上啓雄, 大曲貴夫(分担執筆). 「総論 9. 医療関連感染とチーム医療」: 操 華子編. 感染管理・感染症看護テキスト, 東京: 照林社; 2015年: 26-28.

- 7) 村上啓雄編著. 編集にあたって：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：3.
- 8) 村上啓雄編著. 総論 ICT活動とは：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：9-10.
- 9) 村上啓雄編著. コラム 01 感染防止対策加算の使い道：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：46-47.
- 10) 村上啓雄編著. コラム 10 保健所との日ごろの付き合い方：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：232.
- 11) 村上啓雄編著. 第6章 地域連携・近隣施設のサポート 01 感染防止対策加算を通じた連携：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：234-241.
- 12) 村上啓雄編著. 第6章 地域連携・近隣施設のサポート 02 中小医療機関のサポート—行政機関や保健所との連携を含めて—：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：242-248.
- 13) 村上啓雄編著. 第6章 地域連携・近隣施設のサポート 03 その他の連携—在宅医療・介護老人保健施設等のサポート—：職種別タスク一覧表つき！ 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル, 大阪：メディカ出版：2015年：249-252.
- 14) 渡邊珠代. 感染症：山本眞由美編. 2015 大学生の健康ナビ, 岐阜：岐阜大学；2015年：175-179.
- 15) 渡邊珠代, 村上啓雄(分担執筆). 門脇 孝, 小室一成, 宮地良樹 監修. I 感染症 11. 感染性腸炎」日常診療に活かす診療ガイドラ UP-TO-DATE 2016-2017, 大阪：メディカルレビュー社：2016年：69-73.
- 16) 丹羽 隆, 村上啓雄. 「第2章 年間を通じて行おう！ いつでも大切！ To Do リスト①-② 抗菌薬の適正使用への取り組み」やり忘れ+うっかりを防ぐ！ 感染対策 To Do リスト, 大阪：メディカ出版：2017年：32-36.
- 17) 村上啓雄. 松本哲也編. Part V ESBL 産生菌の感染対策 3 介護施設における感染対策のポイント」これだけはしっておきたい 日常診療で遭遇する耐性菌 ESBL 産生菌 診断・治療・感染対策, 大阪：医薬ジャーナル社：2017年：179-190

著書 (欧文)

- 1) Baba H, Paterson DL. Cefotiam, Cefuzonam, Cefamandole, Cefonicid, and Ceforanide. In: Grayson ML, et al. ed. Kucers' The Use of Antibiotics, 7th ed. Boca Raton: CRC press;2017:369-402.
- 2) Baba H. Aztreonam and Aztreonam-Avibactam. In: Grayson ML, et al. ed. Kucers' The Use of Antibiotics, 7th ed. Boca Raton: CRC press;2017:644-657.
- 3) Hayashi Y, Baba H. Faropenem. In: Grayson ML, et al. ed. Kucers' The Use of Antibiotics, 7th ed. Boca Raton: CRC press;2017:765-771.

総説 (和文)

- 1) 村上啓雄.身近なヘルスケア② 冬場の感染対策—インフルエンザのノロウイルス, 経済月報 2015年；28(11)：22-23.
- 2) 丹羽 隆, 村上啓雄, 伊藤善規. アウトブレイク発生!! なんの消毒薬をどう使う!! 「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌」, 薬局 2016年；67(2)：248-250.
- 3) 村上啓雄. Patient Safety と医療関連感染制御, 臨床病理 2016年；64(3), 345-354.
- 4) 村上啓雄. 感染症ガイドラインのすべて VIIその他, 主要学会 6. 国公立大学附属病院感染対策協議会病院感染対策ガイドライン, 化学療法の領域 2016年；32(S-1), 863-870.
- 5) 鈴木智之, 村上啓雄. 感染制御と医療経済：医療関連感染対策の経済学的評価, 丸石感染対策ニュース 2016年；AUG No.4, 3-5.
- 6) 村上啓雄. 国公立大学附属病院感染対策協議会病院感染対策ガイドライン第4版(改訂第2版), CARLISLE 2016年；21(2), 1-3.
- 7) 村上啓雄. 巻頭言 Antimicrobial Stewardship Program 推進のために, 化学療法の領域 2017年；33(3)；15.
- 8) 村上啓雄. 質疑応答 Pro⇔Pro プロからプロへ 地域における薬剤耐性菌への対策の取り組み, 週刊日本医事新報 2017年；No.4585；63.
- 9) 馬場尚志. 耐性菌検査法ガイド 第三章 薬剤耐性菌検査の目的と意義. 日本臨床微生物学雑誌 2017年；27巻(Suppl 3)：19-22.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 中山麻美, 大瀧博文, 大楠清文, 米玉利準, 白井菜月, 丹羽麻由美, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 兼村信宏, 伊藤弘康, 村上啓雄, 清島 満. クロモアガーオリエンタシオン/ESBL 分画培地を用いたグラム陰性

- 桿菌の簡易同定アルゴリズムと ESBL 産生菌の効率的な検出法の評価：質量分析法との同定制度の比較と費用対効果を含めた検討，日本臨床微生物学雑誌 2015 年；25 巻；40-49.
- 2) 丹羽 隆，渡邊珠代，村上啓雄. 医師と連携した抗菌薬の適正使用. ICT レベルアップ特集 1 月号：おしえて！感染対策チーム薬剤師の活動，INFECTION CONTROL 2015 年；24 巻；81-83.
 - 3) 渡邊珠代，丹羽 隆，土屋麻由美，外海有規，太田浩敏，村上啓雄. 岐阜県内感染防止対策加算算定全病院での感染対策活動に関するサーベイランス結果報告，環境感染誌 2015 年；30 巻；44-55.
 - 4) 鈴木智之，土屋麻由美，丹羽 隆，渡邊珠代，太田浩敏，深尾亜由美，藤本修平，村上啓雄. 当院における MRSA 感染制御活動の経済的評価に関する検討，環境感染誌 2015 年；30 巻；91-96.
 - 5) 小池竜司，小野和代，八木哲也，村上啓雄. TOPIC prompt report 国公立大学医学部附属病院感染対策協議会 - 第 16 回総会の概要と注目トピック - ，INFECTION CONTROL 2015 年；24 巻；554-557.
 - 6) 村上啓雄，渡邊珠代，深尾亜由美，土屋麻由美，丹羽 隆，太田浩敏，中山麻美，河合直樹. 地域における連携の実例 今月の特集② 感染制御と連携—検査部門はどのようにかかわっていくべきか，臨床検査 2015 年；59 巻；348-355.
 - 7) 渡邊珠代，村上啓雄. 感染防止対策加算による医療連携が微生物検査に与えた影響. 臨床微生物検査の現状分析と将来展望 23—患者さん中心の医療を実現するために—，モダンメディア 2015 年；61 巻；148-158.
 - 8) 西城卓也，大江直行，池田貴英，牛越博昭，白橋幸洋，高杉信寛，松橋延壽，矢野竜一朗，渡邊珠代，鈴木康之. 国際認証の時代における臨床系教員養成のあり方：マギル大学での臨床教育研修プログラムの事例検討，医学教育 2015 年；46 巻；69-77.
 - 9) 渡邊珠代. 感染症，2015 大学生の健康ナビ，岐阜新聞社 2015 年；175-179.
 - 10) 佐藤明日海，北村悠，長瀬大，水野敬吾，今福輪太郎，村上啓雄，西城卓也. 地域枠及び一般枠医学生の地域医療に対する認識の比較調査，医学教育 2015 年；46(5)，419-424.
 - 11) 中山麻美，大瀧博文，大楠清文，米玉利華，白井菜月，丹羽麻由美，太田浩敏，古田伸行，渡邊珠代，兼村信宏，伊藤弘康，村上啓雄，清島満. クロモアガーオリエンタシオン/ESBL 分画培地を用いたグラム陰性桿菌の簡易同定アルゴリズムと ESBL 産生菌の効率的な検出法の評価：質量分析法との同定制度の比較と費用対効果を含めた検討，日本臨床微生物学雑誌 2015 年；25(4)，40-49.
 - 12) 熊田恵介，村上啓雄，豊田泉，小倉真治，福田充宏. 高度救命救急センターにおけるインシデント報告の現状と気管切開事例に係る安全管理対策の効果，JJAMM(日救急医学会誌) 2016 年；27，8-14.
 - 13) 丹羽隆，村上啓雄. 「Antimicrobial stewardship 活動の実例 今月の特集 2 Antimicrobial stewardship 臨床検査 2017 年；61(1)：70-74.
 - 14) 熊田恵介，村上啓雄，吉田 実，豊田 泉，小倉真治，福田充宏. 調査・報告温泉地域における入浴関連救急搬送事例の検討 地域特性からみた救急支援のあり方，日臨救急医学会誌 2017 年；20(1)；18-22.
 - 15) 安江智雄，田辺正樹，村上啓雄. 地域のパンデミックプランニング 次の新型インフルエンザ発生に備える！！—地域における医療体制の構築を目指した地方自治体の取組み—，インフルエンザ 2017 年；18(2)；115-118.

原著 (欧文)

- 1) Kumada K, Tamai S, Murakami N, Toyoda I, Ogura S, Fukuda A. Safety Management of Tracheostomies: An Analysis of Early Complications. J of Medical Safety. 2015;160-164.
- 2) Niwa T, Watanabe T, Suzuki K, Hayashi H, Ohta H, Nakayama A, Tsuchiya M, Yasuda K, Murakami N, Itoh Y. Early optimization of antimicrobial therapy improves clinical outcomes of patients administered agents targeting methicillin-resistant Staphylococcus aureus .J of Clinical Pharmacy and Therapeutics.2016 :41,19-25. CS 1.79
- 3) Niwa T, Watanabe T, Goto T, Ohta H, Nakayama A, Suzuki K, Shinoda Y, Tsuchiya M, Yasuda K, Murakami N, Yoshinori Itoh. Daily Review of Antimicrobial Use Facilitates the Early Optimization of Antimicrobial Therapy and Improves Clinical Outcomes of Patients with Bloodstream Infections. Biol Pharm Bull.2016;39,721-727. CS 1.79
- 4) Kumada K, Murakami N, Okada H, Toyoda I, Ogura S, Kondo H, Fukuda A : Rare central venous catheter malposition—an ultrasound-guided approach would be helpful: a case report J of Medical Case Report. 2016;10,248-251. CS 0.63
- 5) Nakamura N, Hara T, Ninomiya S, Shibata Y, Matsumoto T, Nakamura H, Kitagawa J, Nannya Y, Shimizu M, Murakami N, Tsurumi H: Garenoxacin Prophylaxis for Febrile Neutropenia after Chemotherapy in Hematological Malignancies. Open J of Internal Medicine (OJIM).2016;6,128-138.
- 6) Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M: Japanese antimicrobial consumption surveillance: First report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan(2009-2013). J of Global Antimicrobial Resistance.2016;7,19-23. CS 1.01
- 7) Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M. Japanese antimicrobial consumption surveillance: First report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan(2009-2013). Journal of Global Antimicrobial Resistance 2016;7:19-23. CS 1.13
- 8) Yoshida S, Suzuki K, Suzuki A, Okada H, Niwa T, Kobayashi R, Murakami N, Ogura S, Itoh Y. Risk

- factors for the failure of treatment of Pseudomonas aeruginosa bacteremia in critically ill patients. Pharmazie. 2017;72:428-432. CS 1.28
- 9) Yoshida S, Suzuki A, Ohmori T, Niwa T, Okada H, Suzuki K, Kobayashi R, Doi T, Kitaichi K, Matuura K, Murakami N, Ogura S and Itoh Y. A simplified chart for determining the initial loading dose of teicoplanin in critically ill patients. Pharmazie. 2017;72: 53-57. CS 1.28
- 10) Harada S, Suzuki A, Nishida S, Kobayashi R, Tamai S, Kumada K, Murakami N, Itoh Y. Reduction of medication errors related to sliding scale insulin by introduction of a standardized order sheet. Journal of Evaluation in Clinical Practice.2017;23:582-585. CS. 1.31
- 11) Iizuka K. The transcription factor carbohydrate-response element-binding protein(ChREBP):A possible link between metabolic disease and cancer .Biochimica et Biophysica Acta.2017;474-485. CS 5.49

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：八木哲也(名古屋大学医学部)，研究分担者：村上啓雄；厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業：医療機関におけるインフルエンザ感染対策の研究；平成 25－27 年度(3 年計画予定)；1,620 千円(900：400：320 千円)
- 2) 研究代表者：荒川宜親(名古屋大学医学部)，研究分担者：村上啓雄，馬場尚志，太田浩敏；厚生労働科学研究費補助金:在宅医療患者等における多剤耐性菌の分離率及び分子疫学解析；平成 27－29 年度(3 年計画予定)；500：300 千円
- 3) 研究代表者：八木哲也(名古屋大学医学部)，研究分担者：村上啓雄；地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究；介護施設における薬剤耐性菌対策についての研究；平成 28－30 年度(3 年計画予定)；350：250 千円

2) 受託研究

- 1) 村上啓雄，馬場尚志，深尾亜由美：院内感染対策研究事業(平成 17 年度～)；平成 17－29 年度；8,559 千円(993：500：500：500：500：500：500：500：800：800：822：822：822 千円)；岐阜県医療整備課受託研究費
- 2) 村上啓雄，馬場尚志，寺本貴英，大西秀典：岐阜県予防接種センター委託事業(平成 20 年度～)；平成 20－29 年度；10,4000 千円(1,000：1,000：1,000：1,000：1,000：1,080：1,080：1,080：1080：1080 千円)；岐阜県医療整備課受託研究費

3) 共同研究

- 1) 村上啓雄：国立大学医学部附属病院共通ソフト“感染症管理システム”を用いた全自動全面電子化医療関連感染サーベイランスに関する研究；平成 12 年～現在；0 円：群馬大学

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

村上啓雄：

- 1) 日本感染症学会評議員(平成 13 年～現在)
- 2) 日本感染症学会中日本地方会理事(平成 28 年～現在)
- 3) 日本環境感染症学会評議員(平成 18 年度～現在)
- 4) 日本病態栄養学会評議員(平成 17 年度～現在)
- 5) 日本病態栄養学会監事(平成 27 年度～平成 28 年度)
- 6) 日本病態栄養学会理事(平成 29 年度～現在)
- 7) 日本病態栄養学会 NST 委員会委員長(平成 25 年度～現在)
- 8) 日本内科学会東海支部評議員(平成 12 年度～現在)
- 9) 日本口腔ケア学会評議員(平成 28 年～現在)

馬場尚志：

- 1) 日本感染症学会評議員(平成 24 年 1 月～現在)
- 2) 日本環境感染症学会評議員(平成 24 年 2 月～現在)

- 3) 日本臨床微生物学会評議員(平成 25 年 2 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

村上啓雄:

- 1) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 1 月, 京都, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 2) 第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 27 年 1 月, 京都, 教育講演「感染と栄養」座長)
- 3) 第 27 回日本臨床微生物学会総会(平成 27 年 1 月, 東京, WS4「2DCM - web ワークショップです。JANIS 検査部門参加中, 参加予定の皆さん, 是非のぞいてみてください。」コーディネーター)
- 4) 第 30 回日本環境感染学会総会(平成 27 年 2 月, 神戸, シンポジウム 1「次世代の人材育成を考慮した感染制御」座長)
- 5) 第 30 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 27 年 2 月, 神戸, WS3「JANIS 検査部門の 2DCM の体験 WS」コーディネーター)
- 6) 第 6 回東海 ICD アカデミー(平成 27 年 4 月, 名古屋, シンポジウム「血流感染対策」シンポジスト)
- 7) 第 89 回日本感染症学会総会(平成 26 年 4 月, 京都, シンポジウム 1「病院感染症医の必要性」座長)
- 8) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 6 月, 東京, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 9) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 27 年 7 月, 大阪, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 10) 医療安全教育セミナー(上級編)2015 国際リスクマネジメント学会主催(平成 27 年 10 月, 東京, シンポジウム「医療事故の病院対応の現状と未来」司会およびシンポジスト)
- 11) 第 85 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 第 58 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 27 年 10 月, 奈良, 特別講演 2「感染制御と感染症学」演者)
- 12) 第 7 回東海 ICD アカデミー(平成 27 年 11 月, 名古屋, シンポジウム「MRSA 保菌者対策」コメントーター)
- 13) 第 62 回日本臨床検査医学学術集会(平成 27 年 11 月, 岐阜, 特別講演「感染対策から医療安全を考える」演者)
- 14) 第 28 回日本外科感染症学会総会 ICD 講習会(平成 27 年 12 月, 名古屋, 講演「ノロウイルスによる感染性胃腸炎と対策」演者)
- 15) 平成 27 年度厚生労働省院内感染対策講習会①, ③(平成 27 年 12 月, 神戸, パネルディスカッション「院内感染対策のシステム化・連携」「地域における感染対策のネットワーク」演者)
- 16) 平成 27 年度厚生労働省院内感染対策講習会(平成 27 年 12 月, 奈良, パネルディスカッション「アウトブレイク対応の実際と地域ネットワーク・地域連携」演者)
- 17) 第 27 回日本臨床微生物学会総会(平成 28 年 1 月, 仙台, WS 10「JANIS 検査部門 2DCM - web 体験・相談 ワークショップ」コーディネーター 藤本修平 八東眞一 本間操 宮木祐輝 茂籠邦彦 岩崎澄央 大瀧博文 山田貴子 大石貴幸 勝見真琴 柴山恵吾 荒川宜親 八木哲也 村上啓雄 富田治芳 遠藤敏尚 飯島秀弥)
- 18) 日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 28 年 1 月, 横浜, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策, 演習 3 症例による検討, NST 実技講習会」ファシリテーター)
- 19) 第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 28 年 1 月, 横浜, 教育講演 3「トランス脂肪酸」座長)
- 20) 第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 28 年 1 月, 横浜, NST メディカルスタッフセッション)

- ン(初級編) 「静脈栄養の基本」座長)
- 21) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, ランチョンセミナー(LS 8)「地域連携による感染制御力向上の取組み」演者)
 - 22) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, シンポジウム 6 テーマ: 行政も含めた感染制御の地域連携「感染制御の連携における今後の展望」)
 - 23) 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 28 年 2 月, 京都, 特別講演 4「国公立大学附属病院感染対策協議会の活動を通じての我が国の感染対策の推進」演者)
 - 24) 第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会(平成 28 年 4 月, 仙台, 「一般演題 疫学」座長)
 - 25) 第 5 回日本感染管理ネットワーク(ICNJ)学会学術集会・第 14 回総会(平成 28 年 5 月, 大分, シンポジウム 1 日本のサーベイランスシステム 現状と展望～ICN は何を求め, 何を担うのか～「国公立大学附属病院感染対策協議会の統一サーベイランスについて」鍋谷佳子 渡邊都貴子 田邊嘉也 高倉俊二 村上啓雄)
 - 26) H28 年度日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 28 年 7 月, 東京, 招待講演「4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6. 経腸栄養の合併症対策」ファシリテータ)
 - 27) 第 86 回日本感染症学会西日本地方学術集会 第 59 回日本感染症学会中日本地方学術集会 第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 28 年 11 月, 沖縄, ランチョンセミナー(LS)「Antimicrobial Stewardship Program のアウトカム」講演)
 - 28) 第 86 回日本感染症学会西日本地方学術集会 第 59 回日本感染症学会中日本地方学術集会 第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 28 年 11 月, 沖縄, ワークショップ「薬剤師は病院感染症診療のどこまでコミットできるか」座長)
 - 29) 第 8 回東海 ICD アカデミー(平成 28 年 11 月, 名古屋, シンポジウム「MRSA 保菌者対策」コメントーター)
 - 30) 日本外科感染症学会 第 29 回学術集会(平成 28 年 11 月, 東京, 特別企画. JANIS サーベイランスデータのさらなる活用「JANIS 検査部門データ活用の現状と今後 2DCM-web と RICSS で AMR と戦う」藤本修平, 村上啓雄, 柴山恵吾, 八木哲也, 荒川宜親)
 - 31) 平成 28 年度厚生労働省院内感染対策講習会②(平成 28 年 12 月, 奈良, パネルディスカッション「多剤耐性菌検出時の ICT による介入ならびにアウトブレイク対応の実際」演者)
 - 32) 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 29 年 1 月, 京都, 教育講演 9「感染制御と栄養管理」演者)
 - 33) 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 29 年 1 月, 京都, NST スキルアップ講習会「NST 多職種メンバーに期待するもの」座長)
 - 34) 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 29 年 1 月, 岐阜, セミナー講演「The 地域枠学生の育て方～卒後のキャリア支援を見据えて～」演者)
 - 35) 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 29 年 1 月, 岐阜, WS-2「卒後キャリア支援を見据えた地域枠学生の育て方」ファシリテーター 前田隆浩 長谷川仁志 阿波谷敏英 片岡義裕 村上啓雄)
 - 36) 第 32 回日本環境感染学会総会・学術集会(平成 29 年 2 月, 神戸, 教育講演 3「国公立大学附属病院感染対策協議会の社会貢献と今後の課題」演者)
 - 37) H29 年度日本病態栄養学会 NST セミナー(平成 29 年 7 月, 東京, 講義: 4.補助食品 5.経腸栄養の種類, 投与ルート, 管理 6.経腸栄養の合併症対策」ファシリテーター)
 - 38) 第 49 回日本医学教育学会大会(平成 29 年 8 月, 札幌, シンポジスト「地域参加型医学教育の方略と評価」岐阜大学の地域医療教育の取組 岡山雅信 白鳥正典 村上啓雄 井上和男)
 - 39) 第 54 回日本細菌学会中部支部総会・学術集会(平成 29 年 10 月, 名古屋, パネル・ディスカッション「日本細菌学会再活性化のための提言」パネリスト 飯沼由嗣 八木哲也 村上啓雄)
 - 40) 第 26 回日本口腔感染症学会(平成 29 年 11 月, 愛知, ICD 講習会 テーマ「チーム医療院内感染対策」連携・ネットワーク構築による地域感染制御強化の取り組み 演者)
 - 41) 平成 29 年度厚生労働省院内感染対策講習会③(平成 29 年 12 月, 奈良, 講演「アウトブレイクとその対応」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

村上啓雄：

- 1) 国公立大学医学部附属病院感染対策協議会委員(平成 12 年度～現在)
- 2) 同協議会会長(平成 26 年度～現在)
- 3) 厚生労働省院内感染対策サーベイランス運営会議構成員(平成 24 年度～現在)
- 4) 厚生労働省院内感染対策中央会議構成員(平成 28 年～現在)
- 5) 岐阜地方裁判所専門員(平成 16 年度～現在)
- 6) 岐阜県感染症予防委員会情報対策部会解析小委員会委員(平成 11 年度～現在)
- 7) 岐阜県感染症予防委員会予防接種部会委員(平成 20 年度～現在)
- 8) 岐阜県予防接種健康被害調査専門医師集団専門医師(平成 16 年度～現在)
- 9) 岐阜県院内感染対策協議会委員(平成 18 年度～現在)
- 10) 岐阜県院内感染対策相談窓口回答者(平成 17 年度～現在)
- 11) 岐阜県新型インフルエンザ対策委員会委員長(平成 20 年度～現在)
- 12) (社)地域医療振興協会シニアプログラム「地域医療のすすめ」専門指導医(平成 21 年度～現在)
- 13) 岐阜県へき地地域医療対策委員会委員(平成 21 年度～現在)
- 14) 岐阜県立病院医療事故検討会委員(平成 22 年度～現在)
- 15) 郡上市地域医療確保検討委員会委員(平成 22 年度～現在)
- 16) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム企画調整委員会委員(平成 22 年度～現在)
- 17) 岐阜県教職員保健審査委員(平成 26 年度～現在)
- 18) 岐阜県在宅医療連携推進会議委員(平成 25 年度～現在)
- 19) 岐阜県人権懇話会委員(平成 26 年度～現在)
- 20) 愛知県立病院医療事故防止対策委員会委員(平成 26 年度～現在)
- 21) 岐阜県動物由来感染症情報関連体制整備検討会メンバー(平成 26 年度～現在)
- 22) メディカ出版 INFCTION CONTROL 編集委員(平成 27 年度～現在)
- 22) 全国地域医療教育協議会世話人(平成 27 年度～現在)
- 23) 全国地域医療教育協議会世話人監事(平成 29 年度～現在)

馬場尚志

- 1) 日本学術振興科学研究費委員会専門委員(平成 29 年度)

10. 報告書

- 1) 藤本修平, 村上啓雄, 八束眞一, 都倉昭彦, 輿石芳夫, 本間 操, 山下計太, 静野健一, 石黒信久, 岩崎澄央：院内感染対策の高精度化を目的とした電子システムの開発と応用に関する研究：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究」総合研究報告書：153-166(平成 24～26 年度)
- 2) 渡邊珠代, 村上啓雄：インフルエンザ研究 わが国の医療機関におけるインフルエンザ対策の実態と課題：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)「医療機関における感染制御に関する研究」総括・分担研究報告書：55-60(平成 26 年度)
- 3) 渡邊珠代, 村上啓雄：岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム：労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」総括研究報告書：13-25(平成 26 年度)
- 4) 渡邊珠代, 村上啓雄：岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム：科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」総合研究報告書：33-49(平成 25～26 年度)
- 5) 前田隆浩, 阿波谷敏英, 井口清太郎, 井上和男, 大脇哲洋, 岡山雅信, 梶井英治, 武内啓祐, 谷 憲治, 長谷川仁志, 前田隆浩, 前野哲博, 村上啓雄, 三瀬順一：公益財団法人医学教育振興財団 H26 年度医学教育研究・助成事業「地域医療教育に関する全国調査報告書」(平成 27 年 6 月)
- 6) 柴山恵吾, 藤本修平, 村上啓雄, 八束眞一, 都倉昭彦, 輿石芳夫, 本間操, 山下計太, 静野健一, 石黒信久, 岩崎澄央：新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する

る研究：厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)総合研究報告書、「院内感染対策の高精度化を目的とした電子システムの開発と応用に関する研究」153-166(平成24～26年度)

- 7) 小林寛伊, 村上啓雄, 渡邊珠：. 感染制御システムのさらなる向上を目指す研究／特に中小医療施設を対象として」I 地域支援ネットワーク構築の現状分析と今後のより効果的支援策にタ関する提言. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「岐阜県内感染防止対策加算算定全施設におけるデータ月例収集とフィードバックによる感染制御レベル向上への取り組みとそのアウトカム」総括研究報告書13-25(平成26年度)

11. 報道

- 1) 村上啓雄：感染症予防対策：FM わっち(2015年1月19日)
- 2) 村上啓雄：新しい事故調査制度と大学病院の役割：医療事故情報センターニュース(2015年3月1日)
- 3) 村上啓雄, 渡邊珠代：医療機関における季節性インフルエンザ対策の実態調査：NHK おはよう日本(2015年4月16日)
- 4) 村上啓雄：岐阜の医療・医師確保～地域枠で若手育成：岐阜新聞オピニオン(2015年7月22日)
- 5) 村上啓雄：ICD トップランナー Vol.2 No.1 監修(塩野義製薬株式会社感染症薬適正使用推進室提供)「耐性菌が検出されたらどう動くかルーチンワークで耐性菌に立ち向かう」(2016年3月1日)
- 6) 村上啓雄：ラジオ NIKKEI/インターネットライブ「感染症 TODAY」「地域連携による感染症対策, 感染制御の強化」：日経ラジオ社東京(2016年7月14日)
- 7) 村上啓雄：外来診療における抗菌薬適正使用：岐阜県保険医新聞第(2017年1月10日)
- 8) 村上啓雄, 森川秀美, 土屋麻由美：内視鏡業務における眼への体液悲惨リスクとその対策：INFECTION CONTROL Interview (2017年2月1日)
- 9) 村上啓雄：インフルエンザとノロ対策：NHK 岐阜(2017年12月13日)

12. 自己評価

評価

ICT 活動に基づく、研究業績をある程度発表できたものと思われる。とくに抗菌薬適正使用(Antimicrobial Stewardship)のアウトカム評価, 抗菌薬の臨床薬剤学, 岐阜県内感染防止対策加算および地域連携加算病院におけるサーベイランスシステム構築とそのアウトカム評価, 医療関連感染対策の医療経済効果, 医療施設における季節性インフルエンザ対策の標準化等については、国内外の学会誌等に論文化・報告できた。結果としてセンター長が平成26年度から国公立大学附属病院感染対策協議会会長および平成28年度から厚生労働省院内感染対策中央会議構成員に就任したことは、これらの評価の一つとして捉えている。なお、岐阜県内においては地域連携の強化(感染防止対策加算全施設合同サーベイランスおよびその全国展開(RICSS→J-SIPHE: Japan Surveillance for Infection Prevention and Healthcare Epidemiology), 岐阜県院内感染対策研究事業(協議会の開催と改善支援, 中小病院訪問実地指導, 相談窓口), 岐阜県予防接種センター事業(相談窓口, 3次予防接種事業, 研修会)などに大きく貢献できたと考えている。

現状の問題点及びその対応策

ICT 活動に関連した研究業績はある程度残すことができたものの、他の栄養管理, 褥瘡対策, 呼吸療法支援, 予防接種については、学会発表はできたものの、学会誌への投稿は達成できていない。総説や分担執筆がわずかにある程度である。各チームとも日常業務のなかで、臨床研究が進むように、課題を明確化して取り組んでいきたい。

今後の展望

研究活動奨励のためにも、生体支援センターの各チーム活動に加え、医療安全管理室, 臨床倫理室, 栄養管理室, 診療録管理室等の患者診療支援業務の質向上と様々な観点でのリスク管理機能を統合させた、Quality & Risk Control Center (QRCC) の概念に基づいたさらなるブラッシュアップを模索している。ただし、現状の生体支援センターおよび医療安全管理室の機能は充実しており、それらの独自性を

残しながら、どう組織体の中で位置づけるかを H30 年度中に整理する予定である。

(7) 寄附講座「循環呼吸先端医学講座」

1. 研究の概要

当講座は循環病態学分野並びに呼吸病態学分野に随伴した寄附講座であり、両講座の広範な研究分野の一部に係わる形で活動している。それらのおもなものとしては 1) ドラッグデリバリーシステムを用いたエリスロポイエチン投与による心筋梗塞後心組織修復再生療法の開発, 2) 心筋梗塞時の心筋細胞におけるオートファジーの病態生理解明による治療の進歩, 3) 呼吸器悪性新生物の薬物治療に関する臨床研究, 4) 間葉系幹細胞のサブセットである MUSE 細胞を用いた心筋梗塞後心組織再生療法の研究である。

2. 名簿

准教授： 三上 敦 Atsushi Mikami
助教： 遠渡 純輝 Junki Endo

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)
なし

総説 (和文)
なし

総説 (欧文)
なし

原著 (和文)

- 1) 川崎雅規、岩佐将充、金森寛充、山田好久、田中俊樹、牛越博昭、大野 康、三上 敦、西垣和彦、湊口信也。血管内超音波検査で評価する冠動脈プラークの不安定性と各種臨床検査値との関連、臨床病理 2016年 ; 64巻 : 319-326.

原著 (欧文)

- 1) Yanase K, Funaguchi N, Iihara H, Yamada M, Kaito D, Endo J, Ito F, Ohno Y, Tanaka H, Itoh Y, Minatoguchi S. Prevention of radiation esophagitis by polaprezinc (zinc L-carnosine) in patients with non-small cell lung cancer who received chemoradiotherapy. *Int J Clin Exp Med.* 2015;8:16215-16222. CS 1.25
- 2) Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Nishiwaki A, Endo J, Ushikoshi H, Ohno Y, Minatoguchi S. Acupuncture Treatment for Dyspnea due to Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema: A Case Report. *J Altern Complement Med.* 2015;21:804-809. CS 1.55
- 3) Funaguchi N, Nakajima Y, Kaito D, Yanase K, Ito F, Endo J, Morishita M, Asano M, Iihara H, Mori H, Ohno Y, Minatoguchi S. Analysis of Pemetrexed Monotherapy in Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Impaired Renal Function. *Gan To Kagaku Ryoho.* 2015;42:705-708. CS 0.09
- 4) Kanamori H, Takemura G, Goto K, Tsujimoto A, Mikami A, Ogino A, Watanabe T, Morishita K, Okada H, Kawasaki M, Seishima M, Minatoguchi S. Autophagic adaptations in diabetic cardiomyopathy differ between type 1 and type 2 diabetes. *Autophagy.* 2015;11:1146-1160. CS 6.01
- 5) Morishita K, Takemura G, Tsujimoto A, Kanamori H, Okada H, Chousa M, Ushimaru S, Mikami A, Kawamura I, Takeyama T, Kawaguchi T, Watanabe T, Goto K, Morishita M, Ushikoshi H, Kawasaki M, Ogura S, Minatoguchi S. Postinfarction Cardiac Remodeling Proceeds Normally in Granulocyte Colony-Stimulating Factor Knockout Mice. *Am J Pathol.* 2015;185:1899-1911. CS 4.57
- 6) Hayakawa Y, Aoyama T, Yokoyama C, Okamoto C, Komaki H, Minatoguchi S, Iwasa M, Yamada Y, Kawamura I, Kawasaki M, Nishigaki K, Mikami A, Suzuki F, Minatoguchi S. High salt intake damages the heart through activation of cardiac (pro) renin receptors even at an early stage of hypertension. *PLoS One.* 2015;10:e0120453. CS 3.32
- 7) Okada H, Takemura G, Kanamori H, Tsujimoto A, Goto K, Kawamura I, Watanabe T, Morishita K, Miyazaki N, Tanaka T, Ushikoshi H, Kawasaki M, Miyazaki T, Suzui N, Nishigaki K, Mikami A, Ogura S, Minatoguchi S. Phenotype and physiological significance of the endocardial smooth muscle cells in human failing hearts. *Circ Heart Fail.* 2015;8:149-155. CS 5.74
- 8) Ito F, Ohno Y, Toyoshi S, Kaito D, Koumei Y, Endo J, Kamamiya F, Mori H, Mori M, Morishita M, Funaguchi N, Minatoguchi S. Pharmacokinetics of consecutive oral moxifloxacin (400 mg/day) in patients with respiratory tract infection. *Ther Adv Respir Dis.* 2016;10:34-42. CS 2.31

- 9) Kamiya F, Ohn Y, Funaguchi N, Yanase K, Ito F, Endo J, Mori H, Osuga T, Iwata H, Yasuda N, Takatsu H, Minatoguchi S. 3-D computed tomographic airway analysis detects mild bronchiectasis in mycobacterium avium complex pulmonary disease. *Int J Clin Exp Med.* 2016;9:5978-5986. CS 1.25
- 10) Ito F, Kawasaki M, Ohno Y, Toyoshi S, Morishita M, Kaito D, Yanase K, Funaguchi N, Asano M, Endo J, Mori H, Kobayashi K, Nishigaki K, Miyazaki T, Takemura G, Minatoguchi S. Noninvasive Tissue Characterization of Lung Tumors Using Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound: An Ex Vivo Comparative Study With Pathological Diagnosis. *Chest.* 2016;149:1276-1284. CS 4.66
- 11) Kawasaki M, Iwasa M, Kanamori H, Yamada Y, Tanaka T, Ushikoshi H, Ohno Y, Mikami A, Nishigaki K, Minatoguchi S. Relationship between Coronary Plaque Stability Evaluated by Intravascular Ultrasound and Laboratory Parameters. *Rinsho Byori.* 2016;64:319-326. CS 0.11
- 12) Goto K, Takemura G, Takahashi T, Okada H, Kanamori H, Kawamura I, Watanabe T, Morishita K, Tsujimoto A, Miyazaki N, Ushikoshi H, Kawasaki M, Mikami A, Kosai K, Minatoguchi S. Intravenous Administration of Endothelial Colony-Forming Cells Overexpressing Integrin $\beta 1$ Augments Angiogenesis in Ischemic Legs. *Stem Cells Transl Med.* 2016;5:218-226. CS 4.89
- 13) Okamoto C, Hayakawa Y, Aoyama T, Komaki H, Minatoguchi S, Iwasa M, Yamada Y, Kanamori H, Kawasaki M, Nishigaki K, Mikami A, Minatoguchi S. Excessively low salt diet damages the heart through activation of cardiac (pro)renin receptor, renin-angiotensin-aldosterone, and sympatho-adrenal systems in spontaneously hypertensive rats. *PLoS One.* 2017;12: e0189099. CS 3.11

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

- 1) 三上敦：体性幹細胞を用いた循環器疾患治療の探求；平成 29 年度；300 千円；タケダリサーチサポート武田薬品工業(株)

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

なし

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

当グループの欧文原著は今回 1 報が加わったが、その渡邊らの 2014 年に刊行された論文はマウスモデルを用いて心筋梗塞回復期に食餌摂取を制限することにより、治癒が促進されることを示したものである。自由摂食の 10 割, 8 割, 6 割, 4 割と減らしていったとき 6 割で最も好結果であった。食事制限で心筋細胞内の自食作用（オートファジー）が亢進しており, オートファジー遮断薬クロロキンで食事制限の効果も消失した。一見病態を悪化するのみでもおかしくない食餌制限は細胞内の代謝を促進して回復を促進した。また心筋梗塞のダメージが 6 割で最小となるような J-カーブを観察することもでき, 各種生理指標や薬物効果と同様の傾向が観察でき, 他の疾患の治療へも洞察を与えるものとなった。実際この研究は国内外の学会発表でも好評を博している。

現状の問題点及びその対応策

当寄附講座発足から 3 年を経て研究費も漸く充足してきた。残る期間にそれに見合った結果を出していきたい。

今後の展望

当寄附講座の残りの期間で社会に役立つ結果を残すのが一番の目標となっている。

(8) 寄附講座「がん先端医療開発学講座」

1. 研究の概要

- ① 手術療法や薬物療法に関する臨床試験の展開とその体制の構築
- ② 薬物療法・分子標的療法のトランスレーショナルリサーチの展開

2. 名簿

准教授： 松橋延壽 Nobuhisa Matsuhashi
助教： 浅野好美 Yoshimi Asano

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 松橋延壽, 吉田和弘. 6. 消化管間質腫瘍(GIST): 菅野健太郎, 上西紀夫, 小池和彦編. 消化器疾患最新の治療 2015-2016, 東京: 南江堂; 2015年: 287-290.
- 2) 松橋延壽, 吉田和弘. 差分解説 外科: 消化管 直腸癌における究極的肛門温存術: 週刊日本医事新報 No.4760, 東京: 日本医事新報社; 2015年: 55.
- 3) 松橋延壽, 吉田和弘. 差分解説 外科: 消化管 ここまできた大腸癌化学療法: 週刊日本医事新報 No.4775, 東京: 日本医事新報社; 2015年: 56
- 4) 吉田和弘, 山口和也, 棚橋利行, 田中善宏, 高橋孝夫, 松橋延壽, 今井寿. IV期胃癌に対する Conversion 手術の治療戦略: Cancer Review 1, 東京: 日経メディカル開発; 2017年: 21-24.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 吉田和弘, 山口和也, 棚橋利行, 田中善宏, 高橋孝夫, 松橋延壽. Conversion Surgery の定義・特性・意義, 臨床外科 2017年; 72巻10号, 1166-1170.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 高橋孝夫, 吉田和弘, 松橋延壽. 医師の立場からみた薬剤師との協働薬物治療管理(CDYM) - がん治療におけるより良いチーム医療を目指して, 月刊薬事 2015年; 57巻5号: 27-33.
- 2) 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘. 特集 大腸癌イレウスの治療と問題点 7. 左側大腸癌イレウスに対する化学療法, 外科 2015年; 77巻13号: 1540-1545.
- 3) 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘. がん薬物療法のマネジメントと副作用対策, 臨床外科 2015年; 70巻5号: 526-531.
- 4) 深田真宏, 松橋延壽, 高橋孝夫, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. ステロイド投与(8年)患者に発症した腹壁筋断裂による腹壁ヘルニアの1例, 日本臨床外科学会雑誌 2015年; 76巻3号: 626-630.
- 5) 藤井宏典, 飯原大稔, 石原正志, 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘, 伊藤善規. 転移大腸癌患者における抗EGFR モノクローナル抗体による低マグネシウム血症および痤瘡様皮疹の発現状況と治療効果との関連, 癌と化学療法, 2016年; 43巻(2): 229-233.
- 6) 高橋孝夫, 松橋延壽, 飯原大稔, 伊藤善規, 吉田和弘. 特集 外科医がしておきたい癌化学療法と副作用対策 有害事象のグレード評価; CTCAE, 消化器外科, 2016年; 39巻(3): 285-294.
- 7) 松橋延壽, 吉田和弘. 特集 4 GISTの化学療法, 消化器外科 NURSING, 2016年; 21巻(8): 701-708.
- 8) 今井寿, 吉田和弘, 長田真二, 松井聡, 田中善宏, 松橋延壽, 高橋孝夫, 山口和也. 胆嚢炎症例におけるラパコレー早期LCと待機的LC, 臨床外科, 2016年; 71巻(13): 1530-1536.
- 9) 杉山太郎, 松橋延壽, 高橋孝夫, 山口和也, 吉田和弘. 単孔式腹腔鏡手術で行った Meckel 憩室出血の2例, 日本外科系連合学会誌, 2016年; 41巻(4): 629-634.
- 10) 田中秀治, 松橋延壽, 高橋孝夫, 松井聡, 佐々木義之, 田中善宏, 奥村直樹, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. 直腸神経鞘腫に対して腹腔鏡下低位前方切除術を施行した1例, 日本外科系連合学会誌, 2016年; 41巻(4): 658-663.
- 11) 篠田智仁, 松橋延壽, 高橋孝夫, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. 孤立性脳転移で発症した盲腸癌の1例, 日本臨床外科学会雑誌, 2016年; 77巻(8): 1994-1999.
- 12) 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘. 誌上ディベート一切除可能大腸癌肝転移の治療方針 - 術前化学療法の立場から消化器外科 2017年; 40巻(6): 953-972.
- 13) 浅井竜一, 松橋延壽, 高橋孝夫, 田中善宏, 山口和也, 吉田和弘. クロウン病に合併した前立腺浸潤を伴う痔瘻癌の1例, 手術 2017年; 71巻(7): 1115-1119.
- 14) 松橋延壽, 塚田敬義, 谷口泰弘, 吉田和弘. 今さら聞けない研究倫理指針のポイント, 臨床外科 2017年; 72巻(12): 1358-1363.

- 15) 平田伸也, 松橋延壽, 高橋孝夫, 今井寿, 田中善宏, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. 薬剤性皮膚炎と鑑別困難であった大腸癌皮膚転移の1例, 日本消化器外科学会雑誌 2017年; 50巻(9): 762-767.
- 16) 田尻下敏弘, 松橋延壽, 高橋孝夫, 吉田和弘. 潰瘍性大腸炎に対し結腸全摘術後9年目に肛門管扁平上皮癌を発症し予後不良であった1例; 癌と化学療法 2017年; 44巻(12): 1629-1631.
- 17) 松橋延壽, 吉田和弘. がん転移学(下)—がん転移のメカニズムと治療戦略: その基礎と臨床—V. 再発転移抑制のための周術期治療 5. 胃癌, 日本臨牀 2017年; 75巻(増刊9号): 32-40.

原著 (欧文)

- 1) Matsuhashi N, Takahashi T, Ichikawa K, Tanahashi T, Yawata K, Imai H, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Evaluation of the Clinical Factors Included with Anal Function After Laparoscopic Intersphincteric Resection for Lower Rectal Cancer. *Surg Endosc.* 2015;29:S168. CS 3.10
- 2) Matsuhashi N, Takahashi T, Ichikawa K, Yawata K, Tanahashi T, Imai H, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. A Single Case of Single-Port Access Laparoscopic Appendectomy During the Puerperium. *International Surgery* 2015. 2015;100:101-104. CS 0.70
- 3) Matsuhashi N, Takahashi T, Ichikawa K, Tanahashi T, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Transvaginal resection of a rectal leiomyoma: A case report. *Oncology Letters.* 2015;10:3785-3788. CS 1.68
- 4) Taniguchi K, Sugito N, Kumazaki M, Shinohara H, Yamada N, Matsuhashi N, Futamura M, Ito Y, Otsuki Y, Yoshida K, Uchiyama K, Akao Y. Positive feedback of DDX6/c-Myc/PTB1 regulated by miR-124 contributes to maintenance of the Warburg effect in colon cancer cells. *Biochimica et Biophysica Acta.* 2015;1852:1971-1980.
- 5) Osada S, Matsui S, Sasaki Y, Imai H, Tanaka Y, Matsuhashi N, Okumura N, Yoshida K. Novel Strategy for Colorectal Liver Metastases -Estimated by the Concept for Hepatocyte Growth Factor. *Archives in Cancer Research.* 2015;3(4):37.
- 6) Sasaki Y, Osada S, Matsui S, Imai H, Tanahashi T, Tanaka Y, Matsuhashi N, Okumura N, Yamaguchi K, Yoshida K. Preoperative Chemotherapy Can Change the Surgical Procedure for Hepatectomy in Patients with Liver Metastasis of Colorectal Cancer. *Anticancer Research.* 2015;35:5485-5490. CS 1.93
- 7) Yamada A, Osada S, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Matsuhashi N, Takahashi T, Yamaguchi K, Yoshida K. Novel therapy for locally advanced triple-negative breast cancer. *International Journal of Oncology.* 47:1266-1272. CS 3.30
- 8) Yamada M, Iihara H, Fujii H, Ishihara M, Matsuhashi N, Takahashi T, Yoshida K, Itoh Y. Prophylactic Effect of Oral Minocycline in Combination with Topical Steroid and Skin Care against Panitumumab-induced Acneiform Rash in Metastatic Colorectal Cancer Patients. *Anticancer Research.* 2015;35:6175-6182. CS 1.93
- 9) Iihara H, Fujii H, Yoshimi C, Yamada M, Suzuki A, Matsuhashi N, Takahashi T, Yoshida K, Itoh Y. Control of chemotherapy-induced nausea in patients receiving outpatient cancer chemotherapy. *Int. J Clin Oncol.* 2016;21:409-418. CS 1.83
- 10) Fujii H, Iihara H, Suzuki A, Kobayashi R, Matsuhashi N, Takahashi T, Yoshida K, Itoh Y. Hypomagnesemia is a reliable predictor for efficacy of anti-EGFR monoclonal antibody used in combination with first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer. *Cancer Chemother Pharmacol.* 2016;77(6):1209-1215. CS 2.97
- 11) Osada S, Tanaka K, Matsui S, Sasaki Y, Tomita H, Tanaka Y, Okumura N, Matsuhashi N, Yoshida K. The Significance of Histopathological Evaluation of Pancreatic Fibrosis to Estimate Pancreas Cancer Progression. *Journal of the Pancreas.* 2016;17(1): 241-247. CS
- 12) Yamaguchi K, Yoshida K, Tanaka Y, Matsuhashi N, Tanahashi T, Takahashi T. Conversion therapy for stage IV gastric cancer -the present and future. *Translational Gastroenterology and Hepatology.* 2016;1:50. CS
- 13) Matsuhashi N, Takahashi T, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. The efficacy of "Abound TM," a nutritional supplement containing L-glutamine, L-arginine, citric acid, and calcium HMB, for skin disorders that developed as adverse drug reactions to anti-EGFR antibody preparation administration: pilot study. *Int J Colorectal Dis.* 2016;31:1055-1057. CS 2.00
- 14) Matsuhashi N, Takahashi T, Kato J, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Imai H, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Futamura M, Osada S, Yoshida K. Computed tomography evaluation of morphological changes, clinical response and survival in colorectal cancer liver metastasis treated by regorafenib: A case report. *Molecular and Clinical Oncology.* 2016;5:807-810. CS
- 15) Watanabe Y, Kurashima Y, Madani A, Feldman LS, Ishida M, Oshita A, Naitoh T, Noma K, Yasumasa K, Nagata H, Nakamura F, Ono K, Suzuki Y, Matsuhashi N, Shichinohe T, Hirano S. Surgeons have knowledge gaps in the safe use of energy devices: a multicenter cross-sectional study. *Surg Endosc.* 2016;30:588-592. CS 3.10
- 16) Tanaka Y, Yoshida K, Tanahashi T, Okumura N, Matsuhashi N, Yamaguchi K. Phase II trial of neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, nedaplatin, and S1 for advanced esophageal squamous cell

- carcinoma. *Cancer Science*. 2016;107(6):764-772. CS 3.82
- 17) Tanaka Y, Yoshida K, Atsuko Yamada, Tanahashi T, Okumura N, Matsuhashi N, Yamaguchi K, Tatsuhiko Miyazaki. Phase II trial of biweekly docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy for advanced esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology*. 2016;77(6):1143-1152. CS 2.97
- 18) Yawata K, Osada S, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Matsuhashi N, Takahashi T, Yamaguchi K, Yoshida K. The Significant Role of Cyclin D1 in the Synergistic Growth-inhibitory Effect of Combined Therapy of Vandetanib with 5-Fluorouracil for Gastric Cancer. *Anticancer Research*. 2016;36:5215-5226. CS 1.93
- 19) Kato J, Futamura M, Kanematsu M, Gaowa S, Mori R, Tanahashi T, Matsuhashi N, Yoshida K. Combination therapy with zoledronic acid and cetuximab effectively suppresses growth of colorectal cancer cells regardless of KRAS status. *Int. J. Cancer*. 2016;138:1516-1527. CS 4.94
- 20) Sugiyama T, Taniguchi K, Matsuhashi N, Tajirika T, Futamura M, Takai T, Akao Y, Yoshida K. MiR-133b inhibits growth of human gastric cancer cells by silencing PKM-splicer PTBP1. *Cancer Science*. 2016;107(12):1767-1775. CS 3.82
- 21) Matsuhashi N, Yamaguchi K, Okumura N, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Takahashi T, Osada S, Yoshida K. The technical outcomes of delta-shaped anastomosis in laparoscopic distal gastrectomy: a single-center safety and feasibility study. *Surgical Endoscopy*. 2017;31(3):1257-1263. CS 3.09
- 22) Matsuhashi N, Takahashi T, Tomita H, Araki H, Ibuka T, Tanaka K, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Evaluation of treatment for rectal neuroendocrine tumors sized under 20 mm in comparison with the WHO 2010 guidelines. *Molecular and Clinical Oncology*. 2017;7:476-480.
- 23) Matsuhashi N, Takahashi T, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Safety and feasibility of laparoscopic intersphincteric resection for a lower rectal tumor. *Oncology Letters*. 2017;14(4):4142-4150. CS 1.60
- 24) Mori R, Futamura M, Tanahashi T, Tanaka Y, Matsuhashi N, Yamaguchi K, Yoshida K. 5FU resistance caused by reduced fluoro-deoxyuridine monophosphate and its reversal using deoxyuridine. *Oncology Letters*. 2017;14(3):3162-3168. CS 1.60
- 25) Matsuhashi N, Takahashi T, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Yoshida K. Laparoscopic Technique and Safety Experience with Barbed Suture Closure in Permanent Stomathrough the Abdominal Wall Route. *Clinics in Oncology*. 2017;2:1350
- 26) Matsuhashi N, Takahashi T, Matsui S, Tanaka H, Tanahashi T, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Kobayashi K, Suzui N, Miyazaki T, Yoshida K. Malignant Peritoneal Mesothelioma with Production of G-CSF: Case Report and Review of the Literature. *Annals of Pharmacology and Pharmaceutics*. 2017;2(25):1131.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

松橋延壽：

- 1) 日本外科系連合学会評議員(平成 25 年 6 月～現在)
- 2) 日本臨床外科学会評議員(平成 26 年 1 月～現在)
- 3) 日本消化器癌発生学会評議員(平成 25 年 9 月～現在)
- 4) 日本内視鏡外科学会評議員(平成 26 年 10 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

松橋延壽 :

- 1) 第 77 回日本臨床外科学会総会(平成 27 年 11 月, 福岡, パネルディスカッション 29「当科における更なる治療成績の向上を目指した閉塞性大腸癌の治療戦略.」パネリスト)
- 2) 第 25 回日本癌病態治療研究会(平成 28 年 6 月, 千葉, シンポジウム 1-2「大腸癌 Precision Medicine にむけた新たな治療戦略」発表)
- 3) 第 54 回日本癌治療学会学術集会(平成 28 年 10 月, 横浜, ワークショップ 49「抗 EGFR 抗体薬を中心とした大腸癌個別化医療にむけた治療戦略.」発表)
- 4) 第 55 回日本癌治療学会学術集会(平成 29 年 10 月, 横浜, ワークショップ 15「FOLFOX 療法に起因する末梢神経症状に対するプレガバリンの有効性および安全性の検討.」発表)
- 5) 第 14 回日本消化管学会総会学術集会(平成 30 年 2 月, 東京, ビデオフォーラム「安全な切離・吻合を意識した腹腔鏡下直腸間膜全切除術(TME/TSME)の手術手技(IO-DST を中心に).」発表)

浅野好美 :

- 1) 第 30 回日本バイオセラピー学会学術集会総会(平成 29 年 11 月, 岐阜, ワークショップ「抗ソマトスタチン関連細胞表面分子に対する近赤外線、光免疫療法のための基礎的研究.」発表)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

手術療法および薬物療法など欧文邦文含めて誌上発表できている。腫瘍外科領域（特に大腸癌領域において）全国トップレベルの治療成績になったと自負する。

現状の問題点及びその対応策

薬物療法・分子標的療法のトランスレーショナルリサーチにおいて誌上報告が少なかった。

今後の展望

今後連合創薬、病理学教室など基礎とのコラボを行うことにより、トランスレーショナルリサーチを進める。

(9) 寄附講座「地域腫瘍学分野」

1. 研究の概要

本学を中心とした岐阜地域の悪性疾患，特に血液内科，消化器内科領域を中心に，診断と治療の質的向上を通して地域に貢献する。また健康診断患者の血清を用いたデータベースから，発がんをテーマとした研究を行い，論文発表や講習会を通して地域に発信し，がん予防に対する意識向上を目指す。医学部生教育の中で将来の地域医療を担いながら悪性疾患の診療にも精通した人材育成を行う。

2. 名簿

特任准教授：高井 光治 Koji Takai
特任助教： 中村 信彦 Nobuhiko Nakamura

3. 研究成果の発表

消化器病態学参照

4. 研究費獲得状況

消化器病態学参照

5. 発明・特許出願状況

消化器病態学参照

6. 学会活動

消化器病態学参照

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

消化器病態学参照

8. 学術賞等の受賞状況

消化器病態学参照

9. 社会活動

消化器病態学参照

10. 報告書

消化器病態学参照

11. 報道

消化器病態学参照

12. 自己評価

評価

データベースをもとに糖尿病患者における大腸腫瘍に対するリスク因子を検討した。このような研究成果は非常に高く評価され，現在もさらなる研究課題に取り組んでいる。

現状の問題点及びその対応策

カバーされている地域や医療圏が限定的であるのが問題である。多くの地域を網羅したデータベースを作るために，複数の地域，施設へ協力医師を派遣することが必要で，人員を確保することが急務である。

今後の展望

研究結果を発信することで，悪性疾患の早期発見，早期治療による岐阜地域の医療の向上と発展を目指す。

(10) 寄附講座「地域医療運動器医学講座」

1. 研究の概要

- ・ヒト椎間板組織におけるタンパク質分解酵素の制御
- ・脊椎疾患を有するヒトの歩行動作解析
- ・脊椎手術における至適な手術手技の確立

2. 名簿

准教授： 伏見 一成 Kazunari Fushimi
助教： 田中 領 Ryo Tanaka

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 伏見 一成, 秋山 治彦. 【骨折(四肢・脊椎脊髄外傷)の診断と治療(その1)】 脊椎・高度な骨粗鬆症を伴う例 高度な骨粗鬆症を伴う椎体骨折の外科的治療. 別冊整形外科 70号 Page226-229 (2016.10).

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 伏見 一成, 下川 哲哉, 宮本 敬, 近藤 祐一, 岩井 智守男, 浅野 博美, 野澤 聡, 秋山 治彦. 高齢者の脆弱性椎体骨折に対する Claw Hook を用いた固定術 (原著論文). Journal of Spine Research. 2017年; 8巻4号: 975-978.
- 2) 伏見 一成, 日置 暁, 宮本 敬, 岩井 智守男, 清水 克時, 秋山 治彦. 脊椎術後感染の治療 難治例に対する治療と成績 (原著論文)中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2016年; 59巻4号: 667-668.
- 3) 西村 康平, 下川 哲哉, 岩井 智守男, 伏見 一成, 秋山 治彦. 頸椎前方固定術5年後に食道穿孔を認めた1例(原著論文/症例報告)中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 2016年; 59巻3号: 483-484.
- 4) 伏見 一成, 近藤 祐一, 宮川 貴樹, 川島 健志, 浅野 博美, 金森 茂雄, 仲村 智, 高澤 真, 岩田 淳. 神経根症を伴う腰椎骨粗鬆症性椎体骨折に対する TLIF の経験(原著論文)Journal of Spine Research. 2016年; 7巻4号: 865-868.
- 5) 宮川 貴樹, 伏見 一成, 増田 剛宏, 宮本 敬, 下川 哲哉, 日置 暁, 清水 克時, 秋山 治彦. 胸腰椎部感染性脊椎炎前方支柱欠損に対する有茎肋骨移植術の治療成績(原著論文)Journal of Spine Research. 2016年; 7巻4号: 849-851.
- 6) 下川 哲哉, 伏見 一成, 服部 良, 青木 隆明. 【運動器のバイオメカニクス】 脊椎矢状面アライメント不良における3次元動作解析を用いた歩行動作解析の検討運動器リハビリテーション. 2017年; 28巻3号: 252-256.

原著 (欧文)

- 1) Iwata T, Miyamoto K, Hioki A, Fushimi K, Ohno T, Shimizu K. Morphological Changes in Contralateral Lumbar Foramen in Unilateral Cantilever Transforaminal Lumbar Interbody Fusion Using Kidney-type Intervertebral Spacers. J Spinal Disord Tech. 2015;28(5):E270-6. CS 1.84
- 2) Yamauchi K, Fushimi K, Miyamoto K, Hioki A, Shimizu K, Akiyama H. Sagittal Alignment of a Strut Graft Affects Graft Subsidence and Clinical Outcomes of Anterior Cervical Corpectomy and Fusion. Asian Spine J. 2017;11(5):739-747. CS 0.99

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 脊髄損傷に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いたランダム試験 (2016～), 日本医師会研究資金

5. 特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

伏見一成：

- 1) 日本脊椎脊髄病学会(JSSR) 評議員
- 2) 東海脊椎脊髄病研究会 常任幹事
- 3) 岐阜県整形外科集談会 幹事

2) 学会開催

伏見一成：

- 1) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 27 年 6 月, 岐阜)
- 2) 第 1 回 Gifu Spine Seminar(平成 27 年 7 月, 岐阜)
- 3) 第 2 回 Gifu Spine Seminar(平成 28 年, 岐阜)
- 4) 第 3 回 Gifu Spine Seminar(平成 29 年, 岐阜)
- 5) 第 1 回ぎふ脊椎脊髄病研究会(平成 28 年, 3 月, 岐阜)
- 6) 第 2 回ぎふ脊椎脊髄病研究会(平成 29 年, 3 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

伏見一成：

- 1) 第 33 回中濃整形外科研修会(平成 27 年 3 月, 岐阜, 特別講演「病態に合わせた脊椎手術の選択 最近の話題と問題点」演者)
- 2) 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 27 年 6 月, 岐阜, 特別講演「PED(経皮的内視鏡視下除圧術)の可能性-腰椎から、頰椎、胸椎まで-」座長)
- 3) 揖斐医師会学術講演会(平成 27 年 7 月, 岐阜, 「腰痛と下肢の痛み 診療の Update」演者)
- 4) 第 1 回岐阜中央病院健康セミナー(平成 27 年 8 月, 岐阜, 「腰痛と下肢のしびれ 最近の治療の進歩」演者)
- 5) 第 1 回岐阜中央病院健康セミナー(平成 27 年 8 月, 岐阜, 「腰痛と下肢のしびれ-最近の治療の進歩-」演者)
- 6) 第 5 回中部 MIST 会一般演題 A(平成 28 年, 3 月, 愛知, 一般演題 A 座長)
- 7) 第 126 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会講演 7 腰椎(平成 28 年, 4 月, 静岡, 講演 7 腰椎座長)
- 8) 第 76 回岐阜臨床神経集談会(平成 28 年, 12 月, 岐阜, 一般講演 座長)
- 9) 第 86 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会(平成 28 年, 12 月, 愛知, 一般講演 座長)

田中 領：

- 1) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 9 月, 岐阜, 「関節リウマチ～健やかな毎を送るための治療～」演者)
- 2) 関節リウマチ市民講座(平成 27 年 11 月, 岐阜, 「関節リウマチの合併症～安全な生活と治療を続けていくために～」演者)
- 3) 第 20 回東海足と靴の研究会(平成 28 年, 10 月, 北海道, 一般演題 座長)
- 4) 西濃関節リウマチ懇話会(平成 29 年 1 月, 岐阜, 「当院における乾癬性関節炎の現状」演者)
- 5) 岐阜脊椎関節炎研究会(平成 29 年 1 月, 岐阜, 「当院における強直性脊椎炎の現状」演者)
- 6) Biologics Forum on RA ~GO-FUTURE~(平成 29 年 3 月, 岐阜, 「当科におけるゴリムマブのポジショニング」演者)
- 7) 国保関ヶ原病院健康講演会(平成 29 年 3 月, 岐阜, 「関節リウマチの話」演者)
- 8) 村上リウマチ運動器疾患懇話会(平成 29 年 3 月, 「当科におけるセルトリズマブ・ペゴルのポジショニング」演者)
- 9) 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会(平成 29 年 4 月, 福岡, 「Methotrexate 導入時年齢による

Methotrexate 用量と治療経過の比較」演者)

- 10) Young Rheumatologist Academy in Tokai(平成 29 年 7 月, 愛知, 座長)
- 11) リウマチ WEB セミナー(平成 29 年 9 月, 岐阜, 「関節リウマチ診療の診断から生物学的製剤使用まで ~2016 EULAR recommendations をふまえて~」演者)
- 12) RA Research & Clinical Conference(平成 29 年 9 月, 愛知, 座長)
- 13) 第 21 回東海足と靴の研究会(平成 29 年 10 月, 愛知, 「変形性足関節症に対して脛骨遠位斜め骨切り術を施行した症例」演者)
- 14) 岐阜関節リウマチ学術講演会(平成 29 年 10 月, 岐阜, 座長)
- 15) 抗サイトカイン療法を考える会(平成 29 年 12 月, 岐阜, 「強直性脊椎炎と乾癬性関節炎に対する生物学的製剤の実際」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

伏見一成:

- 1) 難病福祉相談会(H27 年, 美濃加茂市), 難病生きがいサポートセンター事業
- 2) 難病福祉相談会(H28 年, 各務原市), 難病生きがいサポートセンター事業
- 3) 難病福祉相談会(H29 年, 羽島市), 難病生きがいサポートセンター事業
- 4) 市民公開講座, 健康フェスティバル講演会(平成 27 年 3 月, 岐阜, 「最新の治療方法について」演者)
- 5) 市民公開講座 健康フォーラム 腰痛と神経痛の治療最前線(平成 27 年 10 月, 岐阜, 「最先端の治療の話」演者)
- 6) 市民公開講座 健康フォーラム 頸椎疾患(平成 28 年, 岐阜)
- 7) 市民公開講座 健康フォーラム 腰痛と腰まがりについて(平成 29 年, 岐阜)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

- ・臨床研究の学会発表, 講演を定期的に行い, 一定の目標達成は出来た
- ・短期的~中期的臨床成績のまとめ, 学会および論文報告の達成
- ・社会への貢献(難病支援活動, 脊椎に関する市民講座の開催)

現状の問題点及びその対応策

- ・基礎研究活動の不足
- ・長期臨床成績の解析の不足
- ・論文発表の目標未達成

今後の展望

- ・学術活動のさらなる充実
- ・基礎研究活動の活性化

(11) 寄附講座「関節再建外科学先端医療講座」

1. 研究の概要

変形性関節症の発症メカニズムの解明
変形性関節症の新規治療薬の開発
遊離脂肪酸と変形性関節症の関連性の解明

2. 名簿

准教授： 青木隆明 Takaaki Aoki
助教： 小川寛恭 Hiroyasu Ogawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）

- 1) 秋山治彦, 小川寛恭. ロコモティブシンドロームの基礎—運動器を構成する組織, 関節—: 日本医師会雑誌—ロコモティブシンドロームのすべて— 2015年; 144巻: 56—58.
- 2) 小川寛恭, 秋山治彦. 概論: 軟骨細胞, 関節: 骨ペディア 2015年; 4月号: 51—55.
- 3) 小川寛恭, 秋山治彦. 概論: 変形性関節症—軟骨破壊の分子機序—: リウマチ科—リウマチ性疾患の病因・病態に関する up-to-date— 2015年; 53巻: 287—291.
- 4) 青木隆明, 林 典雄, 松本正知. 骨折の機能解剖学的運動療法. 総論・上肢/体幹・下肢: 総合リハビリテーション 2015年; 12月号: 51—55.
- 5) 青木隆明. 障がい者のリハビリテーションとしてのスポーツを考える: 総合リハビリテーション 2015年; 12月号: 巻頭言.
- 6) 小川寛恭, 秋山治彦. Review: 分子・発生生物学を駆使した軟骨形成・再生の制御: CLINICAL CALCIUM 2015年; 25巻: 20—27.
- 7) 青木隆明, 曾賀野健一, 竹原正矩, 秋山治彦. バランス・歩容リハビリテーションシステムの開発: Medical rehabilitation, 2017年; No205: 53—57.
- 8) 青木隆明, 秋山治彦. 障がい者スポーツの心理: Clinical Rehabilitation vol.26: No.6: 2017年; 568—572.
- 9) 下川哲哉, 伏見一成, 服部 良, 青木隆明. 脊椎矢状面アライメント不良における 3 次元動作解析を用いた歩行動作解析の検討: J.Musculoskeletal Medicine, 2017年; 28(3); 252—256.
- 10) 曾田直樹, 植木 努, 藤橋雄一郎, 青木隆明. 脊柱後弯モデルを用いた歩行における 3 次元動作解析: J.Musculoskeletal Medicine, 2017年; 28(3); 269—275.
- 11) 松橋 彩, 坂下拳人, 竹中 裕, 吉井秀仁, 曾賀野健一, 棚橋英樹, 山田喜久, 橋本孝治, 秋山治彦, 青木隆明. 安価で簡便な身体同様解析技術「GF—スキャン」を用いた人工股関節置換術患者の歩行分析: J.Musculoskeletal Medicine, 2017年; 28(3); 257—263.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
なし

原著（欧文）

- 1) Ogawa H, Akiyama H. Analysis of Musculoskeletal Systems and Their Diseases.Regulation of chondrogenesis and cartilage regeneration by molecular and developmental biology. Clin Calcium. 2015;25:1116-1124. CS 0.26
- 2) Ogawa H, Matsumoto K, Ogawa T, Takeuchi K, Akiyama H. Effect of Wedge Insertion Angle on Posterior Tibial Slope in Medial Opening Wedge High Tibial Osteotomy. Orthop J Sports Med. 2016 Feb 25;4(2):2325967116630748 CS 0.26
- 3) Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H. Effect of Patellar Resurfacing on Patellofemoral Crepitus in Posterior-Stabilized Total Knee Arthroplasty. J Arthroplasty. 2016 Jan; 31(8):1792-1796. CS 0.23
- 4) Ogawa H, Matsumoto K, Ito Y, Kawashima K, Takigami I, Akiyama H. Indirect Popliteal Artery Transections in Revision Total Knee Arthroplasty A Case Report. Bull Hosp Jt Dis (2013). 2016;74(2):168-171. CS 0.15
- 5) Matsumoto K, Ishimaru D, Ogawa H, Akiyama H. Black Colouration of the Knee Articular Cartilage

- after Spontaneously Recurrent Haemarthrosis. Case Rep Orthop. 2016;2016:1238392.
- 6) Ogawa H, Matsumoto K, Terabayashi N, Kawashima K, Takeuchi K, Akiyama H. Association of lubricin concentration in synovial fluid and clinical status of osteoarthritic knee. Mod Rheumatol. 2016 Jul 20:1-4. CS 2.21
 - 7) Ogawa H, Matsumoto K, Ogawa T, Takeuchi K, Akiyama H. Preoperative varus laxity correlates with overcorrection in medial opening wedge high tibial osteotomy. Arch Orthop Trauma Surg. 2016 Jul 136(10):1337-1342. CS 2.03
 - 8) Asano H, Ohura H, Ito Y, Takigami I, Ogawa H, Katayama N, Matsumoto K, Akiyama H. Simple drilling technique for the removal of fractured femoral stem: A case report of Exeter stem fracture. J Orthop Sci. 2016 Aug 28. pii:S0949-2658(16)30134-8.
 - 9) Ogawa H, Matsumoto K, Akiyama H. The prevention of a lateral hinge fracture as a complication of a medial opening wedge high tibial osteotomy: a case control study. Bone Joint J. 2017 Jul;99-B(7):887-893. CS 2.59

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：小川寛恭；学術研究助成基金助成金研究活動スタート支援：運動負荷による細胞外 ATP を介した変形性関節症発症メカニズムの解明；平成 26-27 年度；1,560 千円(直接経費：1,200 千円, 間接経費：360 千円)
- 2) 研究代表者：小川寛恭；科学研究費若手(A)；平成 28 年-31 年度；17,420 千円
- 3) 研究代表者：小川寛恭；平成 28 年度 研究科長・医学部長裁量経費による研究費の重点的配分；500 千円
- 4) 研究代表者：小川寛恭；平成 28 年度 JOSKAS 研究助成 1,000 千円
- 5) 研究代表者：青木隆明；平成 29 年度 岐阜県共同研究 1520640 円
- 6) 研究代表者；青木隆明；平成 29 年度戦略的情報通信研究開発推進事業 910000 円
- 7) 研究代表者：小川寛恭；平成 29 年度 研究科長・医学部長裁量経費による研究費 500 千円

2) 受託研究

- 1) 小川寛恭；平成 26 年度整形災害外科学研究助成財団研究助成；平成 26 年度；1,000 千円

3) 共同研究

なし

5. 特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

青木隆明：

- 1) 日本リハビリテーション医学会代議員国際委員会委員長(～現在)
- 2) 日本運動器科学学会評議員編集委員(～現在)
- 3) 中部整形外科災害外科学会評議員(～現在)
- 4) 日本義肢装具学会評議員(～現在)
- 5) 整形外科リハビリテーション学会顧問(～現在)
- 6) 日本リハビリテーションネットワーク研究会理事(～現在)
- 7) 日本リハビリテーション医学会東海中部地方会幹事(～現在)
- 8) アジアパラリンピック医学委員(～現在)

小川寛恭：

- 1) 日本 Knee Osteotomy フォーラム 世話人(～現在)
- 2) クラブ・ニー 世話人(～現在)

2) 学会開催

青木隆明：

- 1) 第3回岐阜がんのリハビリテーション研修会(平成27年6月, 岐阜)
- 2) 人工関節フォーラム(平成29年3月, 岐阜)
- 3) 第4回岐阜がんのリハビリテーション研修会(平成29年7月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

青木隆明:

- 1) 障害者スポーツ指導員講習会(平成27年3月, 岐阜, 「障害者スポーツ」 演者)
- 2) 岐阜骨粗鬆症市民公開講座～丈夫な骨で元気な毎日骨密度を測ろう～(平成27年4月, 岐阜, 「骨と筋肉のための運動とリハビリ」 演者)
- 3) 障害者スポーツ中級指導員講義(平成27年11月, 静岡, 「障害者スポーツ医学」 演者)
- 4) 第24回上飯田リハビリテーションセミナー(平成27年11月, 愛知, 「障害者スポーツにおけるリハビリテーション」 演者)
- 5) 一般口演 小児(平成28年, 6月, 京都, 第53回日本リハビリテーション医学会 座長)
- 6) プレゼンテーション&ワークショップ「スポーツ現場における救急」橋本孝治(平成28年, 9月, 岐阜, 第3回岐阜スポーツ整形外科研究会 座長)
- 7) 一般演題セッション 歩行分析(平成28年, 10月, 北海道, 第32回日本義肢装具学会 座長)
- 8) 愛知県医師会健康スポーツ研修会(平成29年1月, 愛知, 「障がい者スポーツのあり方と帯同」 演者)
- 9) 整形外科リハビリテーション学会(平成29年1月, 愛知, 「骨折の観血的整復固定術」 演者)
- 10) 第100回 岐阜整形外科集談会(平成29年2月, 岐阜, 一般口演 座長)
- 11) 障がい者スポーツ指導員研修会(平成29年2月, 岐阜, 「障がい者スポーツ医学」 演者)
- 12) 専門訴訟事件等特殊事件研究会(平成29年2月, 岐阜, 「軽傷交通事故における被害者の治療 リハビリテーションの実状」 演者)
- 13) 西日本スポーツドクター・トレーナー研修会(平成29年3月, 大阪, 特別講演「パラリンピック水泳チームの関わり ドクターの立場から」 演者)
- 14) The 27th Japanese Korean Combined Orthopaedic Symposium(平成29年5月, Holiday Inn Songdo, Incheon, Korea, 演者)
- 15) 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会(平成29年6月, 岡山, 「セッション 脊髄損傷」 座長)
- 16) 第54回日本リハビリテーション医学会学術集会(平成29年6月, 岡山, 「再利用を配慮した軽量長下肢装具の開発」 演者)
- 17) 障がい者スポーツ中級講義(平成29年9月, 滋賀, 「障がいとスポーツ概論」 演者)
- 18) 東本願寺浄土真宗健康女人講健康フォーラム(平成29年9月, 西法寺, 「腰痛と物理療法」 演者)
- 19) 第17回日本リハビリテーションネットワーク学会(平成29年12月, 東京, 一般演題 座長)
- 20) 障がい者スポーツ初級講義(平成29年12月, 岐阜, 「障がいとスポーツ医学」 演者)

小川寛恭:

- 1) 第1回岐阜スポーツ整形外科研究会(平成27年度1月, 岐阜, 「半月板治療の最近の動向」 演者)
- 2) 平成27年岐阜県医師会健康スポーツ医学研修会(平成27年1月, 岐阜, 「スポーツ障害とスポーツ外傷をどう診るか」 演者)
- 3) 第17回岐阜整形外科卒後夏期セミナー(平成27年7月, 岐阜, 「膝関節鏡手術の必須手技」 演者)
- 4) 科研製薬 勉強会(平成27年7月, 岐阜, 「変形性膝関節症に対する治療戦略」 演者)
- 5) 第33回日本骨代謝学会学術集会 シンポジウム(平成27年7月, 東京, 「運動刺激による細胞外ATP及びPGE2を介した軟骨代謝制御メカニズム」 演者)
- 6) 第2回岐阜スポーツ整形外科研究会(平成27年9月, 岐阜, 「膝関節鏡手術の実践～半月板切除術の適応について～」 演者)
- 7) 第2回岐阜スポーツ整形外科研究会(平成27年9月, 岐阜, 特別講演「スポーツにおける膝靭帯・半月損傷の治療」 座長)
- 8) 第30回日本整形外科学会基礎学術集会(平成27年10月, 富山, パネルディスカッション「Prg4/lubricineによる新たな変形性関節症治療法の可能性」 演者)
- 9) 第100回岐阜県整形外科集談会(平成29年2月, 岐阜, 「2ルート2重束を使用した前十字靭帯再建

術の治療成績」演者)

- 10) 第66回 東海関節外科研究会(平成29年4月, 愛知, 「Medial opening wedge high tibial osteotomyで脛骨後方傾斜を増加させない為の工夫」演者)
- 11) 第66回 東海関節外科研究会(平成29年4月, 愛知, 「MOW-HTOにおけるヒンジ骨折は不十分な骨切り、骨切り先端部高位、ヒンジ線と骨切り部開大方向のなす角度に関連する」演者)
- 12) 第90回日本整形外科学会学術総会(平成29年5月, 宮城, 「Medial opening wedge high tibial osteotomyで脛骨後方傾斜を増加させない為の工夫」演者)
- 13) 第90回日本整形外科学会学術総会(平成29年5月, 宮城, 「Medial opening high tibial osteotomyにおけるウェッジスペーサーの挿入方向と脛骨後方傾斜の関連性について」演者)
- 14) 第9回JOSKAS(平成29年6月, 北海道, 「Medial opening wedge high tibial osteotomyで脛骨後方傾斜を増加させない為の工夫」演者)
- 15) 第9回JOSKAS(平成29年6月, 北海道, 「MOW-HTOにおけるヒンジ骨折は不十分な骨切り、骨切り先端部高位、ヒンジ線と骨切り部開大方向のなす角度に関連する」演者)
- 16) 第9回JOSKAS(平成29年6月, 北海道, 「未来志向の膝周囲骨切り術 MOW-HTO 術後に目標アライメントを得る方法」演者)
- 17) 第6回日本 Knee Osteotomy フォーラム(平成29年9月, 石川, 「OWHTO後の膝蓋大腿関節軟骨変性の進行は術前重度内反変形と lateral distal femoral angle に関連する」演者)
- 18) 第129回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会(平成29年10月, 富山, 「早期荷重・可動域訓練リハビリを施行した鏡視下半月板縫合術の治療成績」演者)
- 19) 第45回 日本関節病学会(平成29年11月, 東京, 「変形性関節症に対する新規治療標的の探索」演者)
- 20) 第158回 仙台膝の会(平成29年11月, 宮城, 「膝関節外科医における Around Knee Osteotomy ～適切な術式選択と手術手技の標準化を目指して～」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 小川寛恭：平成26年日本整形外科学会奨励賞(平成27年度)
- 2) 小川寛恭：平成29年 岐阜医学奨励賞(平成29年度)
「運動刺激は関節軟骨で CREB シグナル経路を介して Prg4 の発現を促進する」
- 3) 小川寛恭：第6回日本 Knee Osteotomy フォーラム ベストポスター賞(平成29年度)
「OWHTO後の膝蓋大腿関節軟骨変性の進行は術前重度内反変形と lateral distal femoral angle に関連する」

9. 社会活動

青木隆明：

- 1) 岐阜県パラリンピック指定選手選考委員会委員長(平成27年度)
- 2) 日本障がい者水泳連盟顧問医師(平成27年度)
- 3) 障がい者水泳記録会 会場医(平成29年度)
- 4) アメリカフラッグスタッフ高地トレーニング 帯同 (平成29年度)
- 5) スペイングラナダ高地トレーニング 帯同 (平成29年度)
- 6) 世界選手権パラ水泳メキシコ 帯同 (平成29年度)
- 7) CPサッカー全国選手権 会場医 (平成29年度)
- 8) ジャパンパラリンピック水泳 会場医 (平成29年度)
- 9) 社会人ホッケー ドーピング検査 (平成29年度)
- 10) ワールドグランドチャンピオンズカップ2017 ドーピング検査 (平成29年度)
- 11) アジアユースパラリンピック ドバイ アジアパラリンピック医学委員(平成29年度)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

Wii の運動解析装置の開発において製品化を進めている。
軽量長下肢装具の開発を行い、新聞 5 社に掲載された。

臨床業務、研究、学生・若手医師の教育を行っている。臨床業務では外来件数、手術件数ともに年々増加している。臨床研究を積極的に行い、学会や論文で発表している。基礎研究では大学院生を指導しながら自らも研究を着実に進めている。外部からの競争的資金の獲得も出来ている。ポリクリ学生、選択実習学生、新入局若手医師の医学教育も行っている。

現状の問題点及びその対応策

Wii の分析ソフトの開発において岐阜県情報技術研究所と共同で簡便化を進めている。

スタッフが少なく多忙な日々を過ごしているため、肉体的にも精神的にかなり負担が大きい。スタッフの増加なしにさらなる向上は困難を極める。

今後の展望

Wii の動作解析装置の商品化をすすめる。

内反緊張麻痺足の装具開発。

がんのリハビリテーションにおける免疫力の向上に対するヒートショックプロテイン 70 の研究

現状維持する事が重要であると考えられる。臨床・基礎研究ともに内容的には重要かつ評価される仕事を行えている。今後、整形外科新入局員の増加、大学スタッフの増加があれば、さらなる飛躍が期待できる。

(12) 寄附講座「障がい児者医療学講座（岐阜県）」

1. 研究の概要

当講座は平成26年4月に小児病態学を協力講座とし、岐阜県の寄附講座として開設された。当講座は重症心身障がい、発達障がいを対象として1. 障がい児者医療に関する人材育成、2. 障がい児者医療に関するあり方の検討、3. 障がい児者医療の普及・啓発を主な目的として研究活動を行っている。平成26年度から平成28年度の3年間の予定（第1期）で開設されたが、平成29年度から平成32年度（第2期）まで延長された。障がい児者医療に関する人材育成として関係諸機関と連携し、医学部学生に対する障がい児者医療の教育プログラムを作成し、実践した。

また岐阜県小児在宅医療実技講習会を開催（これまで年1回で3回実施）し、小児科医を対象として小児在宅医療に関する研修を行っている。

2. 名簿

准教授： 西村悟子 Satoko Nishimura
助教： 山本崇裕 Takahiro Yamamoto

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）

- 1) 山本崇裕, 西村悟子. 障がい児者を支える医療. 障害支援研究 2017年; 20巻: 6-15.

総説（和文）

なし

原著（和文）

- 1) 松隈英治, 上野裕太郎, 湯澤壮太郎, 小嶋瑛美子, 松波邦洋, 桑原秀次, 松尾直樹, 今村淳, 松井永子, 西村悟子, 内木洋子. 腎代替療法として何も選択しなかったJoubert症候群の1女児例, 日本小児腎不全学会雑誌 2015年; 35巻: 232-235.
- 2) 山本崇裕, 西村悟子, 久保田一生, 深尾敏幸: 福祉の現場から 在宅重症心身障害児者における栄養法に関するコホート研究. 地域ケアリング. 2017年; 19巻: 57-60.
- 3) 大野静江, 田垣美樹子, 永田満依子, 西口真奈美, 早川妙子, 板倉寿明, 山本崇裕, 福富悌. 特別支援学校における医療的ケアの看護師のバックアップとしての訪問看護ステーションの役割についての検討, 障害支援研究 2017年; 20巻: 26-30.
- 4) 白木慎人, 福富悌, 板倉寿明, 永田満依子, 山本崇裕. 人工呼吸器が導入された生徒の医療的ケア指示書の内容と対応についての検討, 障害支援研究 2017年; 20巻: 31-35.
- 5) 吉兼彩乃, 福富悌, 山本崇裕. レスパイトケアの今後の姿についてのアンケート調査による検討, 障害支援研究 2017年; 20巻: 36-42.
- 6) 湊口碧, 宮園康嗣, 加藤智美, 山本崇裕, 福富悌. 親の養育態度と親が捉えた子どもの行動特性についての検討 障害児のきょうだいについて, 障害支援研究 2017年; 20巻: 50-59.
- 7) 熊谷千紗, 久保田一生, 川合裕規, 山本崇裕, 木村豪, 小関道夫, 川本美奈子, 川本典生, 磯貝光治, 深尾敏幸: 低血糖を主訴に紹介された乳児ボツリヌス症の1例. 小児科臨床. 2017年; in press.

原著（欧文）

- 1) Sasai H, Shimosawa N, Asano T, Kawamoto N, Yamamoto T, Kimura T, Kawamoto M, Matsui E, Fukao T: Successive MRI Findings of Reversible Cerebral White Matter Lesions in a Patient with Cystathionine beta-Synthase Deficiency. *Tohoku J Exp Med.* 2015;237:323-327. CS 1.39
- 2) Kubota K, Kinomura Y, Yamamoto T, Ozeki M, Kawamoto M, Kawamoto N, Fukao T: ACTH therapy for West syndrome with severe hemophilia A. *Epilepsy Behav Case Rep.* 2016;6:1-2. CS 0.78
- 3) Yamamoto T, Endo W, Ohnishi H, Kubota K, Kawamoto N, Inui T, Imamura A, Takanashi JI, Shiina M, Saito H, Ogata K, Matsumoto N, Haginoya K, Fukao T: The first report of Japanese patients with asparagine synthetase deficiency. *Brain Dev.* 2017;39:236-242. CS 1.58
- 4) Kubota K, Yamamoto T, Kawamoto M, Kawamoto N, Fukao T: Levetiracetam-induced rhabdomyolysis: A case report and literature review. *Neurology Asia.* 2017;22:275-278. CS 0.26
- 5) Kubota K, Yamamoto T, Orii K, Shinoda S, Fukao T: Acute dystonia associated with aripiprazole overdose in an adolescent boy. *Asian J Psychiatr.* 2017;29:183-184. CS 1.08

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：山本崇裕；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：在宅重症心身障害児者における栄養法に関するコホート研究；平成 28-30 年度；3,900 千円(1,430：1,430：1,040 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

なし

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

西村悟子：

- 1) 第 9 回東海地区小児神経セミナー(第 9 回)(平成 27 年 9 月，名古屋，講演「脂肪酸，有機酸，ケトン対代謝異常症と小児神経」座長)
- 2) 第 2 回東海三県小児在宅医療研究会(平成 28 年 2 月，桑名，シンポジウム「障がい児者の在宅生活を考える～東海三県の取り組み～」座長)
- 3) 第 3 回東海三県小児在宅医療研究会(平成 29 年 2 月，名古屋，「各県の取り組み」座長)
- 4) 全国重症心身障害児(者)を守る会 第 29 回北陸東海ブロック(平成 29 年 11 月，羽島「当寄附講座における重症心身障がい医療に関する医師の人材育成-3 年間の取り組み」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

西村悟子：

- 1) 岐阜県障害者施策推進協議会委員(平成 26 年 9 月～現在)
- 2) 岐阜県重症心身障がい児者支援連携会議構成員(平成 26 年 9 月～現在)
- 3) 日本小児連絡協議会重症心身障害児(者)・在宅医療委員会委員(平成 26 年 10 月～現在)
- 4) 岐阜県福祉サービス第三者評価推進審議会委員(平成 27 年～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 西村悟子：「若手小児科医が語る障がい児医療への思い」座談会：岐阜新聞(2014 年 7 月 12 日)
- 2) 西村悟子：発達障がいの親支援：県内の女性小児科医 研究会が初会合：岐阜新聞，岐阜医療 Web (2014 年 7 月 14 日)
- 3) 障害児医療の課題探る 岐阜市で従事者シンポ：岐阜新聞(2014 年 7 月 29 日)
- 4) 山本崇裕：岐阜大 4 年生が障害児者医療実習 介護やリハビリに熱視線：岐阜新聞(2014 年 12 月 6 日)

- 日)
- 5) 山本崇裕：来年9月開所「希望が丘こども医療福祉センター」座談会 障がい児支援にかける夢：岐阜新聞(2014年12月13日)
 - 6) 西村悟子：大学はいま 研究室から「支える医療」へ医師を育成：岐阜新聞(2017年9月12日)

12. 自己評価

<評価>

第1期は人材育成として障がい児者医療に関する学生教育のプログラムを次のように作成し、実践した。

1年生では早期体験実習に加え医学概論、3年生では重症心身障害の講義、4～5年生では小児科院外クリニカル・クラークシップで長良医療センターまたは希望が丘こども医療福祉センターの協力を得て院外実習を行い、6年生では選択実習として希望が丘こども医療福祉センターを登録依頼し枠を設けた。選択実習では昨年は2人、今年1人の学生が実習した。また選択実習では重症心身障がい放課後デイサービス施設の協力を得て実習を設けた。医師の研修については関係諸機関の協力のもと岐阜県小児在宅医療実技講習会の開催（これまで年1回で3回実施）を行った。現在第2期に入っているが、平成29年度は県の障がい児施設であり、岐阜大学小児科の関連施設である希望が丘こども医療福祉センターに於いて新専門医制度小児科後期研修にて障がい児医療が研修できることを目的に研修プログラム作成に取りかかった。

その他、学会発表や研究論文、講演会、学生教育に関する研究などを行い、また県の障がい児者支援を考える公開連続講座や東海三県小児在宅医療研究会の座長及び企画に参加し、当寄附講座の開設目的に沿って活動を行ってきた。

<現状の問題点及びその対応策>

当講座は准教授、助教のスタッフ2人である。県、関係諸医療機関、コメディカル、(教育、福祉)など多職種と連携して仕事を進めていくことが必要な講座であり、効率的に円滑に活動がすすめられるように心がけたい。

<今後の展望>

これまで寄附講座が行ってきた事業を寄附講座終了後もいかに次に残し、また展開していけるのかを検討する。

(13) 寄附講座「慢性腎臓病（CKD）医療連携講座（岐阜県）」

1. 研究の概要

当講座は循環病態学分野に随伴した寄附講座であり、岐阜県における CKD 発症を予防し、また、すでに CKD に罹患している患者の透析への移行を防止することを目指すものである。CKD に関する基礎研究、臨床研究及び実践的研究、並びに CKD についての教育と普及・啓発活動を行い、岐阜県における CKD 研究の中心的役割を果たすことを通じて、CKD に取り組む医療人材の育成（かかりつけ医、コメディカルの研修を含む）や CKD 医療水準の確保など、健診から医療、重症化予防へと継続した連携が提供できる体制を目指し、岐阜県の在宅医療の質的向上と医療連携推進に貢献することにある。特に、本県の腎臓専門医数は人口 100 万人あたり 20.8 人と全国平均の 32.7 人を下回る状況にある。質の高い CKD 診療のためには腎臓専門医とかかりつけ医との病診連携の確立が必須であると考えられる。このため、岐阜県 CKD 医療連携パスの有効性の検証、モニタリングなどを通じ、岐阜県 CKD 医療連携パスの普及と定着を推進し、岐阜県医師会をはじめとした関係機関との連携、病診・診療科の連携、健診から医療の連携、医薬連携等を通して、効率的で質の高い CKD 医療連携を推進する。

< 講座の研究等主な内容 >

(1) CKD 医療の連携の推進のための研究

県内医療機関における CKD 医療連携の実態や有効性の把握・検証をもとに、本県の保健及び医療における連携体制の確立に向けた研究と普及を行う。

①CKD 医療の連携体制の拡充

・関係機関等による連携会議（定例会議・全体会議、等）を開催し、岐阜県医師会にて昨年作成した医療連携パスの普及・定着と CKD 対策の総合的な方針を決定遂行する。

・地域に応じた医療連携の体制を進めるために、かかりつけ医、産業医向け、保健師、栄養士が参加したワーキング会議等で具体的な仕組みづくりを検討する。

・県医師会や関係医療機関と連携し、県内の病院、診療所において、CKD 医療連携パスの活用実態や有効性を把握、臨床検証する。

②CKD 等医療に従事するかかりつけ医、産業医向け、保健師、栄養士の育成、確保

・CKD が医療機関や診療科の違いなどにより見過ごされないよう、県内のかかりつけ医、保健師、栄養士らが広く CKD に関する必要な専門知識を習得し適切な医療連携を図るためのスキルアップ講座を開催する。

③県民に対する CKD の普及、啓発一次健診受診率及び二次健診受診率を上昇させる。

・市民公開講座等開催により県民に広く普及、啓発を行い、生活習慣を含めた CKD の認知・理解度の向上及び健診の受診を促進する。

④岐阜県内全健診（学校、特定、職域等）における CKD の普及及び研究

・各健診の現状の把握

・健診施行主体（市町村、産業医及び事業所（会社）等）における CKD 説明会

等施行しクレアチニン、尿蛋白、尿潜血を盛り込み CKD が見過ごされないようにする

2. 名簿

特任准教授：村田一知朗 Ichijiro Murata

特任助教：早川由佳 Yuka Hayakawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 松本 淳, 村田一知朗. 腎疾患患者に対する鍼灸治療および経穴刺激療法の効果に関するこれまでの報告について—維持透析患者を対象とした報告を中心に—: 31 巻, 大阪: 森ノ宮医療学園出版部; 2015 年: 87-93.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 松本 淳, 村田一知朗, 宮崎 渚, 西脇亜由子, 名和隆英, 牛越博昭, 湊口信也. 小児の過敏性腸症候群に対して鍼灸治療が有用であった 1 症例: 67 巻, 東京: 日本東洋医学会; 2016 年: 144-149.

原著 (欧文)

- 1) Yoshida G, Kawasaki M, Murata I, Hayakawa Y, Aoyama T, Miyazaki N, Yamada Y, Nishigaki K, Arai Y, Suzuki F, Minatoguchi S. Higher plasma prorenin concentration plays a role in the development of coronary artery disease. *Biomark Res.* 2015;3:18.
- 2) Hayakawa Y, Aoyama T, Yokoyama C, Okamoto C, Komaki H, Minatoguchi S, Iwasa M, Yamada Y, Kawamura I, Kawasaki M, Nishigaki K, Mikami A, Suzuki F, Minatoguchi S. High salt intake damages the heart through activation of cardiac (pro) renin receptors even at an early stage of hypertension. *PLoS One.* 2015;10:e0120453. CS 3.32
- 3) Matsumoto-Miyazaki J, Miyazaki N, Murata I, Yoshida G, Ushikoshi H, Ogura S, Minatoguchi S. Traditional Thermal Therapy with Indirect Moxibustion Decreases Renal Arterial Resistive Index in Patients with Chronic Kidney Disease. *J Altern Complement Med.* 2016;22:306-314. CS 1.55
- 4) Tanada Y, Okuda J, Kato T, Minamino-Muta E, Murata I, Soga T, Shioi T, Kimura T. The metabolic profile of a rat model of chronic kidney disease. *PeerJ.* 2017 May 23;5:e3352 CS 2.36

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

- 1) 村田一知朗: ネスプ注射液プランシリンジ特定使用成績調査 保存期慢性腎臓患者における腎性貧血; 平成 23-27 年度; 252 千円: 協和発酵キリン(株)

3) 共同研究

- 1) 村田一知朗: ネスプ注射液プランシリンジ特定使用成績調査 保存期慢性腎臓患者における腎性貧血; 平成 23-27 年度; 252 千円: 協和発酵キリン(株)
- 2) 村田一知朗: リツキサン注使用成績調査(全例調査); 平成 26-29 年度; 129.6 千円: 中外製薬(株)
- 3) 村田一知朗: サムスカ使用成績調査(ADPKD)全例調査; 平成 26-30 年度; 194.4 千円: 大塚製薬(株)
- 4) 村田一知朗: サムスカ使用成績調査(ADPKD)全例調査(追加配分); 平成 26-30 年度; 691.2 千円: 大塚製薬(株)

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

なし

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

村田一知朗：腎臓病予防意識高めて：岐阜新聞(平成 29 年 3 月)

12. 自己評価

評価

CKD(慢性腎臓病)についての啓発について、開業医に対しては 20 余りの医師会で腎臓病の対策と専門医との連携について講演し、保健師、薬剤師、栄養士の各団体での講演では腎臓病における各団体の協力と医師との連携について講演した。また市民に対しては年複数回の市民公開講座開催、イオンモールにおける啓発イベントを 4 か所のモールにて企画開催、年一回の県警でも講演し腎臓病の早期発見治療の必要性を講演してきた。岐阜県民の腎臓病の知識の普及に多少は貢献できたと考える。

現状の問題点及びその対応策

講座ができる前と比較すると開業医における尿検査、クレアチニン等の腎機能の検査の施行率は上昇してきたが、まだ 100%の開業医での実施には至っていない。腎臓専門医への紹介基準に関しても道半ばである。そのため専門医とかかりつけ医の連携が密になるのは今後と考える。また健診における尿潜血、尿蛋白、クレアチニンの検査も数年前は国保であっても 50%ほどであったが、現在はほぼ 100%の市町健診にて実行されるようになっているが、若年者の健診の大部分を占める企業健診いわゆる協会健保での尿潜血、尿蛋白、クレアチニン施行率は低値であり、若年者の健診受診率とともに課題である。今後も健診の受診率の向上とともに腎臓項目の 100%実施にむけ啓発していく必要がある。

今後の展望

今後も腎臓専門医における啓発活動は無駄に透析になっていく県民を減らすためには必要である。また早期発見のためには若年者の健診率の上昇と腎臓項目の 100%実施が不可欠で協会健保及び国(厚労省)の役割は大きいと思われる。また学生健診からの健診データを個人カード等媒体に記録していくことも生活習慣病が今後の医療の根幹となる日本では必要と考える。

(14) 寄附講座「先端画像開発講座」

1. 研究の概要

新たな分子イメージング技術の開発：MRI の感度を劇的に増幅する「超偏極」技術を組み込んだ動的確偏極(DNP: Dynamic Nuclear Polarization)MRI を用いて、新たな代謝イメージング技術の開発に取り組んでいる。本装置により生体内の酸化還元(レドックス)反応を可視化することが可能となり、腫瘍などの組織の代謝情報を可視化するため、従来のMRIやCTにおける形態的な画像診断に比べ、早い画像診断が可能となることが期待でき、これにより抗がん剤や放射線治療における早期薬効評価法への展開が可能となると考えている。またヒト応用を見据え、前臨床試験を実施するための大型 DNP-MRI 装置等の開発やレドックスプローブの開発も行っている。

レドックス代謝イメージングの病態応用：生体内の酸化還元(レドックス)は、生命のホメオスタシスの維持に関わるだけでなく、様々な疾患にも深く関与していることが知られている。我々は、磁気共鳴技術を駆使した生体レドックス分子イメージングを構築し、がんや非アルコール性脂肪肝炎(NASH)などのレドックス解析を進めている。特に NASH においては、DNP-MRI が超早期の病変をミトコンドリア電子伝達系の代謝情報を基に検出できる可能性が示唆されている。また腫瘍においては、放射線治療に伴うミトコンドリア機能変化を DNP-MRI や電子スピン共鳴法(ESR)を用い解析し、放射線治療に伴う生体機能変化の診断・メカニズム解明を進めている。

2. 名簿

特任准教授：兵藤 文紀 Fuminori Hyodo
特任助教： 棚橋 裕吉 Yukichi Tanahashi

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 棚橋裕吉. X線画像のケアに活かせる見る診るポイント ①胸部X線 見る診るポイント V: 気管の偏位: 船曳知弘編. Emergency Care 30巻 9号, 大阪:メディカ出版; 2017年: 20-21.
- 2) 棚橋裕吉. 腹部大動脈瘤, 大動脈解離, 腹部外傷: 山崎道夫編. レジデントのための腹部画像教室, 東京: 日本医事新報社; 2017年: 168-180, 244-254.
- 3) 棚橋裕吉. 画像診断と病理 中枢神経系原発悪性リンパ腫: 画像診断 37巻 14号, 東京: 学研メディカル秀潤社; 2017年: 1422-1423.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

なし

原著 (欧文)

- 1) Eto H, Tsuji G, Chiba T, Furue M, Hyodo F. Non-invasive evaluation of atopic dermatitis based on redox status using in vivo dynamic nuclear polarization magnetic resonance imaging. Free Radic Biol Med. 2017;103:209-215. CS 5.66
- 2) Meenakumari V, Utsumi H, Hyodo F, Jawahar A, Milton Franklin Benial A. Dynamic nuclear polarization studies of nitroxyl spin probes in agarose gel using Overhauser-enhanced magnetic resonance imaging. Magn Reson Chem. 2017;55(11):1022-1028. CS 1.23
- 3) Nishihara T, Kameyama Y, Nonaka H, Takakusagi Y, Hyodo F, Ichikawa K, Sando S. A Strategy to Design Hyperpolarized ^{13}C Magnetic Resonance Probes Using $[1-^{13}\text{C}]\alpha$ -Amino Acid as a Scaffold Structure. Chem Asian J. 2017;12(9):949-953. CS 3.92
- 4) Nakata R, Hyodo F, Murata M, Eto H, Nakaji T, Kawano T, Narahara S, Yasukawa K, Akahoshi T, Tomikawa M, Hashizume M. In vivo redox metabolic imaging of mitochondria assesses disease progression in non-alcoholic steatohepatitis. Sci Rep. 2017;7(1):17170. CS 4.63
- 5) Setoguchi K, Cui L, Hachisuka N, Obchoei S, Shinkai K, Hyodo F, Kato K, Wada F, Yamamoto T, Harada-Shiba M, Obika S, Nakano K. Antisense Oligonucleotides Targeting Y-Box Binding Protein-1

- Inhibit Tumor Angiogenesis by Downregulating Bel-xL-VEGFR2/-Tie Axes. Mol Ther Nucleic Acids. 2017;9:170-181. CS 5.89
- 6) Tanahashi Y, Goshima S, Kondo H, Noda Y, Sakurai K, Kawada H, Kawai N, Furui S, Matsuo M. Additional value of venous phase added to aortic CT angiography in patients with aortic aneurysm. Clin Imaging. 2017;44:51-56. CS 1.12
- 7) Tanahashi Y, Goshima S, Kondo H, Ando T, Noda Y, Kawada H, Kawai N, Kotoku J, Furui S, Matsuo M. Transcatheter Arterial Embolization for Primary Postpartum Hemorrhage: Predictive Factors of Need for Embolic Material Conversion of Gelatin Sponge Particles to N-Butyl Cyanoacrylate. Cardiovasc Intervent Radiol. 2017;40(2):236-244. CS 2.02

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：兵藤文紀，研究分担者：江藤比奈子；学術研究助成基金助成金基盤研究(B)：生体内因性分子をプローブとする磁気共鳴代謝イメージング法の開発；平成 28-30 年度；17,940 千円(6,240：5,980：5,720 千円)
- 2) 研究代表者：藤村由紀(九州大学)，研究分担者：兵藤文紀；学術研究助成基金助成金基盤研究(B)：生体レドックス制御に有効な食品成分コンビネーションの革新的提示・予測法の創出；平成 29-31 年度；900 千円(300：300：300 千円)
- 3) 研究代表者：兵藤文紀，研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：超高感度 MRI を用いた非アルコール性脂肪肝炎の早期精密画像診断法の開発；平成 29 年度；500 千円

2) 受託研究

- 1) 兵藤文紀：非アルコール性脂肪肝炎の早期精密画像診断システムの開発；平成 28-31 年度；15,000 千円(5,000：5,000：5,000 千円)；九州大学

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

なし

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

棚橋裕吉：

- 1) 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会(平成 29 年 9 月，愛媛，ランチョンセミナー「CT ボリュームデータを活用した IVR 術前シミュレーション-Computer aided IR に向けて～IVR simulator の現状と展望～」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

先端画像開発講座は本年度新たに研究室を創設し、2017年内までに DNP-MRI 装置、動物用 MRI 装置、さらには電子スピン共鳴装置を導入・起動し研究体制を構築した。新たな分子イメージング技術の開発においては、生体内のエネルギー代謝を可視化する新たな概念を提唱し、それを実証する研究に着手しており順調に研究を進めている。病態応用に関しては、岐阜大学動物病院や九州大学との共同研究を開始した。放射線に伴うミトコンドリア異常を DNP-MRI で検出できる可能性が示唆され、大型動物を用いた世界初の研究にも着手する計画を進めるなど研究に関して成果を上げてきた。

現状の問題点及びその対応策

昨年度より研究室の立ち上げは順調に進んだものの、実際に研究を進める人員が不足しているため、いくつかの装置はまだ立ち上げ段階であり、複数ある研究課題から研究を絞って進めている状態である。今後は人件費などの予算を獲得し、学術研究員や技術補佐員を雇用するなどスムーズに教育・研究を進める体制を構築する必要があると考えている。

今後の展望

新たな分子イメージング技術の開発においては、現在大型動物用の装置の開発を進めており、本装置を用いた前臨床試験を実施することで、今後のヒト応用に向けた研究が加速すると考えている。またレドックスプローブを用いた研究に関しては、新たな知見が次々と見出されており、新規機能イメージングの概念を創出し、知財の確保と成果発表を行い、画像診断が困難である病気へ展開していきたいと考えている。NASH 病態解析については、引き続き九州大学とも共同研究でメカニズム解明を展開し、代謝イメージング技術に基づく疾患や治療効果の早期画像解析法の創出を目指す。

(15) 寄附講座「周術期女性医師活躍支援講座」

1. 研究の概要

周術期女性医師活躍支援講座の主な研究課題は、麻酔科女性医師における産休育休後のスムーズな復職と育児との両立を可能にする働き方の研究である。女性医師が限られた勤務時間内で活躍し技術維持できる業務内容の検討、およびそれに合わせた臨床研究の計画と実施を目標としている。麻酔・疼痛制御学と共通した研究テーマとしては周術期管理の問題点説明・安全性確立と術後痛を含む難治性疼痛治療の開発であるため、当講座の助教と麻酔・疼痛制御学所属の育児中の女性医師が共同して術後回診チームを創設し、術直後の急性期疼痛や合併症の調査だけでなく、亜急性期（退院時）まで疼痛の推移を調査し対応している。現在は帝王切開術・脊椎手術に関してデータ取集中である。

また、近年注目されている遷延性術後痛に関する予防・治療法の開発のため、全国の大学病院と共同して（当院が研究主機関として）肺悪性腫瘍手術と人口膝関節置換術における遷延性術後痛の前向き観察研究を進めている。

2. 名簿

准教授： 杉山陽子 Yoko Sugiyama
助教： 鬼頭祐子 Yuko Kito

3. 研究成果の発表

麻酔・疼痛制御学参照

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

麻酔・疼痛制御学参照

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

1) 杉山陽子, 曾田 翠：持続硬膜外フェンタニルの鎮痛効果および忍容性に関する研究；2017 年度；
連携型共同研究費 1000 千円

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

麻酔・疼痛制御学参照

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

麻酔・疼痛制御学参照

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

12. 自己評価

評価

大学病院の麻酔科では女性医師が約半数、育児中の女性医師が約 4 分の 1 を占める。その中で今年度育休を取得した女性医師は全員復職できている。遷延性術後痛に関する研究成果および文献考察を日本麻酔科学会のパネルディスカッション、日本ペインクリニック学会のシンポジウムで発表できた。術後回診チームのデータも集積しつつあり今後国内の学会等で発表を計画している。

現状の問題点及びその対応策

本年度（2017 年）に開設された講座であり、また育休取得した女性医師はまず復職後の臨床技術の維持を第一目標として麻酔業務についているため、研究体制が十分整っていないのが現状である。麻酔・疼痛制御学講座と共同した臨床研究の実施を目指している。現時点では術後痛に関する研究として手術患者を対象とした臨床研究を計画・実施し始めているが、女性医師活躍という視点での研究として大学病院や関連病院の女性医師を対象とした研究や調査を検討する必要がある。

今後の展望

術後急性期から亜急性期、慢性期の術後痛を、病棟回診からペインクリニック外来へ切れ目なく診療し、痛みの慢性化の機序解明や予防法、治療法の開発につながるような臨床研究をすすめていく。これをチーム制で行うことにより、育児中の女性医師たちがそれぞれ役割分担することで勤務時間内での研究活動を拡げていく。

(16) 寄附講座「低侵襲がん集学的治療学講座」

1. 研究の概要

固形癌に対する治療成績は、近年加速度的に向上している。その大きな要因として、外科手術の進歩と、切除不能癌に対する薬物療法の進歩が大きな役割を演じている。固形癌の約 90%は何らかの外科治療が施されており、高いレベルでの外科医療の提供が極めて重要であると考えられる。特に、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた外科療法は、拡大視ができ、より緻密な手術が施されるのみならず、何よりも患者さんにとって低侵襲であり、術後の早期の回復が期待され、患者さんに優しい治療の提供が可能となった。

岐阜大学病院では、食道がん、胃がん、大腸がん、肝胆膵領域がんにおいて鏡視下手術を中心とした低侵襲手術を積極的に展開してきた。乳がん領域においては、早期がんへのラジオ波による低侵襲治療を先進医療として展開しつつある。それらの実績は岐阜県のみならず、東海地区においてもトップレベルの症例と手術成績を達成してきた。また、鏡視下手術における臨床研究においても先頭に立ってその普及に貢献している。

一方、がん薬物療法は抗がん剤治療の進歩のみならず、分子標的薬やがん免疫療法薬の発展に至り、標準治療の確立から Personalized Medicine(個別化療法)、さらに Precision Medicine(精密医療)への展開に至り、がん治療成績の向上につながった。岐阜大学病院では、新たな抗がん薬治療の開発や臨床研究・治験を積極的に展開し、世界にその成績を発信している。

低侵襲・がん集学的治療学講座では、早期がんのみならず、進行がんや根治切除不能であった患者さんに、薬物療法や放射線治療などの集学的治療と併せて、低侵襲治療をさらに発展・普及し、がん治療の成績をさらに向上させることを目的としている。その主な役割は、1.ロボット手術を含む鏡視下手術の推進と教育、2.Precision Medicine の展開による集学的治療の推進と教育であり、岐阜地域において高いレベルでの標準化を目指すものである。

鏡視下手術においては、日本内視鏡外科学会における技術認定医制度があり、その手術手技の向上と標準化に務めており、世界的にも注目を浴びている制度である。岐阜大学病院では既に、7人の認定を受けており、岐阜地域の中心となって、若手医師の育成のみならずメディカルスタッフの教育を含むチーム医療の充実に関する任を担い、先進的かつ高品質なシステムの確立とその拡張が期待されている。加えて、難治性癌への対抗措置として、薬物療法奏効後の外科的切除、いわゆる Conversion therapy の標準化に向けた臨床研究や、臨床的外科技能の向上など確固たる基盤をもととした研究を推進することも、大学附属病院としての活動として重要な一翼である。また、新しい最先端治療開発の一環として多数の臨床試験を施行・参加し、新たな治療の EBM の確立に寄与している。いずれの臓器の癌に対しても、基本的に化学療法は国内での全国多施設共同臨床試験や新規治験に協力・登録を行い、新しい治療の開発や EBM の確立に寄与するようにしているが、それ以上に独自性を発揮する場の展開を心がけ、岐阜から世界への発信を目標としている。

本講座の研究内容の概要をまとめると、以下の2点である。

① 鏡視下手術の新たな術式の開発や臨床試験の展開とその体制の構築

当院は、日本内視鏡外科学会が認める技術認定医を岐阜県で最も多くかかえる施設であり、消化器を中心とした各臓器で多くの鏡視下手術を経験している。当該地区の鏡視下手術の普及・均てん化に貢献し、新たな術式の開発・工夫についても学会・論文で発信している。今後さらなる鏡視下手術の発展に向けて、新しくより安全かつ確実な術式の開発や手技の安定化を図ることや、チーム医療において若手医師およびメディカルスタッフを育成していくことが必要であり、それらの推進とその体制作りに取り組む。

② 抗がん剤・分子標的薬・免疫療法薬による外科的治療を含めた集学的治療

がんに対する薬物療法の発展は著しく、さまざまな臨床試験・治験が行われている。しかし、消化器・乳癌を中心とした固形癌では薬物療法のみによる治癒は望めないのが現状であり、新たな薬物治療・新たな併用療法の開発が不可欠である。そのためには、当院の先端医療臨床研究推進センターやがんセンターの協力のもと、岐阜地域で集約した臨床試験・治験を行う研究体制の構築を推進する必要である。同時に、外科的治療を含めた Personalized Medicine(個別化治療)・Precision Medicine(精密治療)といった集学的治療の標準化を目指した治療体系の開発を推進する。

2. 名簿

教授： 山口和也 Kazuya Yamaguchi
講師： 松井聡 Satoshi Matsui

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 山口和也, 吉田和弘. Conversion therapy の意義と conversion による治癒切除後の治療: 考える胃癌化学療法—胃癌化学療法の要点と盲点—, 東京: 文光堂; 2017年: 139-145.
- 2) 吉田和弘, 山口和也, 棚橋利行, 田中善宏, 高橋孝夫, 松橋延壽, 今井寿. IV期胃癌に対する Conversion 手術の治療戦略: Cancer Review 1, 東京: 日経メディカル開発; 2017年: 21-24.
- 3) 吉田和弘, 山口和也, 棚橋利行, 田中善宏, 高橋孝夫, 松橋延壽. Conversion Surgery の定義・特性・意義, 臨床外科 72 卷 10 号, 東京: 医学書院; 2017年: 1166-1170.

著書 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 棚橋利行, 吉田和弘, 山口和也. ぶち助探検隊と巡る消化器の旅! 新人ナースのための消化器外科の解剖生理+疾患イラストブック: 胃消化器外科 NURSING; 2017年; 22 卷(5): 382-391.
- 2) 浅井竜一, 松橋延壽, 高橋孝夫, 田中善宏, 山口和也, 吉田和弘. クロウン病に合併した前立腺浸潤を伴う痔瘻瘻の 1 例: 手術; 2017年; 71 卷(7): 1115-1119.
- 3) 山口和也, 吉田和弘. 平成 28 年度 第 24 回日本外科学会生涯教育セミナー(中部地区)—胃癌—4. 高齢者に対する化学療法の考え方; 日本外科学会雑誌; 2017年; 118 卷(2): 236-238.
- 4) 平田伸也, 松橋延壽, 高橋孝夫, 今井寿, 田中善宏, 山口和也, 長田真二, 吉田和弘. 薬剤性皮膚炎と鑑別困難であった大腸癌皮膚転移の 1 例: 日本消化器外科学会雑誌; 2017年; 50 卷(9): 762-767.

原著 (欧文)

- 1) Matsuhashi N, Yamaguchi K, Okumura N, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Takahashi T, Osada S, Yoshida K. The technical outcomes of delta-shaped anastomosis in laparoscopic distal gastrectomy: a single-center safety and feasibility study. Surgical Endoscopy. 2017;31(3):1257-1263. CS 3.09
- 2) Yamaguchi K, Yoshida K, Tanahashi T, Takahashi T, Matsuhashi N, Tanaka Y, Tanabe K, Ohdan H. The long-term survival of stage IV gastric cancer patients with conversion therapy. Gastric Cancer DOI 10.1007/s10120-017-0738-1 Published on-line 2017. CS 3.99
- 3) Matsuhashi N, Takahashi T, Tomita H, Araki H, Ibuka T, Tanaka K, Tanahashi T, Matsui S, Sasaki Y, Tanaka Y, Okumura N, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Evaluation of treatment for rectal neuroendocrine tumors sized under 20 mm in comparison with the WHO 2010 guidelines. Molecular and Clinical Oncology. 2017;7:476-480.
- 4) Matsuhashi N, Takahashi T, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Osada S, Yoshida K. Safety and feasibility of laparoscopic intersphincteric resection for a lower rectal tumor. Oncology Letters. 2017;14(4):4142-4150. CS 1.60
- 5) Mori R, Futamura M, Tanahashi T, Tanaka Y, Matsuhashi N, Yamaguchi K, Yoshida K. 5FU resistance caused by reduced fluoro-deoxyuridine monophosphate and its reversal using deoxyuridine. Oncology Letters. 2017;14(3):3162-3168. CS 1.60
- 6) Matsuhashi N, Takahashi T, Tanahashi T, Matsui S, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Yoshida K. Laparoscopic Technique and Safety Experience with Barbed Suture Closure in Permanent Stomathrough the Abdominal Wall Route. Clinics in Oncology. 2017;2:1350
- 7) Fujii H, Iihara H, Kajikawa N, Kobayashi R, Suzuki A, Tanaka Y, Yamaguchi K, Yoshida K, Itoh Y. Control of Nausea Based on Risk Analysis in Patients with Esophageal and Gastric Cancer Who Received Cisplatin-based Chemotherapy. Anticancer Research. 2017;37:6831-6837. CS 1.90
- 8) Matsuhashi N, Takahashi T, Matsui S, Tanaka H, Tanahashi T, Imai H, Tanaka Y, Yamaguchi K, Kobayashi K, Suzui N, Miyazaki T, Yoshida K. Malignant Peritoneal Mesothelioma with Production of G-CSF: Case Report and Review of the Literature. Annals of Pharmacology and Pharmaceutics. 2017;2(25):1131.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

山口和也：

- 1) 日本胃癌学会評議員(～現在)
- 2) 日本内視鏡外科学会評議員(～現在)
- 3) 日本胃癌学会総務委員(～現在)
- 4) 日本外科学会試験問題検討小委員(上部消化管分野)(平成 27 年 7 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

山口和也：

- 1) 第 26 回日本癌病態治療研究会(平成 29 年 6 月, 横浜, ワークショップ 1「StageIV 胃癌のカテゴリー分類から導かれる Conversion surgery の位置付け。」発表)
- 2) 第 79 回日本臨床外科学会総会(平成 29 年 11 月, 東京, ワークショップ 18「StageIV 胃癌のカテゴリー分類からみた Conversion therapy の位置付け。」発表)
- 3) 第 55 回日本癌治療学会学術集会(平成 29 年 10 月, 横浜, シンポジウム 8「胃癌腹膜播種に対する Conversion therapy。」発表)
- 4) JDDW2017 第 25 回日本消化器関連学会週間(平成 29 年 10 月, 福岡, パネルディスカッション 6「Conversion therapy の適応を考慮した StageIV胃癌のカテゴリー分類。」発表)
- 5) 第 79 回日本臨床外科学会総会(平成 29 年 11 月, 東京, ワークショップ 18「胃癌 Conversion surgery。」司会)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

腫瘍外科教室とともに実臨床や臨床研究を行っているが、消化器・乳腺疾患症例数はともに増加の一端をたどっている。手術技術およびその内容としても、各疾患・臓器領域への分化により専門グループにおけるレベルの向上がみられており、国内でも充分評価されている。低侵襲手術である鏡視下手術症例数も急増し、癌の根治性のみならず、低侵襲性を追求した手術の確立ができています。当科で教育を受けて内視鏡外科学会技術認定医となった消化器外科医は計 7 人となり、食道・胃・大腸・肝・膵の領域に

においてレベルの高い鏡視下手術を提供している。胃癌では 5 割、大腸癌においては年間手術症例の約 8 割の患者さんに腹腔鏡手術を施行している。また、がん治療における新たなエビデンスを発信することはがん診療の質の向上に必須と考えられ、新規先端治療開発のための臨床試験が全国多施設共同で行われるようになった。腫瘍外科教室では、上部消化管グループ(食道・胃)、肝・胆・膵グループ、下部消化管グループ、乳腺グループにおいて、200 近い臨床試験・治験に参加しており、本講座も同様に協力・参加している。

以上より、消化器・乳腺における悪性腫瘍に対する治療では、岐阜県がん拠点病院である大学病院の一翼を担うべく腫瘍外科学として、その役割を多いに果たしている。

現状の問題点及びその対応策

腫瘍外科教室とともに実臨床、臨床研究、基礎研究を行っているが、臨床面として以下の 3 点をあげる。

- 1) 病床数に制限があり、手術、化学療法に加え緊急入院などにおけるベッドの確保に困窮することが多かったが、病院の方針としてベッドコントロールの工夫により現在次第に改善しつつある。
- 2) 手術症例の増加に伴いみられるようになった手術枠の制限が最も大きな問題点の一つである。当科としては、安全性の確保を重視しつつ手術時間の短縮・手術人員のシフトなどの努力に加え月曜日の手術枠も増加し手術待ち期間は短縮傾向にあるが、まだまだ不十分である。
- 3) 全国的な傾向としてみられる若手医師の外科離れが深刻である。大学病院での標準以上の診療レベルを保ちつつ、一般外科として地域医療への貢献が期待される当科事情から周辺医療圏への人材の供給にも責任を果たす必要があり、現段階では医局員の献身的な努力でこれを補っている。その対応としては研修医師の確保に他ならず、外科医療の利点を説きつつ、現状打開の方策を共に考えていけるよう学生時代からの意識レベルのアップをはかるべく教育にも力を入れている。

今後の展望

消化器・乳腺の悪性腫瘍を中心とした診療が主体となり、岐阜県がん拠点病院である岐阜大学病院として手術症例数を増加させる努力を続けていく方針である。そして、鏡視下手術の手技の安定化、術式開発、普及、教育により、がんの根治性を求めた精度の高い安全な術式が恒常的に岐阜地域に提供されることにつながる。また、体制の構築により常に治療成績向上への検討・工夫がなされ、鏡視下手術の適応拡大を推進することにより、低侵襲という優しい手術が提供される病態が拡大することが期待される。

集学的治療の開発においては、抗癌薬・分子標的薬・免疫治療薬・手術による **Personalized Medicine**(個別化治療)・**Precision Medicine**(精密治療)の標準化への期待から、新たなエビデンスの発信に寄与し、より進行した癌に対する治療成績の向上が図られると考える。

(17) 保健管理センター

1. 研究の概要

- 1) 大学生および大学教職員を対象、フィールドとした健康管理・ヘルスプロモーション(フィジカルヘルス・メンタルヘルス)に関する研究を、本学レベル、全国レベル、国際比較研究レベルで進めている
- 2) ホームレスにおける障害の有病率、それらがホームレス生活に与える影響について研究を行なっている
- 3) 東南アジアにおける精神保健の成熟度を評価する指標を作成している
- 4) 岐阜市糖尿病実態調査、岐阜県における市町の保健データ分析なども行っている

2. 名簿

教授： 山本 眞由美 Yamamoto Mayumi
准教授： 西尾 彰康 Nishio Akihiro
助教： 加納 亜紀 Kanoh Aki
助教： 堀田 亮 Horita Ryo

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 山本眞由美. 第1章 健康診断について, 第3章第3節 実験・実習の安全対策, 第5章第6節 内分泌・代謝の病気, 第6章 日本の医療制度: 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 大学生の健康ナビ—キャンパスライフの健康管理—, 岐阜: 岐阜新聞社; 2015年: 8-14, 54-62, 147-155, 194-198.
- 2) 西尾彰泰. 第4章第5節 ギャンブル依存・インターネット依存, 第4章第7節 ひきこもり/不登校になったら: 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 大学生の健康ナビ—キャンパスライフの健康管理—, 岐阜: 岐阜新聞社; 2015年: 98-101, 108-112.
- 3) 堀田 亮. 第4章第8節 大学生の悩みの特徴と心の相談窓口: 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 大学生の健康ナビ—キャンパスライフの健康管理—, 岐阜: 岐阜新聞社; 2015年: 113-118.
- 4) 山本眞由美. 22 学校保健 教職員の健康管理: 今日の小児治療指針, 東京: 医学書院; 2015年: 780-782.
- 5) 西尾彰泰, 堀田 亮, 山本眞由美製作監修. DVD教材「男性のからだのこと女性のからだのこと」厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」製作, 岐阜: プラド; 2015年.
- 6) 西尾彰泰訳. 性機能不全群: DSM-5 スタディガイド, 東京: 医学書院; 2016年: 230-250.
- 7) 西尾彰泰, 伊藤宗親. アンチストレスぬりえ 心がポジティブになる! デザインパターン, 東京: 美術出版社; 2016年.
- 8) 堀田 亮. 体験の意味づけと PTG: PTG の可能性と課題, 東京: 金子書房; 2016年: 115-116.
- 9) 堀田 亮. 重大なネガティブ体験の意味づけに関する心理学的研究, 東京: 風間書房; 2016年.
- 10) 西尾彰泰. 反社会性パーソナリティー障害: 改訂版精神科・わたしの診療手順, 東京: アークメディア; 2017年: 498-500.

著書 (欧文)

- 1) Yamamoto M. Health Checkups In: The Committee on International Exchange, Japan University Health Association, Japanese National University Council of Health Administration Facilities ed. Health Management on Campus, Gifu: Gifu Shimbun; 2016: 1-11.
- 2) Nishio A. Health damage due to smoking In: The Committee on International Exchange, Japan University Health Association, Japanese National University Council of Health Administration Facilities ed. Health Management on Campus, Gifu: Gifu Shimbun; 2016: 53-62.

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 西尾彰泰, 堀田 亮, 佐渡忠洋, 吉川弘明, 足立由美, 松浦賢長, 猪飼周平, 高田昌代, 林 美美, 加納亜紀, 磯村有希, 山本眞由美. 大学生における結婚, 出産についての意識調査—大学の健康教育で何を教えるべきか? CAMPUS HEALTH 2015年; 52(1): 154-156.
- 2) 岸川秀樹, 中野 功, 馬場久光, 今関文夫, 潤間励子, 鎌野 寛, 木谷誠一, 羽賀将衛, 山本和彦, 宮川八平, 阿部博友, 三宅 仁, 上田孝典, 山本眞由美, 山本祐二, 宮田正和. 「AIDS HANDBOOK 2014」の有用性に関する多施設共同調査, CAMPUS HEALTH 2015年; 52(1): 238-240.
- 3) 佐渡忠洋, 西尾彰泰, 磯村有希, 堀田 亮, 加納亜紀, 高井郁恵, 邦 千富, 神野真子, 堀田容子, 山口美紀,

- 山本眞由美. 大学生の夢見に関する調査研究(第二報)ー夢見頻度と生活習慣との関連ー, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(1): 338-340.
- 4) 堀田 亮, 西尾彰泰, 加納亜紀, 磯村有希, 宮地幸雄, 山本眞由美. K10 と UPI の関連の検討ーより有用なスクリーニングテスト実施のためにー, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(1): 382.
 - 5) 磯村有希, 西尾彰泰, 堀田 亮, 高井郁恵, 邦 千富, 神野真子, 山口美紀, 堀田容子, 加納亜紀, 宮地幸雄, 山本眞由美. 大学生の障害者に関する意識と知識の実態調査, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(1): 455-457.
 - 6) 山本眞由美, 岩崎泰正, 大塚盛男, 河邊博史, 佐藤 武, 鈴木眞理, 立身政信, 富樫 整, 中川 克, 西尾彰泰, 馬場久光, 林多喜王, 守山敏樹, 吉川弘明. 留学生の健康管理に関する全国調査報告ー国際連携委員会・国際交流委員会合同調査ー, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(1): 467-469.
 - 7) 吉川弘明, 足立由美, 宮田正和, 山本眞由美, 守山敏樹, 高橋裕子, 苗村郁郎. 国立大学法人保健管理施設協議会加盟校における食育の実施状況, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(1): 476-478.
 - 8) 堀田 亮, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 加納亜紀, 磯村有希, 宮地幸雄, 山本眞由美. K10 と UPI の関連の検討ーより簡便なスクリーニングテスト実施のためにー, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(2): 119-124.
 - 9) 山本眞由美, 西尾彰泰, 吉川弘明, 中川 克. 米国大学保健管理協会年次集会 2014 に参加してー国際連携委員会からの報告ー, *CAMPUS HEALTH* 2015年; 52(2): 193-198.
 - 10) 山本眞由美. 岐阜大学におけるスモークフリーキャンパス実現への取り組み, *岐阜大学教育推進・学生支援機構年報* 2015年; 1巻: 127-135.
 - 11) 西尾彰泰, 堀田 亮, 佐渡忠洋, 吉川弘明, 足立由美, 松浦賢長, 林 芙美, 山本眞由美. 高校生を対象とした結婚, 出産についての意識調査に関する検討, *東海学校保健研究* 2015年; 39(1): 27-35.
 - 12) 西尾彰泰, 堀田 亮, 佐渡忠洋, 水谷聖子, 渡邊貴博, 松浦健伸, 田村 修, 植原亮介, 山本眞由美. 名古屋市におけるホームレスのメンタルヘルス実態調査ー精神・知的障害がホームレスに至った原因や抜け出せない理由に与える影響ー, *社会医学研究* 2015年; 32(2): 103-110.
 - 13) 西尾彰泰. 名古屋地区のホームレスにおける精神障害・知的障害の有病率に関する調査報告, *民医連医療* 2015年; 518巻: 22-25.
 - 14) 佐渡忠洋, 西尾彰泰, 伊藤宗親, 山本眞由美. 日本で制作されたインクプロット図版の歴史的検討, *ロールシャッハ法研究* 2015年; 19巻: 37-47.
 - 15) 堀田 亮, 杉江 征. 大学生における重大なネガティブ体験についての探索的検討, *健康心理学研究* 2015年; 28巻: 41-46.
 - 16) 加藤典子, 伊藤正哉, 中島 俊, 藤里紘子, 大江悠樹, 宮前光宏, 堀田 亮, 蟹江絢子, 山口慶子, 中川教夫, 堀越 勝, 大野 裕. 不安とうつに対する診断横的認知行動療法の介入要素ー統一プロトコルの介入内容とその理論的背景からー, *認知療法研究* 2015年; 8巻: 239-247.
 - 17) 山本眞由美, 磯村有希, 堀田 亮, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 加納亜紀, 西尾彰泰, 公益社団法人岐阜県栄養士会. 全学生を対象とした栄養個人指導の実施経験, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(1): 196-198.
 - 18) 西尾彰泰, 堀田 亮, 吉川弘明, 松浦賢長, 林 芙美, 猪飼周平, 佐渡忠洋, 加納亜紀, 磯村有希, 山本眞由美. 高校生・大学生の妊娠・出産に関する知識量と DVD 教材視聴による教育効果の検討, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(1): 211-213.
 - 19) 山本眞由美, 西尾彰泰. 学生健康管理システム構築の経験よりー保健管理業務に求められるマネジメント機能ー, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(2): 21-26.
 - 20) 磯村有希, 西尾彰泰, 堀田 亮, 大島由美子, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 加納亜紀, 宮地幸雄, 山本眞由美, 公益社団法人岐阜県栄養士会. 大学生の食生活に関する実態調査, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(2): 97-102.
 - 21) 堀田 亮, 西尾彰泰, 磯村有希, 宮地幸雄, 加納亜紀, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 山本眞由美. 大学生の基礎学力と体重・運動・読書習慣の関連ー2年間の追跡調査を用いてー, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(2): 151-156.
 - 22) 山本眞由美, 西尾彰泰, 守山敏樹, 高橋裕子, 中川 克. 米国大学保健管理協会 年次学術集会(2015年)における成果報告ー国際連携委員会よりー, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(2): 169-174.
 - 23) 堀田 亮, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 中川 克, 山本眞由美. 南フロリダ大学の学生支援: 学生相談室・障害学生支援室の視察報告, *CAMPUS HEALTH* 2016年; 53(2): 175-180.
 - 24) 堀田 亮, 菅原大地, 佐々木恵理, 杉江 征. 自律訓練法には不安低減効果があるのか: 2000年ー2014年の文献のシステマティック・レビュー, *自律訓練研究* 2016年; 35巻: 43-52.
 - 25) 堀田 亮, 西尾彰泰, 船越高樹, 石垣倫子, 岩田英孝, 加藤典子, 服部美和子, 山本眞由美. スキルアップグループセミナーの実践, *岐阜大学教育推進・学生支援機構年報* 2016年; 2: 156-167.
 - 26) 宮地幸雄. 臨床心理士の基本姿勢ー臨床心理士の専門性・独自性についてー, *岐阜大学心理教育相談研究* 2016年; 15巻: 99-114.
 - 27) 堀田容子, 西尾彰泰, 堀田 亮, 磯村有希, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 山口美紀, 宮本由紀子, 大島由美子, 加納亜紀, 山本眞由美. 新入生の健康診断結果における体重と血液検査異常値の頻度についてー男女の比較検討ー, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 121-123.
 - 28) 山口美紀, 西尾彰泰, 堀田 亮, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 堀田容子, 宮本由紀子, 磯村有希, 大島由美子, 加納亜紀, 山本眞由美. 入学時に肥満学生に対する保険指導介入の効果に関する検討ー1年後の体重変化ー, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 124-126.
 - 29) 磯村有希, 西尾彰泰, 堀田 亮, 大島由美子, 高井郁恵, 邦 千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 加納亜

- 紀, 宮地幸雄, 山本眞由美, 公益社団法人岐阜県栄養士会. 食生活に対する大学生自身の自己評価と管理栄養士による客観評価の比較検討, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 219-221.
- 30) 石垣倫子, 西尾彰泰, 堀田 亮, 船越高樹, 川上ちひろ, 磯村有希, 山本眞由美. 大学生に対するヨーガセラピーの効果, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 235-237.
- 31) 西尾彰泰, 堀田 亮, 船越高樹, 石垣倫子, 川上ちひろ, 加納亜紀, 磯村有希, 山本眞由美. 多部局間共同プログラム「スキルアップグループセミナー」の実践報告, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 434-436.
- 32) 加納亜紀, 船越高樹, 山口美紀, 堀田容子, 高井郁恵, 邦 千富, 宮本由紀子, 堀田 亮, 磯村有希, 宮地幸雄, 西尾彰泰, 山本眞由美. ベースメーカー(PM)植込後状態の工学部学生に実施した工学基礎実験履修支援の経験, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(1): 475-477.
- 33) 山本眞由美. 大学国際化と保健管理, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 2-3.
- 34) 西尾彰泰. 留学生家族に関わる各種社会保障制度, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 30-34.
- 35) 山本眞由美. 国際連携委員会の取り組みについて-大学の国際化に対応するために-, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 96-99.
- 36) 堀田 亮, 西尾彰泰, 磯村有希, 宮地幸雄, 加納亜紀, 船越高樹, 山本眞由美. 対処行動エゴグラムを用いた学部新入生のストレス対処行動の実態の検討: 影響因との関係, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 161-166.
- 37) 山本眞由美, 堀田 亮, 高橋裕子, 林 多喜王, 中川 克. 米大学保健管理協会年次集会 ACHA2016 の参加報告, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 258-263.
- 38) 山本眞由美, 堀田 亮, 高橋裕子, 林 多喜王, 中川 克. カリフォルニア大学デービス校の Student Health & Wellness Center と Student Disability Center の視察報告, *CAMPUS HEALTH* 2017年; 54(2): 264-270.
- 39) 堀田 亮, 西尾彰泰, 山本眞由美. 大学生の基礎学力と精神的健康度の関係 -基礎学力の経年変化を中心に-, 学校保健研究 2017年; 59(4): 269-275.
- 40) キャサリン・マカティア, バリー・キーン, 堀田 亮(抄訳). イギリスの大学に設置された学生相談機関のある一日の風景, 学生相談研究 2017年; 38(1): 72-84.

原著 (欧文)

- 1) Nishio A, Yamamoto M, Ueki H, Watanabe T, Matsuura K, Tamura O, Uehara R, Shioiri T. Prevalence of mental illness, intellectual disability, and developmental disability among homeless people in Nagoya, Japan: A case series study. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2015 Sep;69(9):534-542. CS 1.76
- 2) Nishio A, Yamamoto M, Horita R, Sado T, Ueki H, Watanabe T, Uehara R, Shioiri T. Prevalence of Mental Illness, Cognitive Disability, and Their Overlap among the Homeless in Nagoya, Japan. *PLoS One.* 2015 Sep;10(9):e0138052. CS 3.11
- 3) Nishio A, Horita R, Sado T, Ueki H, Mizutani S, Watanabe T, Matsuura K, Tamura O, Uehara R, Yamamoto M. Prevalence of mental illness, intellectual disability, and developmental disability among homeless in Nagoya City, Japan. *Asia-Pacific Psychiatry.* 2015;7:3-5.
- 4) Nishio A, Horita R, Sado T, Ueki H, Mizutani S, Watanabe T, Matsuura K, Tamura O, Uehara R, Yamamoto M. Relationship between mental illness of intellectual disability and homeless life. *International Federation of Environmental Health.* 2015;S1:147-151.
- 5) Ito M, Horikoshi M, Kato N, Oe Y, Fujisato H, Nakajima S, Kanie A, Miyamae M, Takebayashi Y, Horita R, Usuki M, Nakagawa A, Ono Y. Transdiagnostic and Transcultural: Pilot Study of Unified Protocol for Depressive and Anxiety Disorders in Japan. *Behavior Therapy.* 2016 May;47(3):416-430. CS 3.72
- 6) Nonoyama Y, Yamamoto M, Oba S, Nagata C, Matsui K, Takeda J, Gifu Diabetes Study Group. Negative effect of a previous diagnosis of diabetes on quality of life in a Japanese population: The Gifu Diabetes Study. *Diabetology International.* 2016 June;7(2):148-154. CS 0.58
- 7) Nishio A, Tomokawa S, Kobayashi J, Mizoue T, Horita R, Yamamoto M. Inclusive education in association of Southeast Asian Nations (ASEAN): Literature review from 1995-2015. *School Health.* 2017;13:20-29.
- 8) Nishio A, Horita R, Sado T, Mizutani S, Watanabe T, Uehara R, Yamamoto M. Causes of homelessness prevalence: Relationship between homelessness and disability. *Psychiatry and Clinical Neurosciences.* 2017 Mar;71(3):180-188. CS 1.76

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 福重八恵(阪南大学), 研究分担者: 浅田孝幸(立命館大学), 山本眞由美, 前田利之(阪南大学), 金ジェウク(広島大学); 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 医療におけるサービス品質の測定と品質マネジメントへのフィードバックモデルの研究; 平成 25-27 年度; 3,700 千円(1,100 : 1,600 : 1,000 千円)
- 2) 研究代表者: 水谷聖子(日本福祉大学), 研究分担者: 長谷川真美(愛知医科大学), 松永昌宏(愛知医科

- 大学), 水谷 勇(神戸学院大学), 西尾彰泰; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 生活困窮者のアクションによる社会困窮支援プログラムの実証; 平成 27-29 年度; 3,700 千円(50:100:100 千円)
- 3) 研究代表者: 溝上哲也(国立国際医療研究センター), 研究分担者: 小林 潤(琉球大学), 神馬征峰(東京大学), 朝倉隆司(東京学芸大学), 西尾彰泰; 国際医療研究開発費国際医療協力研究分野: 新しい国連開発目標に寄与する学校保健の戦略策定に関する研究; 平成 27-29 年度; 9,800 千円(600:500:370 千円)
 - 4) 研究代表者: 西尾彰泰; 岐阜県医師会研究助成金: 路上生活者における精神疾患・身体疾患の有病率と路上生活となった要因に関する調査; 平成 27 年度; 500 千円
 - 5) 研究代表者: 佐々木恵理(岐阜女子大学), 研究分担者: 山本眞由美, 西尾彰泰, 堀田 亮, 磯村有希; 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」平成 27 年度連携型共同研究助成: 女子大学生の首尾一貫感覚(SOC)の特徴-女性の活躍を促進する心理的要因の検討-; 平成 27 年度; 1,083 千円
 - 6) 研究代表者: 堀田 亮, 研究分担者: 山本眞由美, 西尾彰泰, 加納亜紀; 岐阜大学活性化経費(教育): 基盤的能力の根幹を成す自己理解とセルフケア能力の養成教育-全新入生を対象として-; 平成 27 年度; 400 千円
 - 7) 研究代表者: 堀田 亮; 学術研究助成基金助成金研究活動スタート支援: 大学生の基礎学力の実態と経年変化に関わる要因の検討-4 年間の追跡調査を用いて; 平成 26-27 年度; 1,600 千円(1,100:500 千円)
 - 8) 研究代表者: 西尾彰泰, 研究分担者: 丸谷俊之(東京工業大学); 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 発展途上国における地域精神保健の質を評価する方法に関する研究; 平成 28-30 年度; 3,700 千円(1,000:2,200:500 千円)
 - 9) 研究代表者: 丸谷俊之(東京工業大学), 研究分担者: 西尾彰泰, 布施素子(茨城大学), 野崎章子(千葉大学); 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): カンボジアにおける精神科診断分類の背景についての研究; 平成 28-30 年度; 993 千円(300:300:393 千円)
 - 10) 研究代表者: 早川達郎(国立国際医療研究センター国府台病院), 研究分担者: 宇佐美政英(国立国際医療研究センター国府台病院), 佐竹直子(国立精神神経センター), 青木 勉(国保旭中央病院), 西尾彰泰, 丸谷俊之(東京工業大学); AMED 地球規模保健課題解決推進のための研究: 国際保健医療分野におけるメンタルヘルス研究課題の探索のための調査研究; 平成 27-29 年度; 1,280 千円(500:400:380 千円)
 - 11) 研究代表者: 堀田 亮; 学術研究助成基金助成金若手(B): 大学生の心理・精神症状の測定に特化した尺度の標準化と日米比較; 平成 28-30 年度; 2,400 千円(1,000:900:500 千円)
 - 12) 研究代表者: 堀田 亮, 研究分担者: 山本眞由美, 西尾彰泰, 加納亜紀, 舩越高樹; 岐阜大学活性化経費(教育): 基盤的能力の根幹を成す自己理解・自己健康管理能力の養成教育-全新入生を対象として-; 平成 28 年度; 460 千円
 - 13) 研究代表者: 堀田 亮; 学術研究助成基金助成金研究成果公開促進費: 重大なネガティブ体験の意味づけに関する心理学的研究; 平成 28 年度; 1,000 千円
 - 14) 研究代表者: 山本眞由美, 研究分担者: 西尾彰泰, 堀田 亮; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)(一般): 大学生における心身の健康度改善をめざした食育モデルを用いた前向き検証実験; 平成 29-31 年度; 3,500 千円(1,400:500:1,600 千円)
 - 15) 研究代表者: 伊野陽子(岐阜薬科大学), 研究分担者: 加納亜紀, 堺 千紘(岐阜薬科大学), 寺町ひとみ(岐阜薬科大学), 舘 知也(岐阜薬科大学), 野口義紘(岐阜薬科大学); 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」平成 29 年度連携型共同研究助成: 多職種連携による薬局薬剤師の地域住民への健康サポートに関する研究; 平成 29 年度; 1,000 千円
 - 15) 研究代表者: 堀田 亮; 岐阜大学活性化経費(地域連携): いこまいサミット 2017 の開催-様々なニーズのある学生に対する支援体制構築のための地域連携推進をめざして-; 平成 29 年度; 200 千円
 - 16) 研究代表者: 堀田 亮; 岐阜大学活性化経費(教育): ピア・サポーターの養成とピア・サポート活動の展開(岐大生基盤的能力向上特講~共に支え合い、共に学ぶ「ピア・サポート」演習~); 平成 29 年度; 450 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

山本眞由美：

- 1) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)
- 2) 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)
- 3) 日本内分泌学会評議員(～現在)
- 4) 日本内分泌学会監事(平成 29 年 4 月～現在)
- 5) 日本内分泌学会倫理・利益相反委員会 副委員長(平成 29 年～現在)
- 6) 日本内分泌学会教育育成部会 育成委員(平成 29 年～現在)
- 7) 日本内分泌学会生涯教育委員会委員(平成 29 年～現在)
- 8) 日本内分泌学会男女共同参画推進委員会副委員長, 女性医師応援小委員会委員長(平成 29 年～現在)
- 9) 日本臨床栄養学会評議員(～現在)
- 10) 日本病態栄養学会学術評議員(～現在)
- 11) 日本油化学会東海支部常任幹事(～平成 29 年 2 月)
- 12) 日本油化学会第 54 回年会実行委員(平成 27 年)
- 13) 日本糖尿病情報学会評議員(～平成 29 年 8 月)
- 14) 全国大学保健管理協会理事(～現在)
- 15) 全国大学保健管理協会国際連携委員会委員長(～現在)
- 16) 全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会幹事(～現在)
- 17) 第 52 回全国大学保健管理研究集会運営委員会委員(平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月)
- 18) 国立大学保健管理施設協議会理事・副会長(平成 27 年 9 月～現在)
- 19) 国立大学保健管理施設協議会国際交流特別委員会委員長(～現在)
- 20) 国立大学保健管理施設協議会総務企画委員会副委員長(～現在)
- 21) 東海学校保健学会理事(～現在)

西尾彰泰：

- 1) 国際学校保健コンソーシアム事務局(～現在)
- 2) 東海学校保健学会評議員(～現在)
- 3) 全国大学保健管理協会国際連携委員会委員(～現在)
- 4) 全国大学メンタルヘルス学会理事(～現在)

堀田 亮：

- 1) 日本自律訓練学会評議員・広報委員(平成 27 年 10 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

山本眞由美：

- 1) 第 88 回日本内分泌学会学術総会(平成 27 年 4 月, 東京, シンポジウム「女性医師専門医育成・再教育委員会企画: 思春期の内分泌的課題」座長)
- 2) 第 53 回全国大学保健管理協会 関東甲信越地方部会研究集会(平成 27 年 7 月, 東京, シンポジウム「よくある健診結果の事後処理について 4)体重結果の事後措置ー肥満を中心にー」シンポジスト)
- 3) 第 53 回全国大学保健管理研究集会(平成 27 年 9 月, 盛岡, 教育講演「大学の国際化と保健管理」演

者)

- 4) International congress ecology and evolution of global communicable diseases(平成 28 年 3 月, Quito, Ecuador, 国際学会招聘講演「Effective infection control and surveillance in border communities.」演者)
- 5) 第 89 回日本内分泌学会学術総会(平成 28 年 4 月, 京都, シンポジウム「JES We Can」座長)
- 6) 第 34 回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー(平成 28 年 7 月, 福岡・長崎, シンポジウム講演「JES We Can(日本内分泌学会)と WE(米国内分泌学会)の国際交流」演者)
- 7) 第 34 回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー(平成 28 年 7 月, 福岡・長崎, 「JES We Can 企画シンポジウム」総合司会)
- 8) 第 16 回日本糖尿病情報学会年次学術集会(平成 28 年 9 月, 鈴鹿, シンポジウム「エビデンスに基づいた食事療法」座長)
- 9) 第 55 回全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会研究集会(平成 29 年 7 月, 金沢, パネルディスカッション「大学国際化によって変わるヘルスサポート」パネリスト・司会者)

堀田 亮 :

- 1) 第 39 回全国大学メンタルヘルス学会総会(平成 29 年 12 月, 刈谷, シンポジウム「学生支援に内包される発達障害学生支援」シンポジスト)
- 2) 第 50 回全国 1 学生相談研究会議(平成 29 年 1 月, 大分県速見郡, シンポジウム「若手カウンセラーから見る現代の学生とこれからの学生相談」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 山本眞由美 : 国立大学法人岐阜大学優秀教員表彰(平成 27 年度)
- 2) 堀田 亮 : 第 53 回全国大学保健管理研究集会優秀演題賞(平成 27 年度)
- 3) 磯村有希 : 第 53 回全国大学保健管理研究集会優秀演題賞(平成 27 年度)

9. 社会活動

山本眞由美 :

- 1) 岐阜県大学保健管理研究会会長(~現在)
- 2) 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員長(~現在)
- 3) 岐阜県医師会男女共同参画委員会委員(~現在)
- 4) 岐阜県医師会大学医師会代議員(~現在)
- 5) 岐阜県糖尿病対策推進協議会幹事(~現在)
- 6) 岐阜県糖尿病対策推進協議会世界糖尿病デー記念事業「糖尿病県民セミナー」ワーキンググループ委員(~現在)
- 7) 岐阜県糖尿病対策推進協議会「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」ワーキンググループ委員(~現在)
- 8) 岐阜県食育推進会議委員(~現在)
- 9) 一般社団法人岐阜医学研究協議会専務理事(~現在)
- 10) 岐阜県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員(~現在)

西尾彰泰 :

- 1) 岐阜県ひきこもり地域支援連携会議議長(~現在)

堀田 亮 :

- 1) 岐阜大学活性化経費(地域連携)事業シンポジウム「発達障害学生支援における大学と地域の連携体制構築をめざして」主催(平成 29 年 9 月)

10. 報告書

- 1) 山本眞由美 : 若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究 : 平成 25-26 年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業総合研究報告書 : 1-187(平成 27 年 3 月)
- 2) 山本眞由美 : 若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する

- る研究：平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業総括・分担研究報告書：1-164(平成 27 年 3 月)
- 3) 佐渡忠洋, 堀田 亮, 西尾彰泰：結婚と子ども持つことを望む高校生および大学生の心理－質問紙結果から－：平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業総括・分担研究報告書：98-105(平成 27 年 3 月)
 - 4) 西尾彰泰, 堀田 亮, 佐渡忠洋：高校生と大学生における結婚, 挙児希望に関する意識調査－高校生と大学生で異なるか？－：平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業総括・分担研究報告書：82-90(平成 27 年 3 月)
 - 5) 堀田 亮, 佐渡忠洋, 西尾彰泰：高校生・大学生の妊娠・出産に関する知識量と教育用 DVD「知っていますか？男性のからだのこと, 女性のからだのこと－健康で充実した人生のための基礎知識－」の視聴効果：平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業総括・分担研究報告書：144-152(平成 27 年 3 月)
 - 6) 山本眞由美：大学の保健管理担当職という誇らしい仕事と役割：全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書 保健管理担当職研究会：5(平成 27 年 3 月)
 - 7) 山本眞由美：私は社会でこう生きてきた：未来を切り開き明日にはばたく－2014 キャリア・就職白書 岐阜大学：54-55(平成 27 年 3 月)
 - 8) 赤羽貴美子, 草田典子, 村上雅子, 脇 昌子, 山本眞由美：女性医師専門医育成・再教育(Jes We Can) 便り－JES We Can 支部会活動報告：日本内分泌学会雑誌 Vol.91：23-24(平成 27 年 4 月)
 - 9) 山本眞由美：平成 26 年度第 62 期卒業生を祝う会開催報告：岐阜大学医学部記念会館だより第 107 号：33(平成 27 年 6 月)
 - 10) 山本眞由美：女性医師専門医育成・再教育(Jes We Can)便り－Women in Endocrinology 2015 の報告：日本内分泌学会雑誌 Vol.91：69-70(平成 27 年 10 月)
 - 11) 西尾彰泰：ひきこもり／不登校に対する支援：全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会報告書 2015：22-23(平成 28 年)
 - 12) 丸谷俊之, 西尾彰泰：中部アフリカ・ガボン共和国の精神科医療：精神医学 58(4)：327-329(平成 28 年 2 月)
 - 13) 山本眞由美：日本の健康増進につながる今の研究にやりがい：文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」女性研究者ロールモデル集：7(平成 28 年 3 月)
 - 14) 山本眞由美：大学の国際化と保健管理：CAMPUS HEALTH 53(1)：57-60(平成 28 年 3 月)
 - 15) 堀田 亮, 西尾彰泰, 磯村有希, 宮地幸雄, 加納亜紀, 高井郁恵, 邦千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 山本眞由美：大学生の基礎学力の実態と生活習慣との関連：2 年間の追跡調査を用いて：CAMPUS HEALTH 53(1)：123(平成 28 年 3 月)
 - 16) 磯村有希, 西尾彰泰, 堀田 亮, 高井郁恵, 邦千富, 野邑真子, 堀田容子, 山口美紀, 加納亜紀, 宮地幸雄, 山本眞由美, 公益社団法人岐阜県栄養士会：大学生の食生活に関する実態調査：CAMPUS HEALTH 53(1)：187(平成 28 年 3 月)
 - 17) 山本眞由美：平成 27 年度第 63 期卒業生を祝う会開催報告：岐阜大学医学部記念会館だより第 110 号：33-35(平成 28 年 5 月)
 - 18) 佐々木恵理, 山本眞由美, 西尾彰泰, 堀田 亮, 磯村有希：平成 27 年度連携型共同研究成果紹介「女子大学生の首尾一貫感覚(SOC)の特徴－女性の活躍を促進する心理的要因の検討－」：文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト通信(<https://diversity.gifu-u.ac.jp>)No.2：2(平成 28 年 6 月)
 - 19) 西尾彰泰：世界の現場で見えてきたこと－フィールドワーカーが見た”学校保健” 第 10 回カンボジアの学校保健：健 527(5)：74-75(平成 28 年 7 月)
 - 20) 山本眞由美：「Women in Endocrinology の 40 年に渡る歴史」第 89 回日本内分泌学会学術総会(於：京都)における招聘講演記録：日本内分泌学会会員ページ(https://plaza.umin.ac.jp/~endosoc/cgi-bin/login_02.cgi?link131,link00)(平成 28 年 7 月)
 - 21) 山本眞由美：ヘルスサポート事業 支援・評価委員も応援しています：岐阜の国保 No.323：5(平成 28 年 10 月)
 - 22) 堀田 亮, 西尾彰泰, 磯村有希, 宮地幸雄, 加納亜紀, 船越高樹, 山本眞由美：学部新入生のストレス対処行動の実態とその影響因：対処行動エゴグラムを用いた検討：CAMPUS HEALTH54(1)：409(平成 29 年 3 月)
 - 23) 堀田 亮：若手カウンセラーから見る現代の学生とこれからの学生相談：第 50 回全国学生相談研究

会議(別府湾シンポ)報告書：10(平成 29 年 3 月)

- 24) 山本眞由美：女性医師専門医育成・再教育(JES We Can)便りー日本医師会 女性医師支援センター 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会の報告：日本内分泌学会雑誌 JES News 93:58-59(平成 29 年 4 月)
- 25) 山本眞由美：平成 28 年度第 64 期卒業生を祝う会開催報告：岐阜大学医学部記念会館だより第 113 号：27-29(平成 29 年 5 月)
- 26) 山本眞由美：外国人留学生・研究者に向けた対応：岐阜大学国際交流年報 JES News 2016 vol.2：50(平成 29 年 6 月)
- 27) 山本眞由美：福島県「県民健康調査」甲状腺検査説明医師支援の報告：日本内分泌学会雑誌 93：114-115(平成 29 年 10 月)
- 28) 山本眞由美：Women in Endocrinology (WE) 2017 年年次集会とディナーパーティーの報告：日本内分泌学会雑誌 JES News 93：115-117(平成 29 年 10 月)
- 29) 西尾彰泰, 友川 幸, 小林 潤, 溝上哲也, 堀田 亮, 山本眞由美：「School Health」掲載論文の抄録：学校保健研究 59：382(平成 29 年 12 月)

11. 報道

- 1) 山本眞由美：岐阜大生の食生活管理栄養士が指導 ー全員対象に始めるー：中日新聞(2015 年 2 月)
- 2) 山本眞由美：学生の健康サポートー県大学研究会 啓発本を発行ー：岐阜新聞(2015 年 3 月)
- 3) 山本眞由美：海外医療見て学んでー岐阜大 米・大学院教授講演：中日新聞(2015 年 4 月)
- 4) 堀田 亮：研究室から 大学はいま：岐阜新聞(2015 年 5 月)
- 5) 西尾彰泰：名古屋のホームレス 6 割が「心の病」：毎日新聞(2015 年 6 月)
- 6) 山本眞由美：岐阜大学保健管理センター 学生相談対応者研修会(FD/SD)を開催：文教ニュース(2015 年 8 月)
- 7) 山本眞由美：岐阜大, 学生相談対応者研修会を開催：文教速報(2015 年 8 月)
- 8) 山本眞由美：健康増進月間特集 健診の重要性を専門医に聞く：岐阜新聞(2015 年 8 月)
- 9) 山本眞由美：留学生に健康アドバイス英語版ガイドを刊行：岐阜新聞(2016 年 8 月)
- 10) 山本眞由美：岐阜大が南フロリダ大と部局間交流協定：文教速報(2016 年 11 月)
- 11) 山本眞由美：南フロリダ大と部局間交流協定：文教ニュース(2016 年 11 月)
- 12) 山本眞由美：岐阜大, 学生相談対応者研修会を開催：文教速報(2016 年 7 月)
- 13) 山本眞由美：南フロリダ大と学生交流の協定：中日新聞(2016 年 10 月)
- 14) 山本眞由美：米州立大と交流促進：岐阜新聞(2016 年 10 月)
- 15) 山本眞由美：岐阜大, 学生対象に安全・衛生セミナー：文教速報(2017 年 5 月)
- 16) 山本眞由美：岐阜大 安全・衛生セミナー：文教ニュース(2017 年 5 月)
- 17) 山本眞由美：岐阜大保健管理センターで学生相談対応者研修会：文教速報(2017 年 7 月)
- 18) 山本眞由美：健康づくりフォーラム：岐阜新聞(2017 年 9 月)

12. 自己評価

評価

- 1) 研究成果は確実に蓄積し成果を上げており、国際学会等を含め公表を進めてきた。さらに国際雑誌への公表へつなげたい。
- 2) おおむねデータの論文化は終了した。
- 3) 現在, データが揃いつつあり, 論文化が進んでいるところである。
- 4) 研究成果は上がりつつある。

現状の問題点及びその対応策

センターという性格上, 業務と研究活動の両立については常に悩ましく, 難しい問題である。業務ならびに研究活動の効率化を図り, 成果の向上に努めたい。

今後の展望

- 1) 国際比較研究を含む, スケールの大きい研究対象へと広げていきたい。
- 2) 本研究については, 当初の目標を達成したので一旦終了とするも, 新しい研究フィールド確立への基礎としていく。
- 3) 本研究結果と成果を踏まえて社会実装の段階へ進むために, 現地の対象者に対して, トレーニング

コースを実施する予定である。

- 4) 前向き研究として、今後とも継続してフィールドを大切に、継続的に研究成果を出していきたい。

(18) 生命科学総合研究支援センター（ゲノム研究分野）

1. 研究の概要

ペルオキシソーム病の診断・病態解明・治療法開発（下澤）：細胞内小器官の1つであるペルオキシソームの代謝異常症の研究に長年携わり、国内唯一のペルオキシソーム病（指定難病234）診断センターとして国内外より多くの患者解析依頼を受け、特に副腎白質ジストロフィー（指定難病20）に関しては迅速に診断結果と診療情報を提供して、医療・社会に貢献しています。さらに診断時に同意を得て集積した多くの患者試料を用いて、複数の新規遺伝子病や温度感受性現象の発見、ペルオキシソーム形成異常症では岐阜大学の分類を世界に提唱しています。ペルオキシソームの生体内における機能や病態に関しては、ほとんどが未解明なため、ゲノミクス、プロテオミクスにGC/MS, LC-MS/MSを中心とした生体の代謝産物を解析する“メタボロミクス”も加えた解析システムを構築して単一遺伝子病から生活習慣病にいたるペルオキシソーム代謝疾患の総合研究分野を確立し、難病克服に繋がる研究成果を排出したいと考えています。さらにペルオキシソームは酵母から植物、動物に至るまで広く存在し、共通の生理的機能を有しており、学内外の多くの先生と協力して大型の研究プロジェクトを企画できればと考えています。

植物病原性糸状菌における病原性機構の解明（須賀）：近年、食料の安全性や世界規模で見た場合の食糧不足、農薬の環境への影響が問題化しています。それらを解決するためには作物病害を適切に防ぐことが重要で、特に病原菌の性状について深く理解していることが求められています。本研究室では植物病原菌として良く知られたフザリウム菌のゲノム解析により植物病原性糸状菌における病原性の分子機構ならびに進化機構の解明を目指しています。

ペルオキシソーム病発症機構の基礎生物学的研究（高島）：ペルオキシソーム病は細胞内小器官であるペルオキシソームの異常に起因する遺伝性疾患です。原因となる遺伝子が同定されているものの発症の具体的な細胞内、生体内のメカニズムはわかっていません。ペルオキシソーム病患者に由来する培養細胞の状態を詳しく調べることで病態が発症するに至る細胞生物学的な原因を探っています。一方でペルオキシソーム病は多くの組織、器官に異常が見られる複雑な疾患なため病態を再現する小型脊椎動物（ゼブラフィッシュ、メダカ、マウスなど）を使って組織、器官レベルでの発症機構を明らかにするための研究も行っています。

2. 名簿

教授： 下澤 伸行 Nobuyuki Shimozawa
准教授： 須賀 晴久 Haruhisa Suga
助教： 高島 茂雄 Shigeo Takashima

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 下澤伸行. ペルオキシソーム病(ペルオキシソーム形成異常症). こどもの病気 遺伝について聞かれたら, 東京: 診断と治療社; 2015年: 68-69.
- 2) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー. こどもの病気 遺伝について聞かれたら, 東京: 診断と治療社; 2015年: 137-139.
- 3) 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業「ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班」編. ライソゾーム病・ペルオキシソーム病 診断の手引き. 診断と治療社, 東京: 2015年.
- 4) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー: 尾崎承一編. 難病辞典, 東京: 学研メディカル秀潤社; 2015年: 485-489.
- 5) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 尾崎承一編. 難病辞典, 東京: 学研メディカル秀潤社; 2015年: 490-492.
- 6) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー: 成瀬光栄, 平田結喜緒, 田辺晶代編. 内分泌シリーズ 難治性内分泌代謝疾患 Update, 東京: 診断と治療社; 2015年: 78-80.
- 7) 下澤伸行. ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを中心に): 奥山虎之, 山本俊至編. 遺伝学的検査・診断・遺伝カウンセリングの上手な進めかた, 東京: 診断と治療社; 2016年: 69-73.
- 8) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 別冊日本臨床. 新領域別症候群シリーズ 37 精神医学症候群(第2版) I 東京: 日本臨床社; 2017年: 190-195.
- 9) 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業「ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班」監修. 副腎白質ジストロフィー(ALD)診療ガイドライン 2017. 東京: 日本臨床社; 2017年.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 福田冬季子, 下澤伸行. 特集・第56回日本小児神経学会学術集会 シンポジウム5: 見逃してはならない

- 治療法のある,あるいは今後期待できる小児神経疾患:診断と治療の最前線 序論,脳と発達 2015年;47巻:105.
- 2) 下澤伸行. 特集・第56回日本小児神経学会学術集会 シンポジウム5:見逃してはならない治療法のある,あるいは今後期待できる小児神経疾患:診断と治療の最前線 副腎白質ジストロフィー,脳と発達 2015年;47巻:117-121.
 - 3) 下澤伸行. リレー随想「小児希少疾患の診断と研究の大切さ」,小児科臨床 2015年;68巻:1948-1951.
 - 4) 下澤伸行. 小児希少疾患-診断と難病対策-,小児科臨床 2015年;68巻(増刊号)これからの小児医療:2249-2252.
 - 5) 須賀晴久. *Fusarium fujikuroi* 種複合体のフモニシン生合成遺伝子クラスターの進化:JSM Mycotoxins 2015年;65巻:121-130.
 - 6) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー:小児科診療 特集 先天代謝異常症・エキスパートによる最新情報-2016年;79(6)巻:825-831.
 - 7) 下澤伸行. ペルオキシソーム病 診断と治療の最前線-拡大する疾患概念と副腎白質ジストロフィー-:日本小児科学会雑誌 2016年;120(9)巻:1308-1319.
 - 8) 下澤伸行. ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィー). 小児内科 特集 慢性疾患児の一生を診る 2016年;48(10)巻:1431-1434.
 - 9) 下澤伸行. ペルオキシソーム病:小児内科 48 増刊号,小児疾患診療のための病態生理 3, 2016年:139-148.
 - 10) 須賀晴久. イチゴ萎黄病菌など分子マーカーによる *Fusarium oxysporum* の分化型・レースの診断法:植物防疫 2016年;70巻:45-49.
 - 11) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー(ALD)新生児マスキングの意義と課題:日本マスキング学会誌 2017年;27(3)巻:239-242.

総説 (欧文)

- 1) Takashima S. *Drosophila* as a Model to Study Intestinal Stem Cells. eLS. Published Online: 16 NOV 2015. DOI: 10.1002/9780470015902.a0022526.

原著 (和文)

- 1) 五十嵐千佳, 浅野雄二, 西岡友樹, 須賀晴久, 百町満朗, 清水将文. ネギ類の混植によるハウレンソウ萎凋病の抑制:日本植物病理学会報 2017年;83巻:87-94.

原著 (欧文)

- 1) Sasai H, Shimozawa N, Kawamoto N, Yamamoto T, Kimura T, Kawamoto M, Matsui E, Fukao T. Successive MRI findings of reversible cerebral white matter lesions in a patient with cystathionine β -synthase deficiency. chondrodysplasia punctata. *Tohoku J Exp Med.* 2015;237:323-327. CS 1.47
- 2) Komatsuzaki S, Ogawa E, Shimozawa N, Sakamoto O, Haginoya K, Uematsu M, Hasegawa Y, Matsubara Y, Ohura T. First Japanese case of Zellweger syndrome with a mutation in PEX14. *Pediatr Int.* 2015;57:1189-1192. CS 0.96
- 3) Rahman MZ, Abdelzahr H, Mingzhu L, Motohashi K, Suga H, Kageyama K, *Pythium rishiriense* sp. nov. from water and *P. alternatum* sp. nov. from soil, two new species from Japan. *FEMS Microbiology Letters* 2015;362:fnv086. CS 1.76
- 4) Rahman MZ, Uematsu S, Kimishima E, Kanto T, Kusunoki M, Motohashi K, Ishiguro Y, Suga H, Kageyama, Two plant pathogenic species of *Phytophthora* associated with stem blight of Easter lily and crown rot of lettuce in Japan. *Mycoscience*, 2015;56:419-433. CS 0.89
- 5) Rahman MZ, Uematsu S, Suga H, Kageyama K, Diversity of *Phytophthora* species newly reported from Japanese horticultural production. *Mycoscience*, 2015;56:443-459. CS 0.89
- 6) Wenzhuo F, Ishiguro Y, Hotta K, Watanabe H, Suga H, Kageyama K, Simple detection of *Pythium irregulare* using loop-mediated isothermal amplification assay. *FEMS Microbiology Letters*, 2015;362:fnv174. CS 1.76
- 7) Tateishi H, Suga H, Species composition, gibberellin production and sensitivity to ipconazole of the *Fusarium fujikuroi* species complex isolates obtained before and after its launch. *Journal of Pesticide Science*, 2015;40:124-129. CS 0.81
- 8) Matsunami M, Shimozawa N, Fukuda A, Kumagai T, Kubota M, Chong PF, Kasahara M: Living-donor liver transplantation from a heterozygous parent for infantile Refsum disease. *Pediatrics*, 2016; 137(6): e20153102. CS 5.09
- 9) Masashi Morita, Shun Matsumoto, Airi Okazaki, Kaito Tomita, Shiro Watanabe, Kosuke Kawaguchi, Daishiro Minato, Yuji Matsuya, Nobuyuki Shimozawa, Tsuneo Imanaka. A novel method for determining peroxisomal fatty acid β -oxidation. *J Inher Metab Dis* 39(5): 725-31, 2016. CS 3.17
- 10) Motobayashi M, Morita D, Kurata T, Shigemura T, Nakazawa Y, Shimozawa N, Inaba Y. Serial Monitoring of Plasma Levetiracetam Levels in a Child With Epilepsy Undergoing Cord Blood Transplantation. *Pediatric Neurology* 2016; 64: e5-6. CS 1.59
- 11) Suga H, Kageyama K, Shimizu M, Hyakumachi M, A natural mutation involving both pathogenicity and peritheciium formation in the *Fusarium graminearum* species complex. G3: Genes, Genomes,

- Genetics 2016; 6:3883-3892. CS 2.19
- 12) Nishioka T, Elsharkawy MM, Suga H, Kageyama K, Hyakumachi M, Shimizu M, Development of culture medium for the isolation of Flavobacterium and Chryseobacterium from rhizosphere soil. Microbes and Environments 2016;31:104-110. CS 2.71
- 13) Hieno A, Naznin HA, Suga H, Yamamoto YY, Hyakumachi M, Specific detection of Type 1 and Type 2 isolates of *Pyrenochaeta lycopersici* by loop-mediated isothermal amplification reaction. Acta Agriculturae Scandinavica Section B: Soil and Plant Science 2016;66:353-358. CS 0.89
- 14) Shigeo Takashima, Kayoko Toyoshi, Takahiro Itoh, Naomi Kajiwara, Ayako Honda, Akiko Ohba, Shoko Takemoto, Satoshi Yoshida, Nobuyuki Shimozawa. Detection of unusual very-long-chain fatty acid and ether lipid derivatives in the fibroblasts and plasma of patients with peroxisomal diseases using liquid chromatography-mass spectrometry. Molecular Genetics and Metabolism 2017: S1096-7192(16): 30180-9. CS 2.84
- 15) Takashima S, Aghajanian P, Younossi-Hartenstein A, Hartenstein V. Origin and dynamic lineage characteristics of the developing Drosophila midgut stem cells. Dev Biol. 2016 Aug 416(2):347-60. CS 2.85
- 16) Aghajanian P, Takashima S, Paul M, Younossi-Hartenstein A, Hartenstein V. Metamorphosis of the Drosophila visceral musculature and its role in intestinal morphogenesis and stem cell formation. Dev Biol. 2016 Dec 1:420(1):43-59. CS 2.85
- 17) Yamashita T, Mitsui J, Shimozawa N, Takashima S, Umemura H, Sato K, Takemoto M, Hishikawa N, Ohta Y, Matsukawa T, Ishiura H, Yoshimura J, Doi K, Morishita S, Tsuji S, Abe K. Ataxic form of autosomal recessive PEX10-related peroxisome biogenesis disorders with a novel compound heterozygous gene mutation and characteristic clinical phenotype. J Neurological Sciences 2017:375:424-429. CS 1.98
- 18) Horikawa Y, Enya M, Yoshikura N, Kitagawa J, Takashima S, Shimozawa N, Takeda J. A first case of adrenomyeloneuropathy with mutation Y174S of the adrenoleukodystrophy gene. Neuro Endocrinol Lett 2017:38(1):13-18. CS 1.09
- 19) Tsuboi T, Tanaka Y, Yoshida Y, Nakamura T, Shimozawa N, Katsuno M. Highly asymmetric and subacutely progressive motor weakness with unilateral T2-weighted high intensities along the pyramidal tract in the brainstem in adrenomyeloneuropathy. J Neurol Sci 2017:381: 07-109. CS 1.98
- 20) Hartenstein V, Takashima S, Hartenstein P, Asanad S, Asanad K. bHLH proneural genes as cell fate determinants of entero-endocrine cells, an evolutionarily conserved lineage sharing a common root with sensory neurons. Dev Biol. 2017 Nov 1:431(1):36-47. CS 2.85
- 21) Tanishima M, Takashima S, Honda A, Yasuda D, Tanikawa T, Ishii S, MaruYama T. Identification of optineurin as an Interleukin-1 receptor-associated kinase 1-binding protein and its role in regulation of MyD88-dependent signaling. J Biol Chem. 2017 Oct 20:292(42):17250-17257. CS 4.17

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：下澤伸行；文部科学省科学研究費基盤研究(B)：網羅的ペルオキシソーム機能解析による神経・代謝性疾患の病態解明；平成 24-26 年度；13,200 千円
- 2) 研究代表者：下澤伸行；文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究：多角的アプローチによる副腎白質ジストロフィーの脱髄発症・病型規定因子の同定；平成 24-26 年度；2,900 千円
- 3) 研究代表者：高島茂雄；文部科学省科学研究費若手研究(B)：ゼブラフィッシュを用いたペルオキシソーム病発症メカニズムの解明；平成 25-27 年度；3,200 千円
- 4) 研究代表者：下澤伸行；平成 27-29 年度 文部科学省科学研究費基盤研究(B) 患者リソースと疾患モデルを融合した副腎白質ジストロフィー病型診断・治療法の創出；平成 27-29 年度；13,000 千円(6,600 千円)
- 5) 研究代表者：下澤伸行；文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究：ペルオキシソーム病患者幹細胞・疾患モデル生物を用いた発生異常・病態解明と創薬研究；平成 27-29 年度；2,800 千円
- 6) 研究分担者：須賀晴久；文部科学省科学研究費基盤研究(B)特設分野研究：根分泌物質への走化性に基づく有用土壌細菌と植物相互作用成立機構の解明；平成 27-30 年度；2,719 千円(但し、平成 27-29 年度分の額)
- 7) 研究代表者：須賀晴久；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)：ムギ類赤かび病菌における新規宿主内伸長遺伝子の解明；平成 28-30 年度；2,826 千円(但し、平成 28-29 年度分の額)
- 8) 研究代表者：高島茂雄；文部科学省科学研究費基盤研究(C)：疾患モデルフィッシュを用いたペルオキシソーム病発病因子の特定と治療法の開発；平成 28-30 年度；3,500 千円(1,600：1,200：700 千円)
- 9) 研究代表者：高島茂雄；一般財団法人越山科学技術振興財団研究助成；平成 28-29 年度；1000 千円
- 10) 研究代表者：高島茂雄；公益財団法人高橋産業経済研究財団研究助成；平成 29 年度；1000 千円

2) 受託研究

- 1) 分担研究者：下澤伸行；厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)：ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究；平成 27-29 年度；2,100 千円
- 2) 研究代表者：須賀晴久；農林水産省委託プロジェクト研究(カビ毒動態と生産低減技術の開発)：イネにおけるフモニシン産生フザリウム菌の実態と生産管理がフモニシン汚染に与える影響の解明；平成 25-29 年度；15,239 千円

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

下澤伸行：

- 1) 日本小児神経学会評議員(～現在)
- 2) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
- 3) 日本先天代謝異常学会評議員(～現在)

須賀晴久：

- 1) 日本マイコトキシン学会幹事(～現在)

2) 学会開催

須賀晴久：

- 1) 日本土壌微生物学会 2016 年度大会 実行委員(2016 年 6 月岐阜大学)
- 2) International Symposium of Mycotoxicology 2016 組織役員(2016 年 12 月東京大学)

3) 学術雑誌

下澤伸行：

- 1) Journal of Human Genetics ; Editorial Board(～現在)
- 2) Brain & Development ; Managing Editor(～現在)

須賀晴久：

- 1) Journal of General Plant Pathology ; Associate Editors(～現在)
- 2) JSM Mycotoxins ; Editors(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

下澤伸行：

- 1) ライソゾーム病に関する調査研究班 市民フォーラム 2015(平成 27 年 1 月, 東京, 「ALD&ペルオキシソーム病の診断ガイドラインから早期診断, 治療に向けて」パネリスト)
- 2) 日本薬学会第 135 年会(平成 27 年 3 月, 神戸, シンポジウム「ペルオキシソームと難治性疾患」ペルオキシソーム機能・代謝異常と疾患, シンポジスト)
- 3) 第 57 回日本先天代謝異常学会・第 13 回アジア先天代謝異常症シンポジウム(平成 27 年 11 月, 大阪, シンポジウム「脳を標的とした先天代謝異常症の治療戦略」副腎白質ジストロフィーの造血幹細胞移植療法の現状と問題点, シンポジスト)
- 4) The 1st International Plasmalogen Symposium. (2016 Nov, Fukuoka. Diagnosis and treatment of Peroxisomal diseases in Japan. Invited speaker)
- 5) 第 119 回日本小児科学会学術集会(平成 28 年 5 月, 札幌, 分野別シンポジウム「先天代謝異常症の早期診断・治療に向けた診療ネットワーク」ペルオキシソーム病の診療ネットワーク. 座長・シンポジスト)
- 6) 第 13 回九州先天代謝異常研究会(平成 28 年 7 月, 福岡, ペルオキシソーム病 -拡大する疾患概念と副腎白質ジストロフィー-, 特別講演)
- 7) 第 21 回日本ライソゾーム病研究会(平成 28 年 10 月 1 日, 東京, 副腎白質ジストロフィー(ALD)診療ガイドライン作成に向けて, 特別シンポジウム, シンポジスト)
- 8) 第 20 回広島先天代謝異常研究会(平成 29 年 2 月, 広島, ペルオキシソーム病 -拡大する疾患概念と

副腎白質ジストロフィー, 特別講演)

- 9) 第 44 回日本マスキリーニング学会(平成 29 年 8 月, 秋田, 副腎白質ジストロフィー(ALD)新生児マスキリーニングの意義と課題, 教育セッション「新分野のマスキリーニング」招待講演)
- 10) 第 271 回 日本小児科学会東海地方会(平成 29 年 10 月, 岐阜, 小児で鑑別すべき重要な代謝性神経疾患-副腎白質ジストロフィーとペルオキシソーム病-, 特別講演)

須賀晴久:

- 1) International Symposium of Mycotoxicology 2016 (平成 28 年 11 月, 東京, The gene polymorphisms involving fumonisin producibility in *Fusarium fujikuroi*. シンポジスト)

高島茂雄:

- 1) 第 42 回日本医用マスペクトル学会年会 (平成 29 年 9 月, 東京, 質量分析を応用したペルオキシソーム病代謝解析法の開発, シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

下澤伸行:

- 1) 岐阜県児童福祉審議会児童処遇専門部会委員(~現在)
- 2) 独立行政法人医薬基盤研究所基礎的研究評価委員会専門委員(~現在)
- 3) NPO 法人「ALD 未来を考える会」顧問医(~現在)

10. 報告書

- 1) 下澤伸行: ペルオキシソーム病診断実績と副腎白質ジストロフィーガイドラインの作成: 平成 27 年度 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業): 「ライソソーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究」(分担研究者). (2016 年 3 月)
- 2) 下澤伸行: ペルオキシソーム病診断実績と副腎白質ジストロフィーガイドラインの作成: 平成 28 年度 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業): 「ライソソーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究」(分担研究者). (2017 年 3 月)

11. 報道

ゲノム研究分野:

- 1) 中学生が DNA 鑑定: 岐阜新聞(2015 年 8 月 10 日)
- 2) コメ DNA を鑑定: 中日新聞(2015 年 8 月 12 日)
- 3) 遺伝子組み換え学ぶ: 中日新聞(2015 年 8 月 19 日)
- 4) 高校生, DNA に驚き: 岐阜新聞(2015 年 8 月 22 日)
- 5) 遺伝子組み換え 器具を使い実験: 中日新聞(2016 年 8 月 20 日)
- 6) 高校生が遺伝子の不思議を学ぶ: ぎふチャン「Station」(2016 年 8 月 18 日)
- 7) DNA を鑑定: 中日新聞(2017 年 8 月 11 日)
- 8) 遺伝子の働き 実験で学ぶ: 岐阜新聞(2017 年 8 月 18 日)
- 9) 遺伝子組み換えを体験: 中日新聞(2017 年 8 月 24 日)

12. 自己評価

評価

医薬獣における基礎と臨床の融合を視野に, 医学部を含めた全学的な研究基盤の整備による岐阜大学の生命科学研究の展開を進めている。また国内唯一のペルオキシソーム病診断研究センターとして全国の医療機関に迅速かつ正確な診断結果を提供するとともに, 患者リソースをもとに国内の研究機関と共同で病態解明・治療法開発研究を行っている。

- 1) ゲノム研究分野における全学的生命科学研究基盤整備: 従来の DNA 受託解析に加えて, 平成 28 年度より RNA 受託解析として RNA の抽出からマイクロアレイ解析を開始している。またゲノム編集技術の学内普及を目的に, 細胞, ゼブラフィッシュなどを用いた疾患モデルの作成から, 動物実験分野と共同でモデルマウスの作成受託も開始している。さらにリアルタイム PCR, 遺伝子導入装置,

質量分析装置 UPLC-MS/MS や、細胞解析装置として共焦点レーザー顕微鏡、セルソーター、セルアナライザー、インセルアナライザーを整備し、講習会、トレーニングコース、技術指導を実施し、より多くの研究者への研究基盤の提供を行っている。

ゲノム研究分野ホームページ参照：<http://www1.gifu-u.ac.jp/~lsrc/dgr/portal/>

- 2) 医学地区への研究基盤の提供：医学部棟 5 階の医学系研究科共通機器センターに DNA シークエンス受託サンプル用の冷蔵庫を設置し、毎朝、サンプルを回収して解析し、翌日午前中には解析結果をファイルサーバーにて提供している。さらに RNA 受託解析では研究室までサンプル回収に伺っている。医学部の DNA シークエンス受託解析数は平成 26 年度 6,016 件、27 年度 9,352 件、28 年度 16,933 件と年々、増加している。また学内で距離的な問題はあるものの、共焦点レーザー顕微鏡、リアルタイム PCR、セルソーター、セルアナライザー、UPLC-MS/MS などゲノム研究棟内にある解析装置を多くの医学部研究者に利用頂いている。
- 3) 医学部・医学系研究科教育への参加：従来のテュートリアル「成育」コースの講義担当に加えて、平成 26 年度よりテュートリアル選択配属に参加し、毎年 3～4 人の医学部生を受入れている。対象はペルオキシソーム病研究だが、将来、どの分野に進んでも役立つよう、分子生物学の基礎的な実験手技から最新の遺伝子解析・ゲノム編集技術の理解・習得を目指して取り組んでいる。また平成 29 年度より生命科学実習の特別講義も担当している。
- 4) 研究・社会貢献としては、指定難病に認定されている副腎白質ジストロフィーとペルオキシソーム病の国内唯一の診断施設として、迅速な診断から最新の医療情報を主治医に提供し、多くの患者の早期治療に繋げている。また厚生労働省難治性疾患克服事業研究班に参画し、概要、診断指針、調査票、ガイドラインの作成に貢献している。また患者会活動にも顧問医として参画している。併せて、多くの患者の試料や疾患モデルを用いて、ゲノム研究棟内にある解析機器を用いて、副腎白質ジストロフィーとペルオキシソーム病病因、病態解明、治療法の開発に関する独自、ならびに共同研究を展開し、その成果を国内外に発信している。さらに平成 29 年度より、生活習慣病における脂質代謝異常の病態解明を目的に、消化器病態学、内分泌代謝病態学との共同研究を開始している。
- 5) 国際貢献としてアジア、アラブ地域におけるペルオキシソーム病診断支援も継続している。

現状の問題点及びその対応策

- 1) 厳しい財政状況下で学内における生命科学の教育研究水準を高度に維持するためには、集約化した施設に設備や大型機器を設置・更新して利用を広げ、学内におけるソフトやハード面での研究情報システムを整備して部局の垣根を越えた全学的な教育研究の推進が望まれる。
- 2) 全学的研究基盤整備に従事しながら研究者としてのモチベーションを保つためには、自らが率先して研究テーマを設定して学内外との共同研究を展開し、大学院も含めた研究者の教育・育成に関わる姿勢が必要と思われる。

今後の展望

- 1) 柳戸地区に医・薬・工・応用生物・獣医が集結した生命科学の拠点形成を目指し、施設、設備、組織を含めて研究しやすい環境を整備しつつ、学内外の共同研究を支援して基礎と臨床の架け橋を目指す。
- 2) 指定難病である副腎白質ジストロフィーとペルオキシソーム病の診断研究拠点として、国内研究者を集結し、チームジャパンとして大型研究費を獲得し、病態解明、治療法の開発を行い、岐阜大学より「ペルオキシソーム」を発信していく。

(19) 生命科学総合研究支援センター（嫌気性菌研究分野）

1. 研究の概要

嫌気性菌研究分野は主にヒト・動物に由来する偏性嫌気性菌（酸素存在が生存に不利に働く細菌）を幅広く扱っている国内で唯一の研究施設である。始まりは我が国における臨床嫌気性菌研究のパイオニアである故鈴木祥一郎、故上野一恵の両岐阜大学名誉教授の業績に対して1978年（昭和53年）に省令設置された医学部附属嫌気性菌実験施設である。初代施設長の故上野一恵教授以来、岐阜大学の特色ある施設として、我が国における臨床嫌気性菌学の発展に寄与してきた。現在では、生命科学総合研究支援センターの一分野として学内外を問わず嫌気性菌の培養、菌株提供、嫌気性菌感染症に関する相談、診断支援、院内感染に関する調査などの支援を行っている他、臨床細菌以外についても、嫌気的環境での実験についてのコンサルテーション、機器の供与、偏性嫌気性菌の分譲等を行い、感染症領域とライフサイエンス研究に関わる嫌気性菌のレファレンスセンター機能を持つ施設として、全国的な支援を行っている。研究面では、臨床微生物学の立場から、嫌気性菌・嫌気性菌感染症に関する研究を進めている。また、系統保存の立場から、嫌気性菌を中心に主に感染症材料からの分離菌の収集・維持を行っている。

2. 名簿

教授： 田中香お里 Kaori Tanaka
助教： 後藤隆次 Takatsugu Goto
助教： 林将大 Masahiro Hayashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 後藤隆次, 田中香お里, 渡邊邦友. ペプトストレプトコッカス科: 新居 志郎(代表)・倉田 毅・林 英生・本田 武司・小田 紘・松本 明編集委員. 病原細菌・ウイルス図鑑. 札幌: 北海道大学出版; 2017年: 313-318
- 2) 田中香お里, 渡邊邦友. フソバクテリア科: 新居 志郎(代表)・倉田 毅・林 英生・本田 武司・小田 紘・松本 明編集委員. 病原細菌・ウイルス図鑑. 札幌: 北海道大学出版; 2017年: 461-465

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 川島千亜紀, 佐久間彩加, 山崎裕貴, 横山明孝, 澤村治樹, 川上徹, 林将大, 田中香お里. 嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌 *Robinsoniella peoriensis* による下腿開放性骨折創部感染症の1例. 日本嫌気性菌感染症学会雑誌, 2016年; 46巻: 75-82.
- 2) 後藤隆次, 森田雄二, 林将大, 田中香お里. メロペネム中等度耐性 *Bacteroides fragilis* GAI92214 株ゲノムライブラリーを用いた新規メロペネム耐性因子の同定, 日本嫌気性菌感染症学会雑誌, 2016年; 46巻: 68-74.
- 3) 佐久間彩加, 川島千亜紀, 山崎裕貴, 横山明孝, 澤村治樹, 川上徹, 林将大, 田中香お里. *Faecalitalea cylindereus* 菌血症の1例. 日本嫌気性菌感染症学会雑誌, 2017年; 47巻: 76-82.

原著（欧文）

- 1) Goto T, Nagano K, Hirakawa H, Tanaka K, Yoshimura F. Draft genome sequence of *Porphyromonas gingivalis* strain Ando expressing a 53-kilodalton-type fimbriin variant of Mfa1 fimbriae. Genome Announcements. 2015;3:e01292-15. CS 0.41
- 2) Sato T, Tomida J, Naka T, Fujiwara N, Hasegawa A, Hoshikawa Y, Matsuyama J, Ishida N, Kondo T, Tanaka K, Takahashi N, Kawamura Y. *Porphyromonas bronchialis* sp. nov. isolated from intraoperative bronchial fluids of a patient with non-small cell lung cancer. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2015;237:31-37. CS 1.47
- 3) Inagaki R, Ninomiya M, Tanaka K, Koketsu M. Synthesis, characterization, and antileukemic properties of naphthoquinone derivatives of lawsone. Chem Med Chem. 2015;10:1413-1423. CS 3.00
- 4) Kato K, Ninomiya M, Tanaka K, Koketsu M. Effects of Functional Groups and Sugar Composition of

- Quercetin Derivatives on Their Radical Scavenging Properties. *Journal of Natural Products*. 2016;79:1808-1814. CS 4.14
- 5) Pardede A, Mashita K, Ninomiya M, Tanaka K, Koketsu M. Flavonoid profile and antileukemic activity of *Coreopsis lanceolata* flowers. *Bioorganic and Medicinal Chemistry Letters*. 2016;26:2784-2787 CS 2.55
- 6) Adfa M, Rahmad R, Ninomiya M, Yudha S, Tanaka K, Koketsu M. Antileukemic activity of lignans and phenylpropanoids of *Cinnamomum parthenoxylon*. 2016; 26: 761-764 CS 2.55
- 7) Goto T, Hirakawa H, Morita Y, Tomida J, Sato J, Matsumura Y, Mitani A, Niwano Y, Takeuchi K, Kubota H, Kawamura Y. Complete genome sequence of *Moraxella osloensis* strain KMC41, a producer of 4-methyl-3-hexenoic acid, a major malodor compound in laundry. *Genome Announcements*. 2016;4:e00705-16. CS 0.41
- 8) Yamakawa H, Hayashi M, Tanaka K, Kuwano K. Empyema due to *Gemella morbillorum* Is Diagnosed by 16S Ribosomal RNA Gene Sequencing and a Phylogenetic Tree Analysis: A Case Report and Literature Review. *Intern Med*. 2015;54(17):2231-4 CS 0.84
- 9) Hata H, Natori T, Mizuno T, Kanazawa I, Ibrahim E, Hayashi M, Miyata M, Fukunaga H, Ohji S, Hosoyama A, Aono E, Yamazoe A, Tsuchikane K, Fujita N, and Ezaki T. Phylogenetics of family Enterobacteriaceae and proposal to reclassify *Escherichia hermannii* and *Salmonella subterranea* as *Atlantibacter hermannii* and *Atlantibacter subterranea* gen. nov., comb. nov. *Microbiol Immunol* 2016; 60: 303–311. CS 1.47
- 10) Ezaki T, Kanzawa I, Hayashi S, Hayashi M, Eldesoky I, Fukunaga H. A cocktail PCR and DNA strip method for quick confirmation of multiple pathogenic factors in BSL3 stock cultures. *Microb. Resour. Syst*. 2016;32:123-131
- 11) Yamakawa H, Hagiwara E, Hayashi M, Katano T, Isomoto K, Otoshi R, Shintani R, Tanaka K. A case of relapsed lung abscess caused by *Eubacterium brachy* infection following an initial diagnosis of pulmonary actinomycosis. *Respiratory Medicine Case Reports*. 2017;22:171-174. CS 0.47

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：後藤隆次，研究分担者：田中香お里；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：新規カルバペネム耐性因子(バクテロイデス・フラジリス由来)の網羅的同定と機能解析；平成 26–28 年度；3,100 千円(1,000：900：1,200 千円)
- 2) 研究代表者：佐藤拓一(東北大学)，研究分担者：田中香お里；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：根管内細菌叢メタゲノム解析に基づく、新しい根尖性歯周炎の臨床診断法の開発；平成 26–28 年度；4,940 千円(2,730：1040：1,170 千円)
- 3) 研究代表者：後藤隆次，研究分担者：田中香お里；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：バクテロイデス・フラジリス由来の新規カルバペネム耐性遺伝子の網羅的発現と機能解明；平成 29–32 年度；3,770 千円(700：700：700：800 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

田中香お里：

- 1) 日本化学療法学会評議員(～現在)
- 2) 日本臨床微生物学会評議員(～現在)
- 3) 日本細菌学会中部支部評議員(～現在)
- 4) 日本嫌気性菌感染症学会幹事(平成 27 年～現在)
- 5) 日本臨床微生物学会検査法マニュアル作業委員会委員(～現在)
- 6) 日本臨床微生物学会学術奨励賞委員会委員(～平成 27 年)

林 将大：

- 1) 日本微生物資源学会理事(平成 26 年～平成 29 年)

2) 学会開催

田中香お里：

- 1) 第 47 回日本嫌気性菌感染症学会(平成 29 年 3 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

田中香お里：

- 1) 日本嫌気性菌感染症学会誌, 編集委員(平成 25 年～現在)
- 2) Anaerobe, Associate Editor(平成 28, 29 年)

林 将大：

- 1) 日本微生物資源学会, 編集委員(平成 26 年～平成 29 年)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

田中香お里：

- 1) 第 45 回日本嫌気性菌感染症学会学術集会(平成 27 年 2 月, 東京, 教育講演「嫌気性菌の分離・同定」演者)
- 2) 第 85 回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第 58 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会(平成 27 年 10 月, 奈良, シンポジウム「嫌気性菌感染症の clinical practice」シンポジスト)
- 3) 第 46 回日本嫌気性菌感染症学会学術集会(平成 28 年 3 月, 長崎, シンポジウム「外科感染症領域」シンポジスト)
- 4) 第 28 回日本臨床微生物学会学術集会(平成 29 年 1 月, 長崎, 日本嫌気性菌感染症学会合同シンポジウム「Antimicrobial stewardship 時代における嫌気性菌の臨床的意義と薬剤耐性嫌気性菌」司会, 基調講演)
- 5) 第 90 回日本細菌学会総会(平成 29 年 3 月, 仙台, シンポジウム「嫌気性病原細菌の up-to-date」シンポジスト)
- 6) 第 65 回日本化学療法学会西日本支部総会・第 60 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 87 回日本感染症学会西日本地方会学術集会(平成 29 年 10 月, 長崎, シンポジウム「嫌気性菌感染症の新展開に向けて—トランスレーショナルリサーチの探求—」シンポジスト)

林 将大：

- 1) 第 88 回日本細菌学会総会(平成 27 年 3 月, 岐阜, ワークショップ「ゲノム解析から得られた種及び属の新しい分類基準」演者)
- 2) 第 27 回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会・第 29 年度 日本薬学会東海支部例会 (平成 29 年 11 月, 鈴鹿市, シンポジウム「創薬・育薬に挑む薬剤師・研究者」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 林 将大：日本微生物資源学会第 22 回大会 ポスター賞(平成 27 年度)

9. 社会活動

田中香お里：

- 1) 岐阜県建築審査会委員(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

前身の医学部附属嫌気性菌実験施設の時代から、臨床嫌気性菌学中心とした研究、診断支援を主体とし、医学教育においては微生物分野のサポートを行っている。組織が移行したことで教室員の減少により、以前に比べ臨床細菌学領域での共同研究が後退している点是否めないが、学内外から依頼のある感染症検体の解析、同定困難菌の同定、薬剤感受性情報の提供を行い、診療支援を続けている。こういった支援は症例報告にもつながっており、一般好気性菌に比べて情報が不足している嫌気性菌感染症の疫学情報、薬剤感受性情報の補完に寄与するものと考えられる。また、医学領域以外への研究サポート、共同研究も少しずつではあるが進めている。このほか、系統保存施設として主要な嫌気性菌、主に感染症から分離された新菌種の標準株を購入し研究用試料、同定の際の比較標準株として保管維持するとともに、分離株の収集・保存に努め、現在までに、広範な菌種をカバーした偏性嫌気性菌の臨床分離株を多数維持しており、多様性の点で国内に類を見ないコレクションと自負している。これらの菌株については、学内外の研究を目的とした分譲依頼に対し無償提供を行っている。

現状の問題点及びその対応策

当分野は学内研究支援センターに所属しているが、特殊な分野であるため実質的な研究、診断支援の需要は学内よりも学外に多い。支援業務はセンターの他分野で主に行っている機器、施設の提供による支援とは性質が異なり、知識、技術、作業を提供する支援が主体となっている。系統保存に加え、これらの支援を安定的提供していくためには、経験を積んだスタッフが業務に従事できる態勢が必須である。これらの支援業務は時間と労力を要する反面、研究に繋がりにくいことから、経験のあるスタッフが少ない状況で教員が支援と研究、教育のいずれも不足なく行っていくのは容易ではない。現状では、支援、研究、教育の何れにおいても限られた範囲でしか実施できていない。このため、教員の指導の下、支援業務に従事できる、高い専門性を有する技術職員の育成と継続的確保が必要である。

今後の展望

臨床嫌気性菌学を行っている国内では希な基礎の講座として、対外的にはレファレンスセンターとしての機能を期待されている。スタッフの努力により、一時期よりレファレンス機能は向上しているが、今後、遺伝資源保存に加え分譲業務の拡充が期待されるなか、これらの機能の安定的な維持と拡充については、厳しい状況にある。当面は現状を維持しながら、機能の拡充に向けての体制作りに努力したい。

(20) 大学院連合創薬医療情報研究科 (医療情報学専攻)

1. 研究の概要

低分子シャペロンを用いたプリオン病治療薬の開発を推進し、PMDA に対する治験相談を行う直前まで研究開発を進めることができた。本化合物のアメリカ合衆国におけるプリオン病治療薬としての物質特許 (US9,809,563 B2) を取得できたため、今後 20 年間有効である。

またその理論的基盤として、低分子の結合に伴うタンパク質天然構造の熱安定性の変化を定式化するとともに、実験的に検証した。これにより、低分子が、どのように蛋白質機能に影響するかを解明できた。

また、プリオン蛋白質研究では、プリオン蛋白質天然構造が、プリオン蛋白質の凝集体 (アミロイド等) 形成に対して抑制的に相互作用することを証明した。

Pygo2 に基づく抗がん剤開発では、合成展開を進め、新規化合物の抗がん効果を確認し、現在、AMED において、開発を推進しているところである。

2. 名簿

教授： 氏名 桑田 一夫 Kazuo Kuwata

助教： 氏名 本田 諒 Ryo Honda

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 西城卓也, 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 吉田素文編. 新しい医学教育の流れ '14 秋, 第 54 回セミナーとワークショップの記録, 名古屋: 三恵社; 2015 年: 1-168.

総説 (和文)

- 1) 桑田一夫. 研究と臨床をつなぐ—プリオン病治療薬開発における基礎から前臨床まで—, 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス 2015 年; 46 巻: 428-432.
- 2) 桑田一夫. 神経変性疾患と 'かたち' の制御, Clinical Neuroscience 月刊 臨床神経科学 言語の起源と脳の進化 2015 年; 33 巻: 962-963.

原著 (和文)

なし

原著 (欧文)

- 1) Kobayashi K, Niwa M, Hoshi M, Saito K, Hisamatsu K, Hatano Y, Tomita H, Miyazaki T, Hara A. Early microlesion of viral encephalitis confirmed by galectin-3 expression after a virus inoculation. *Neurosci Lett.* 2015;592:107-112. CS 2.21
- 2) Hosokawa-Muto J, Yamaguchi KI, Kamatari YO, Kuwata K. Synthesis of double-fluorescent labeled prion protein for FRET analysis. *Biosci Biotechnol Biochem.* 2015;79:1802-1809. CS 1.19
- 3) Oroguchi T, Sekiguchi Y, Kobayashi A, Masaki Y, Fukuda A, Hashimoto S, Nakasako M, Ichikawa Y, Kurumizaka H, Shimizu M, Inui Y, Matsunaga S, Kato T, Namba K, Yamaguchi K, Kuwata K, Kameda H, Fukui N, Kawata Y, Kameshima T, Takayama Y, Yonekura K, Yamamoto M. Cryogenic coherent X-ray diffraction imaging biological non-crystalline particles using the KOTOBUKI-1 diffraction apparatus at SACLA. *J. Phys. B.* 2015;48:184003. CS 1.19
- 4) Honda RP, Xu M, Yamaguchi KI, Roder H, Kuwata K. A native-like intermediate serves as a branching point between the folding and aggregation pathways of the mouse prion protein. *Structure.* 2015;23:1735-1742. CS 4.89
- 5) Ma B, Yamaguchi K, Fukuoka M, Kuwata K. Logical design of anti-prion agents using NAGARA. *Biochem Biophys Res Commun.* 2016;469(4):930-935. CS 2.39
- 6) Sriwilajaroen N, Magesh S, Imamura A, Ando H, Ishida H, Sakai M, Ishitsubo E, Hori T, Moriya S, Ishikawa T, Kuwata K, Odagiri T, Tashiro M, Hiramatsu H, Tsukamoto K, Miyagi T, Tokiwa H, Kiso M, Suzuki Y. A Novel Potent and Highly Specific Inhibitor against Influenza Viral N1-N9 Neuraminidases: Insight into Neuraminidase-Inhibitor Interactions, *Journal of medicinal chemistry,* 2016;26:59(10):4563-4577. CS 5.66
- 7) Ali F, Yamaguchi K, Fukuoka M, Elhelaly AE, Kuwata K, Logical design of an anti-cancer agent targeting the Plant Homeodomain (PHD) in Pygopus2, *Cancer Science,* 2016;107(9):1321-1328. CS 3.82
- 8) Kabir A, Honda RP, Kamatari YO, Endo S, Fukuoka M, Kuwata K, Effects of ligand binding on the stability of aldo-keto reductases (AKR), *Protein Science,* 2016;25(12):2132-2141. CS 2.99
- 9) Kabir A, Endo S, Toyooka N, Fukuoka M, Kuwata K, Kamatari YO. Evaluation of compound selectivity of aldo-keto reductases using differential scanning fluorimetry. *Journal of biochemistry.* 2017 Feb 1;161(2):215-222. CS 2.18

- 10) Endo S, Takada S, Honda RP, Müller K, Weishaupt JH, Andersen PM, Ludolph AC, Kamatari YO, Matsunaga T, Kuwata K, El-Kabbani O, Ikari A. Instability of C154Y variant of aldo-keto reductase 1C3. *Chemico-biological interactions*. 2017 Oct 1;276:194-202. CS 3.26
- 11) Honda RP, Kuwata K. The native state of prion protein (PrP) directly inhibits formation of PrP-amyloid fibrils in vitro. *Scientific reports*. 2017 Apr 3;7(1):562. CS 4.63
- 12) Tahoun A, Masutani H, El-Sharkawy H, Gillespie T, Honda RP, Kuwata K, Inagaki M, Yabe T, Nomura I, Suzuki T. Capsular polysaccharide inhibits adhesion of *Bifidobacterium longum* 105-A to enterocyte-like Caco-2 cells and phagocytosis by macrophages. *Gut Pathogens*. 2017 May 1;9:27. CS 3.12
- 13) Endo S, Xia S, Suyama M, Morikawa Y, Oguri H, Hu D, Ao Y, Takahara S, Horino Y, Hayakawa Y, Watanabe Y, Gouda H, Hara A, Kuwata K, Toyooka N, Matsunaga T, Ikari A. Synthesis of Potent and Selective Inhibitors of Aldo-Keto Reductase 1B10 and Their Efficacy against Proliferation, Metastasis, and Cisplatin Resistance of Lung Cancer Cells. *Journal of medicinal chemistry*. 2017 Oct 26;60(20):8441-8455. CS 6.06
- 14) Yamaguchi KI, Kuwata K. Formation and properties of amyloid fibrils of prion protein. *Biophysical reviews*. 2017 Dec 4. doi:10.1007/s12551-017-0377-0. CS 1.81

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：桑田一夫，研究分担者：鎌足雄司；科学研究費補助金基盤研究(B)：マイクロ流路超高速パルスラベル NMR 装置の開発及びプリオン自己複製過程の解明；平成 26-28 年度；16,510 千円(5,850：5,330：5,330 千円)
- 2) 研究代表者：水澤英洋(国立精神・神経医療研究センター)，研究分担者：桑田一夫；プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班；平成 26-28 年度；1,400 千円(500：500：400 千円)
- 3) 研究代表者：水澤英洋(国立精神・神経医療研究センター)，研究分担者：桑田一夫；プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究；平成 28-29 年度；700 千円(400：300 千円)

2) 受託研究

- 1) 研究代表者：中迫雅由(慶応義塾大学)，研究分担者：山本雅貴，亀島 敬，高橋幸生，難波啓一，桑田一夫，河田康志，松永幸大，池口満徳；独立行政法人理化学研究所 SACLA 共用ビームライン 利用研究課題(重点戦略課題)：SACLA における低温 X 線回折イメージング実験の展開と標準化；平成 24-28 年度；41,030 千円(9,900：9,900：7,700：7,700：5,830 千円)；独立行政法人理化学研究所
- 2) 研究代表者：桑田一夫，PB2 を標的とする抗インフルエンザウイルス薬の開発；平成 27-28 年度；69,000 千円(42,000：27,000 千円)
- 3) 研究代表者：山田正仁(金沢大学医薬保健研究域医学系・教授)，研究分担者：桑田一夫；プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究；平成 28-29 年度；975 千円(975 千円：未定)
- 4) 研究代表者：桑田一夫，研究分担者：水澤英洋，西田教行，三條伸夫，小野文子，柴田宏昭；厚生労働省難治性疾患等克服研究事業：プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発；平成 27-29 年度；398,378 千円(172,148：171,147 千円：55,083 千円)
- 5) 研究代表者：桑田一夫，「橋渡し研究戦略的推進プログラム」Pygo2 を標的とする新規抗がん剤開発；平成 29 年度；2,500 千円

3) 共同研究

- 1) 研究代表者：鈴木正嗣(岐阜大学応用生物科学部 附属野生動物管理学研究センター)，研究分担者：桑田一夫；北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター 特定共同研究：研究課題「人獣共通感染症の診断・予防・治療法の開発研究」；平成 22-27 年度；25,100 千円(18,000：4,000：1,400：700：500：500 千円)；北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター

5. 発明・特許出願状況

- 1) 桑田一夫，福岡万佑子：テトラゾール誘導体及び抗インフルエンザウイルス剤；平成 27 年(特願 2015-10467)
- 2) 桑田一夫，アリ・フェルダウシ：抗がん剤；平成 28 年(特願 2016-20586)
- 3) Kazuo Kuwata：MALEIC ACID SALT OF ANTI-PRION COMPOUND, METHOD FOR PRODUCING THE SAME AND PHARMACEUTICAL COMPOSITION OF THE SAME；Nov. 7, 2017(US 9,809,563 B2)

6. 学会活動

1) 学会役員

桑田一夫

- 1) APPS 2016 President(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

桑田一夫:

- 1) プリオン病治験体制の整備 革新的医療研究開発で挑む神経変性疾患—プリオン病治験体制確立に向けて—(平成 27 年 2 月, 愛知, 招待講演, 座長)
- 2) 新しい in-silico 創薬の方法と実際、一網打尽創薬への挑戦、希少難病治療から始まる真の個別医療の未来へ TRI 講演会(平成 27 年 5 月, 兵庫, 招待シンポジスト)
- 3) Toward the First in Human Clinical Trial of Medical Chaperone for Prion Diseases 第 56 回日本神経学会学術大会(平成 27 年 5 月, 新潟, 招待講演)
- 4) Elucidation of the pathogenic conversion mechanism of a prion protein, diagnosis and treatment 第 15 回日本蛋白質科学会年会(平成 27 年 6 月, 徳島, 特別講演, 座長)
- 5) Therapeutic approaches to prion disease and other neurodegenerative conditions associated with protein misfolding. Toward a first in human trial of a medical chaperone for prion diseases. (平成 27 年 9 月, アメリカ, 招待講演)
- 6) 戦略的 in silico 創薬によるプリオン病治療薬開発 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議(平成 27 年 11 月, 東京, 招待シンポジスト)
- 7) PB2 を標的とする新規抗インフルエンザウイルス薬の開発 第 9 回中部橋渡し研究支援シンポジウム (平成 27 年 12 月, 愛知, 招待講演)
- 8) 統合創薬ソフト NAGARA の開発、論理的創薬機医学の創始、及び論理的医療の実践 インシリコ創薬の展望 2016 年 4 月 15 日 神戸臨床研究情報センター
- 9) Logical design of a therapeutic agent for prion diseases, PRION 2016 Tokyo(平成 28 年 5 月, 東京, 特別講演, 座長)
- 10) プリオン病治療薬の開発 日本アミロイドーシス研究会学術集会(平成 28 年 8 月, 東京, 特別講演)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

桑田一夫:

- 1) 長崎大学客員教授(平成 27 年)
- 2) 東京大学登録研究員(平成 28 年)

10. 報告書

- 1) 桑田一夫:厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)プリオン病に対する低分子シャペロン治療費の開発:平成 24～26 年度総合研究報告書(平成 27 年 3 月)
- 2) 桑田一夫:厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患克服研究事業)プリオン病に対する低分子シャペロン治療費の開発:平成 26 年度総括・分担研究報告書(平成 27 年 3 月)
- 3) 桑田一夫:プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究:平成 26 年度総括・分担研究報告書:91-92(平成 27 年 3 月)
- 4) 桑田一夫:プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究:平成 26 年度委託業務成果報告書:30-31(平成 27 年 3 月)
- 5) 桑田一夫:プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究:平成 27 年度委託業務成果報告書:(平成 28 年 3 月)

- 6) 桑田一夫：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究：平成 27 年度総括・分担研究報告書：91-92(平成 28 年 3 月)
- 7) 桑田一夫：日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業)プリオン病に対する低分子シャペロン治療費の開発：平成 27 年度 総括・分担研究報告書(平成 28 年 5 月)
- 8) 桑田一夫：プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究：平成 28 年度委託業務成果報告書：(平成 29 年 3 月)
- 9) 桑田一夫：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究：平成 28 年度総括・分担研究報告書：91-92(平成 29 年 3 月)
- 10) 桑田一夫：日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業)プリオン病に対する低分子シャペロン治療費の開発：平成 28 年度 総括・分担研究報告書(平成 29 年 5 月)

11. 報道

- 1) 桑田一夫：岐阜大、治験薬製造へ ヤコブ病、来月に設備完成：岐阜新聞(2015 年 2 月 3 日)
- 2) 桑田一夫：プリオン病抑制新薬、岐阜大が世界初の治験：読売新聞(2015 年 2 月 12 日)
- 3) 桑田一夫：プリオン病治験体制テーマ 岐阜大が 14 日シンポ：岐阜新聞(2015 年 2 月 12 日)
- 4) 桑田一夫：プリオン病薬、治験段階に 岐阜大が医薬品製造施設を公開：中日新聞(2015 年 2 月 13 日)
- 5) 桑田一夫：認知症起こす「プリオン病」岐阜大が新薬治験へ：毎日新聞(2015 年 2 月 22 日)
- 6) 桑田一夫：「プリオン病新薬開発桑田シニア教授着々」：朝日新聞朝刊 (2017 年 5 月 4 日)

12. 自己評価

評価

プリオン病の治験薬開発に向けて、大きく前進した。またプリオン病のみでなく、論理的創薬法により、抗がん剤、抗統合失調症薬、抗老化薬などの開発も進めており、論理的創薬法が難治性疾患の克服に役立つことが実証できる段階にまで達した。

現状の問題点及びその対応策

プリオン病が希少疾患であることもあり、実際の治験の実施には、様々の困難が伴う。今後、これらの問題を、全国の主要大学病院との共同により、ひとつずつ克服し、オールジャパン体制で治験に臨みたい。

今後の展望

量子力学に基づく基礎研究から臨床試験にいたるまでの、医薬品・医療機器開発の首尾一貫した開発体制を構築する計画である。